

令和5年度

新入生の生活に関する調査報告書

令和5年10月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の令和 5 年度版です。

調査の目的は、新入学生およびその保護者の大学に対するニーズに関して基礎的な情報を得、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることです。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（新入学生対象調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者対象調査）などがあります。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力してくださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 5 年 10 月 吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学

理事

学生・キャリア支援センター長

新井 由紀夫

令和 5 年度新入生調査報告書のポイント

1. 調査に回答した新入生の 86.4%が「受験時にはお茶大を第一志望」である (p.9)
 - ・受験時には本学を第一志望としていたと回答した割合は、調査開始以降 8 割を下回ったことがないが、学部によって差がみられる。本年度は、文教育学部と生活科学部は 90%を超えている一方で、理学部は 71.2%であった
2. 「大学の授業」を頑張ろうと考えている割合は 98.6%と、例年同様非常に高い
 - ・この 1 年で頑張ろうと思う活動（複数回答）について、「大学の授業」と回答した割合が 98.6%と新入生の授業に対する意欲は例年通り高い (p.12)。一方で「授業や単位」が心配と回答した割合は 67.2%、「授業についていけるか」不安に感じている割合は 77.8%と高い (p.14)
3. 卒業後の進路は民間企業就職希望と大学院進学希望が半々程度 (p.17)
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、民間企業への就職希望者が最多 (56.6%)。一方、「教師などの専門職希望者は調査開始以来最小 (17.6%)
4. 学生寮の認知と入寮希望のばらつき (p.42)
 - ・新入生の学生寮への認知度 (83.1%) は 2017 年以来の最高値を記録。保護者の学生寮への認知度 (71.8%) と入寮希望度 (37.6%) は、過去最高
 - ・新入生と保護者調査の両方において、音羽館の認知度と入寮希望率の上昇が見えた一方で、お茶大 SCC は新入生の入寮希望率が低下し、小石川寮は保護者の入寮希望率が昨年度から変化なし
5. 奨学金等制度の認知の低下 (p.52)
 - ・新入生と保護者の奨学金制度全体への認知度が全 13 年間で最も低い。「みがかずば奨学金」は認知度の低下スピードが緩和傾向。「地方公共団体の奨学金」の認知度と利用希望率が上昇

目次

調査の概要	3
第1章 「新入生調査」の結果	5
(1) 出身高校	5
(2) 家族構成	7
(3) これまでの進路選択や学生生活	8
(4) 大学入学後の生活の予定	10
(5) 将来の進路	17
第2章 「新入生の保護者調査」の結果	21
(1) 家庭の暮らし向き	21
(2) 親の職業・学歴	24
(3) 大学生活の不安・心配事・学生支援活動への期待	27
第3章 新入生および保護者調査の結果—奨学金・学生寮に関するクロス集計—	31
(1) 問題・目的	31
(2) 奨学金に関する結果	31
(3) 学生寮に関する結果	42
(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較	52
第4章 高校時代進路選択の分析結果	57
第5章 考察および今後の課題	65
(1) 令和5年度新入生に関する考察	65
(2) 奨学金と学生寮に関する考察	66
(3) 学生・キャリア支援における課題とその対応	68

付表

1. 調査票（新入生調査）	71
2. 調査票（保護者調査）	82
3. 基礎集計表（新入生調査）	89
4. 基礎集計表（保護者調査）	95

執筆担当者

新井 由紀夫（理事、学生・キャリア支援センター センター長）

担当：はじめに

高崎 美佐（学生・キャリア支援センター 講師）

担当：調査の概要、1章、2章、5章（1）、（3）①②

南 玉瓊（学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー）

担当：3章、4章、5章（2）、（3）③、付表3、付表4

調査の概要

- ・ 目的：
本調査は、入学予定の学生の実情をふまえて有益な学生支援の検討・運用のため、以下の4点で構成し実施している。
 1. 新入生の大学教育や将来への多様なニーズを把握する。
 2. 新入生が予定している標準的な学生生活の状況を把握する。
 3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定し、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
 4. 国立大学入学者の学生生活・家庭・進路などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- ・ 調査時期：2023年2月－4月（回収締切4月7日）

- ・ 調査方法：
質問紙調査票の郵送による送付・返送である。合格者および保護者に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査票返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。

- ・ 分析対象：
分析対象者は、令和5年度学部入学者498名、保護者433名である¹。但し、無回答・非該当の場合など、調査項目によって、サンプル数に多少の違いがある。調査別の詳細は以下の通りである。
 1. 「新入生を対象とした調査（新入生調査）」
令和5年度学部入学者498名。有効回答数442名（入学者のうち88.8%）。

学部別内訳	文教育学部	198名	（入学者220名のうち90.0%）
	理学部	118名	（入学者144名のうち81.9%）
	生活科学部	126名	（入学者134名のうち94.0%）
 2. 「新入生の保護者を対象とした調査（新入生保護者調査）」
令和5年度学部入学生の保護者498名。有効回答数432名（入学者のうち86.9%）。

- ・ 実施主体：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

- ・ 個人情報について：
お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努め、学内の倫理審査も受けている。（詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html> 参照）
調査票は、大学で付けたID番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

¹ 調査票では回答データの使用可否を尋ねる項目を設けているが、本年度はすべての回答者から使用許可を得られたため、返送いただいた回答すべてを分析対象とした。新入生本人のみ回答いただいたケースが14件、保護者のみ回答いただいたケースが5件であった。

【参考文献】

- ・ ベネッセ教育研究開発センター（2009）
「第1回 大学生の学習・生活実態調査報告書[2008年]」
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3161>
 - ・ 電通育英会（2019）
「大学生のキャリア意識調査2019 報告書」
https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/college_career_repo2019.pdf
 - ・ 日本学生支援機構（2022）
「令和2年度 学生生活調査結果」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/_icsFiles/afieldfile/2022/03/16/data20_all.pdf
 - ・ お茶の水女子大学（2022）
「令和4年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ お茶の水女子大学（2021）
「令和3年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ お茶の水女子大学（2020）
「令和2年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ お茶の水女子大学（2019）
「平成31年度 新入生の生活に関する調査報告書」
 - ・ 全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センター（2008）
「全国大学生調査 第一次～第三次調査 基礎集計表」
http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/kiso2008_01.pdf
- 全国大学生協働組合連合会（2022）「第57回 学生生活実態調査の概要報告」
https://www.univcoop.or.jp/press/life/pdf/pdf_report57.pdf

※Web サイトへのアクセス日は2023年8月29日

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生調査（本人）への回答者442名の分析結果について報告する。回答者の学部別の内訳は、文教育学部198名、理学部118名、生活科学部126名である。

(1) 出身高校

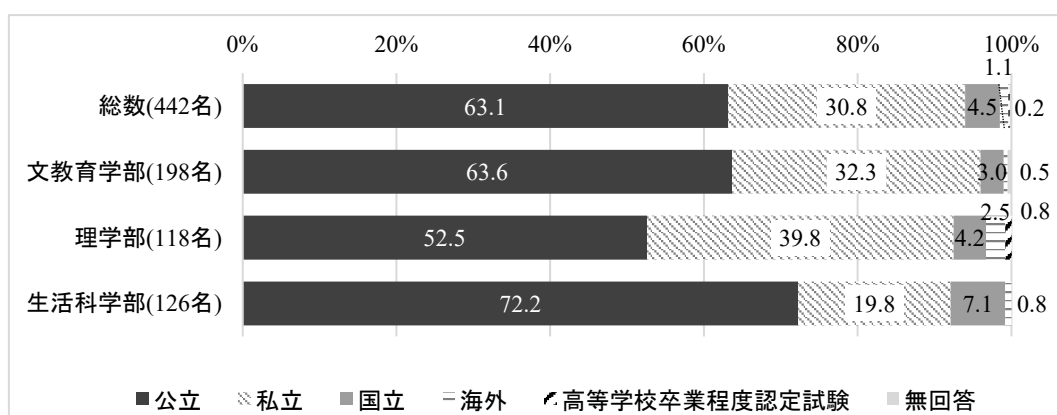
出身高校について①設置者、②種類、③学科、④出身高校の所在地を示す。

① 設置者

図表1-1に出身高校の設置者について尋ねた結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

全体では、「公立」63.1%、「私立」30.8%、「国立」4.5%、「海外」1.1%、「高等学校卒業程度認定試験」0.2%であった。学部別では、生活科学部は「公立」の割合が比較的高く（72.2%）、理学部はほかの2つの学部と比べると「私立」の割合が39.8%と高い。

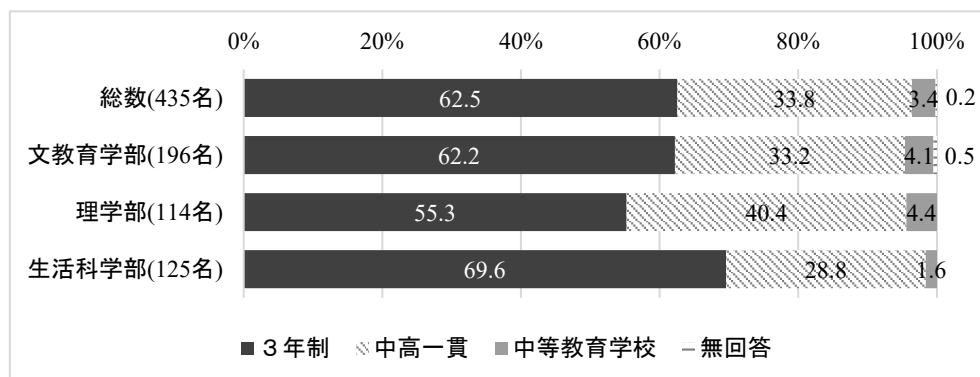
「公立」高校出身者の割合は令和2年度調査以降63.3%、60.0%、57.1%と減少傾向であったが、本年度は63.1%が公立出身者である。生活科学部の公立高校出身者は昨年度65.0%であったが本年度は72.2%と7割を超えた。生活科学部の公立高校出身者の割合は6割程度で推移しており、7割を超えたのは2017年度と本年度の2回である。



図表1-1 出身高校の設置者

② 種類

図表1-2に出身高校の種類について尋ねた結果を示す。

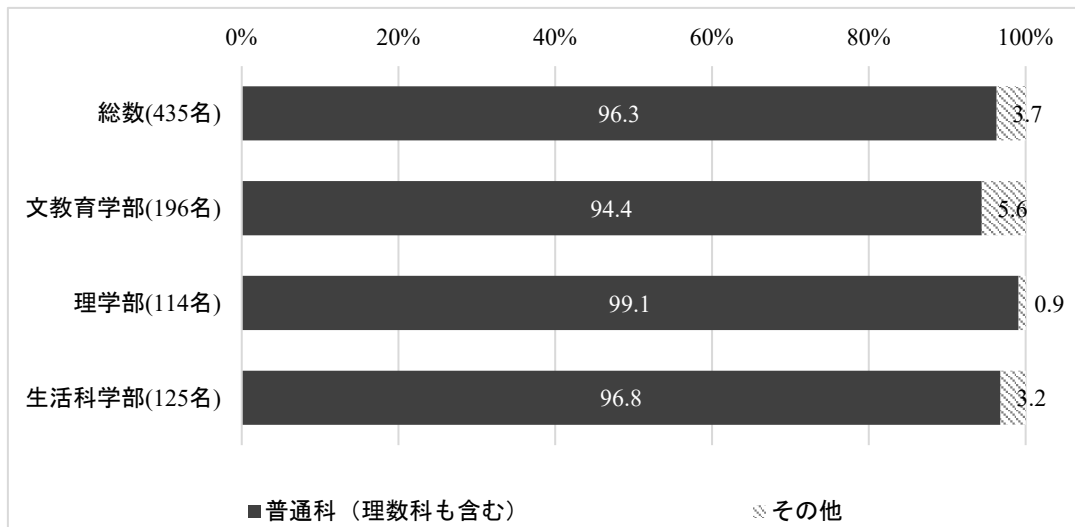


図表1-2 出身高校の種類

全体では、「3年制」が62.5%、「中高一貫」「中等教育学校」を合わせて37.2%と令和4年度と大きな違いはない。学部で比較すると、理学部は、中高一貫出身者の割合が他の2学部に比べると多い。この特徴は、過年度と同様の傾向である。本年度の生活科学部入学者の「3年制」選択割合が多いのは、公立高校出身者が多いこととも関連していると考えられる。

③ 学科

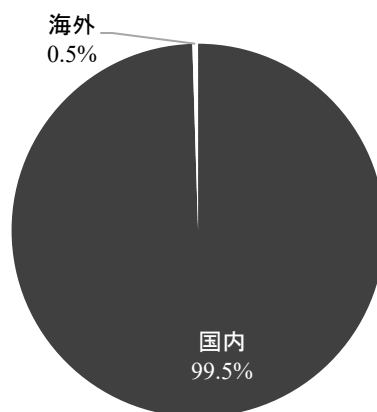
図表 1-3 に出身高校の学科について尋ねた結果を示す。全体の96.3%が「普通科」であり、学部間の差異はない。この傾向は、例年と同様の傾向であった。なお、「その他」には、総合学科（総数の0.9%）が含まれている。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の99.5%が「国内」であった。



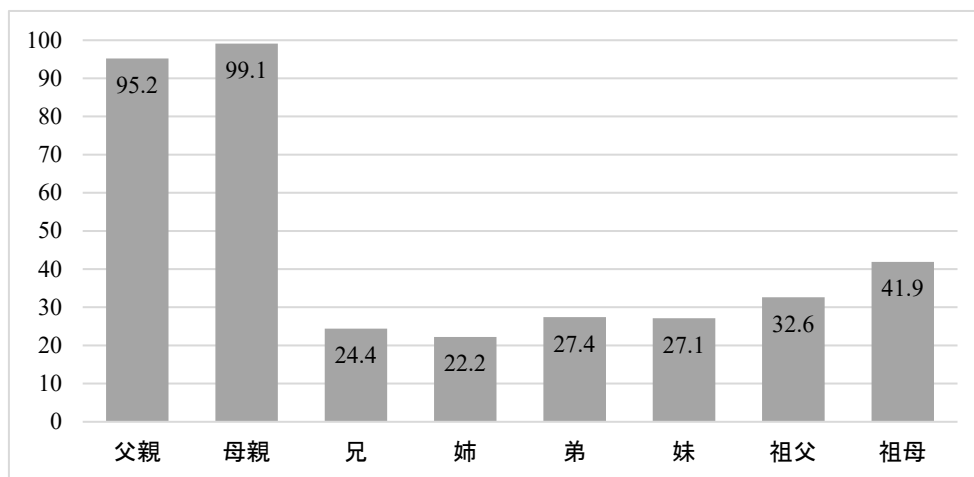
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族の構成

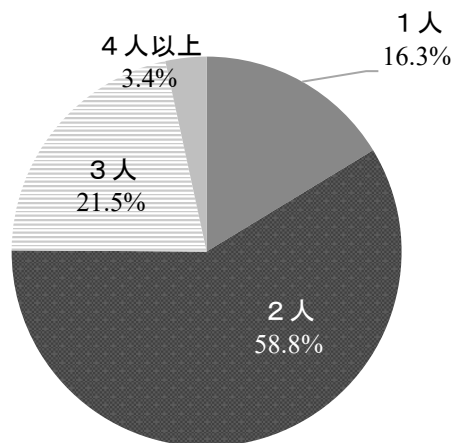
図表 2-1 に新入生の家族の構成について尋ねた結果を示す。家族構成について同居を問わず、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、兄もしくは姉がいると回答した割合が 2 割程度、弟や妹がいると回答した割合が 3 割程度という回答傾向は、近年大きな変化は見られない。



図表 2-1 家族構成

② きょうだい数

図表 2-2 に自分を含めたきょうだい数について尋ねた結果を示す。2 人きょうだいの割合が最も高く(58.8%)、次いで「3 人」と回答した割合が 21.5%であった。



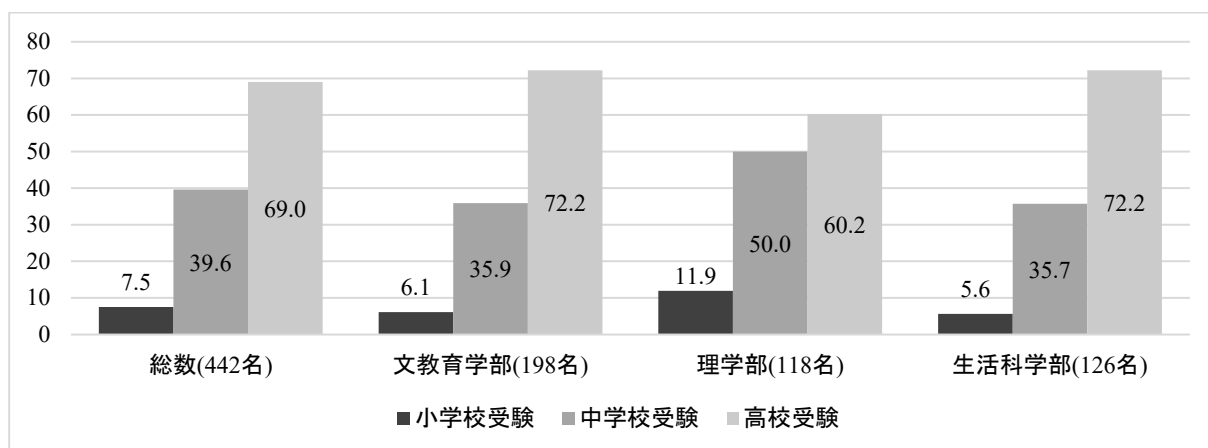
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生の①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

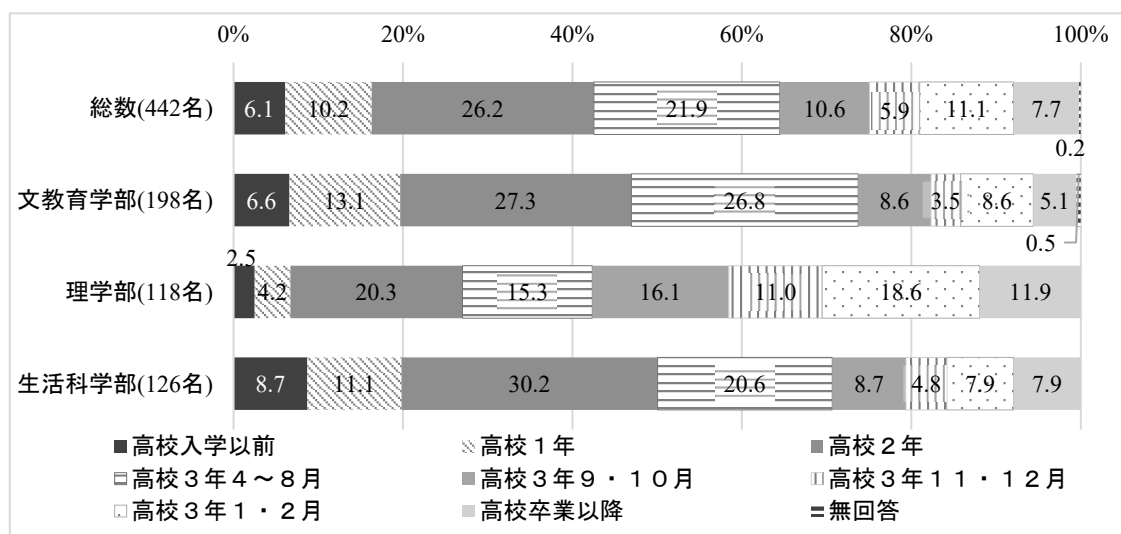
図表 3-1 に、これまでの受験経験について尋ねた結果を示す。全体の 7.5%が小学校受験を、39.6%が中学受験を、69.0%が高校受験を経験していた。1 割に満たないものの小学校受験経験者が存在していることは過年と同傾向である。本年度は中学受験経験割合が 4 割に満たず、高校受験経験者が 7 割近く存在している。出身高校のところで確認したように、本年度は私立の中高一貫校出身者が比較的少ないことが関連していると考えられる。学部別では、他学部に比べると理学部は、小学校受験、中学受験を経験した割合が多い傾向がみられ、この点は近年同様の傾向である



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

図表 3-2 に本学の受験を決めた時期について尋ねた結果を示す。全体では「高校 2 年」26.2%、「高校 3 年 4～8 月」21.9%が比較的多い。このように高校 2 年生から高校 3 年生の 1 学期に本学の受験を決めるという傾向は例年と同様である。学部別では、理学部において「高校 3 年 1・2 月」「高校卒業以降」と回答する割合が 3 割程度と他学部に比べると高い。理学部生の本学受験決定時期が他学部に比べて遅い傾向も例年と同様である。

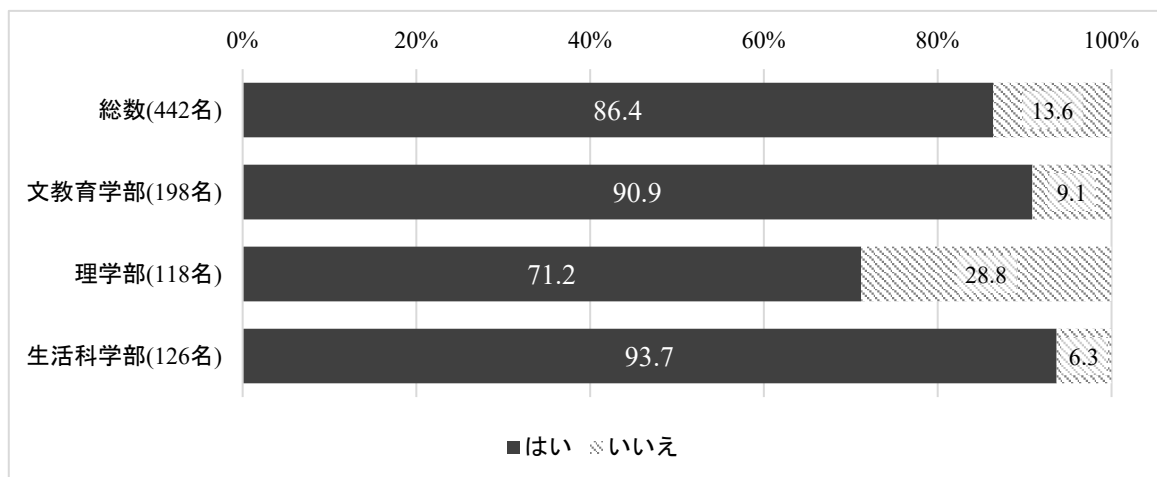


図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体で見ると 86.4% の新入生が「はい」と回答、すなわち本学を第一志望としていることがわかる。令和 3 年度の 88.7%、令和 4 年度の 87.4% と比べると数ポイント下がってはいるが、依然として高い。

学部別には、文教育学部、生活科学部は 9 割超である一方で、理学部は 71.2% と少し低めである。このように第一志望で入学した学生の割合が文教育学部と生活科学部に比べると多少低めであるという理学部の傾向は近年同様である。なお、理学部の第一志望割合が本調査開始以降で最も低かったのは 2018 年度入学者の 70.5% である。本年度はそれと同等である。

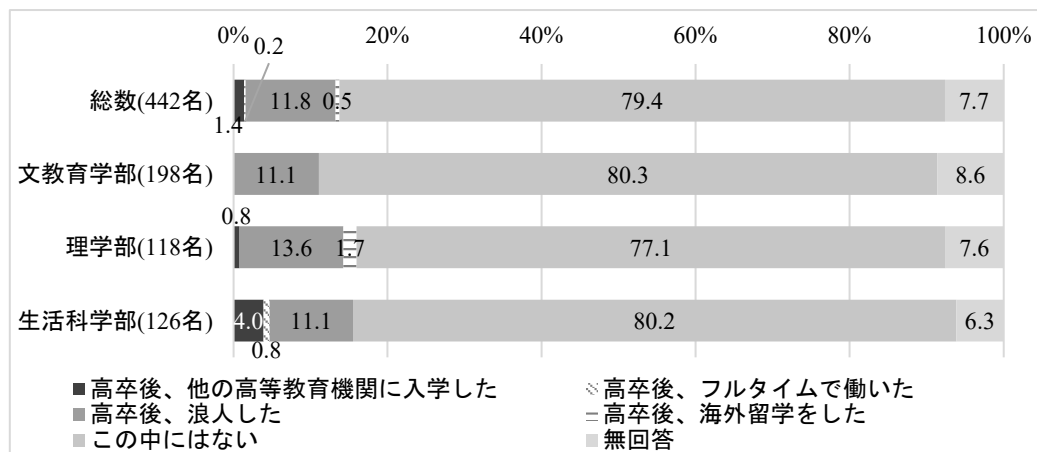


図表 3-3 本学の第一志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

図表 3-4 に、高校卒業から現在までに経験したことについて「大学生の学習・生活実態調査」(ベネッセ教育開発センター 2009) を参考に、複数回答可として尋ねた結果を示す。

過年度と同様「この中にはない」、つまり高校卒業後すぐ本学に入学した者が全体の 79.4% と最も多い。令和 5 年度入学者に占める浪人生の割合は、11.8% であった。昨年の 9.4% と比較すると 1.6 ポイントの増加ではあるが、調査開始から本年度までの入学者に占める浪人生の割合は 13.6% であることを踏まえると、今年の入学者が特に多いというわけでもない。ただし、全体の 1 割弱が無回答であることには留意が必要である。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

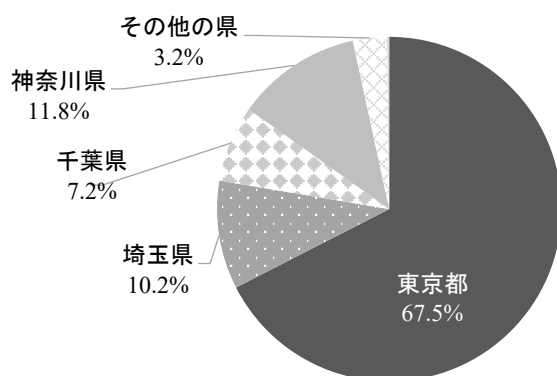
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定について尋ねた結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1か月の家賃の予算、④1か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

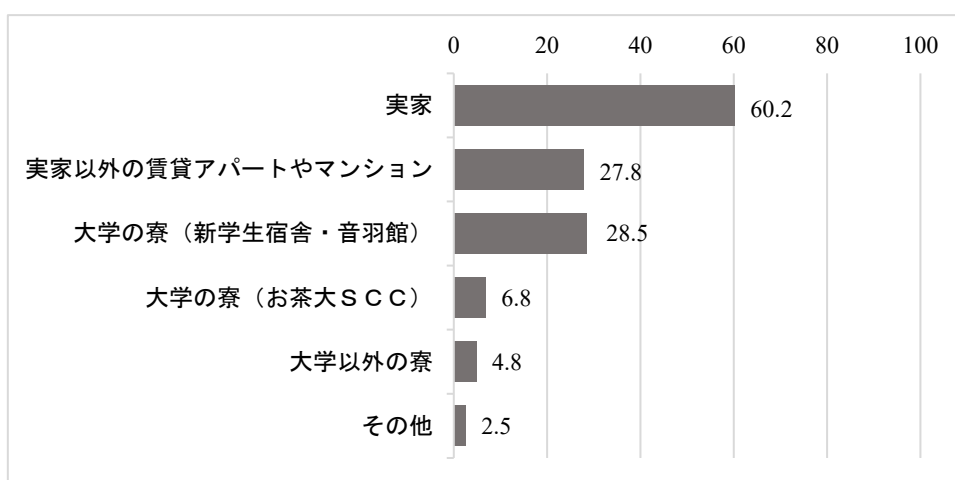
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について尋ねた結果を示す。全体では、東京都に居住予定の者が 67.5%と最も多く、神奈川県、埼玉県、千葉県と続く。この傾向は例年と同様である。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

図表 4-2 に、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果を示す。全体では「実家」が 60.2%を占め、「賃貸アパートやマンション」27.8%、「新学生宿舎・音羽館」28.5%、「お茶大 SCC」6.8%といった学生寮が続く。「実家」から通学する予定の学生が多いという傾向は過年度と同様である。新入生の3割近くが2022年4月大学敷地内に開寮された音羽館に居住することを希望している²。



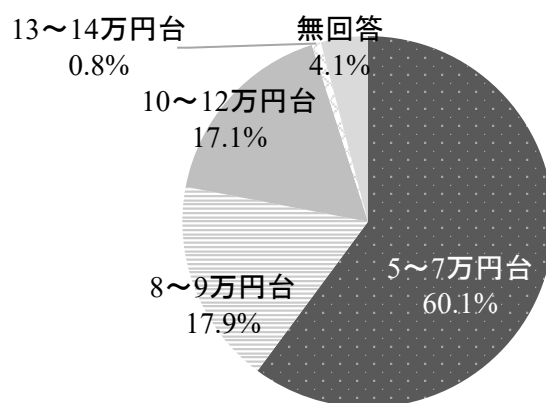
図表 4-2 大学入学後に予定している住居

² 大学の寮（新学生宿舎・音羽館）と実家以外の賃貸アパートやマンションの両方に回答したケースが 63 名存在している。

この質問は複数回答可としているため³、「実家」と「音羽館」をともに選択しているケースや「音羽館」と「実家以外の賃貸アパートやマンション」をともに選択しているケースがある。つまり、図表 4-2 の 60.2%は実家から通うことが確定している割合ではない。このため、実家のみを選択したケースを「実家から通学する者」とし、再度集計を行った。その結果、「実家から通学する者」は⁴は 54.8% (242 名) であり、「実家以外で居住することを想定している者」は 45.2% (200 名) であった。また、「実家以外で居住することを想定している者」⁵の 63% (126 名) が 2022 年度開寮された音羽館での居住を想定していた。さらに、このうち音羽館のみを想定しているケースは 99 名、音羽館と SCC の両方を想定している学生が 27 名である。実家以外に居住予定でかつ学生寮（音羽館もしくは SCC）への入寮を想定していないのは 71 名（35%）である。

③ 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 に、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果を示す⁶。例年と同様に「5～7 万円」が 60.1%と最も多く、「8～9 万円」17.9%と続く。令和 3 年度入学者の想定家賃は、「5～7 万円」が 47.5%、令和 4 年度入学者の想定家賃は「5～7 万円」が 51.4%であったことを踏まえると、本年度は「5～7 万円」を想定している割合が 1 割近く増えていることになる。また、令和 4 年度入学者は「8～9 万円」が 28.2%であり、このカテゴリについて本年度入学者は減少がみられる。



図表 4-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

④ 1 か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 に、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果を示す。「10～12 万円台」が 30.5%と最も多く、次に「5～7 万円台」が 19.0%である。令和 4 年調査でも「10～12 万円台」が 3 割程度であり、昨年と同様の傾向である。「仕送りがない」と回答した割合は 8.0% (16 名) であるが、「不明」と回答した割合が 12.0%あることは留意が必要である。

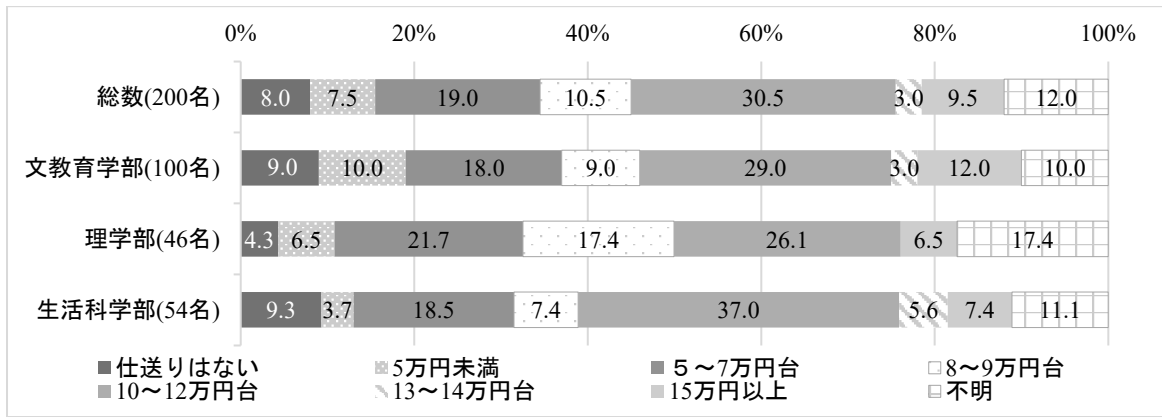
そこで保護者の回答を確認したところ、入学者本人が「不明」と回答したうちのおよそ 25%の保護者が「仕送りはしない」との回答であった。一方で、入学者本人が「仕送りはない」と回答したが保護者は仕送り金額を回答していたケースもあった。

³ 入寮者確定前に調査票を返送いただいているため、居住可能性に基づいた回答である。

⁴ 入学後の住居 (p.10) として、実家だけを選択したケースを実家から通学する者として集計した。

⁵ 実家以外を選択したケースがすべて含まれるため、中には実家を選択している場合もある。

⁶ 本分析の対象者数は、進学後の住居として「実家以外の賃貸アパートやマンション」を選択した 123 名である。

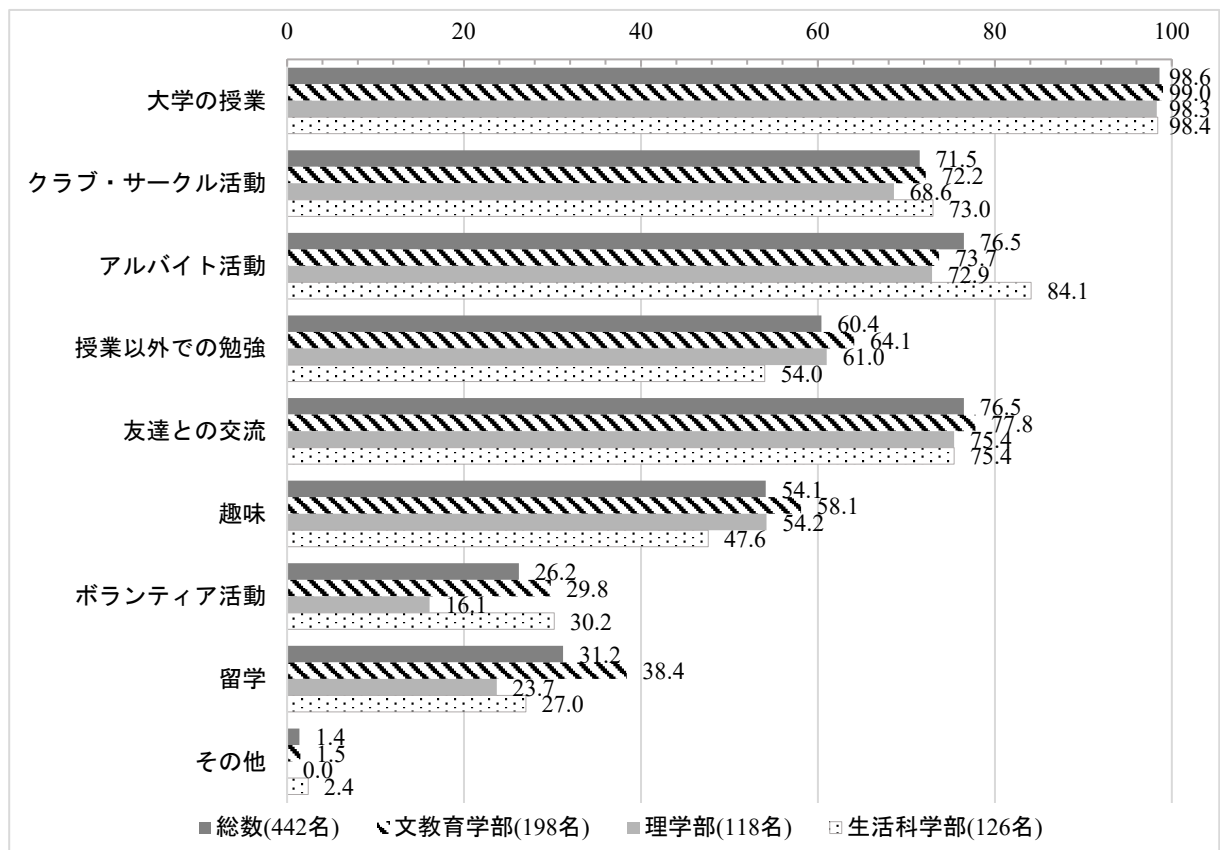


図表 4-4 1か月あたりの仕送り予定額

仕送りに関して「第 56 回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会 2022）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が 5～10 万円の学生の割合は 34.3%、仕送り 10 万円以上は 27.9%、仕送り 0 の割合は 7.5%、5 万円未満は 16.0%である。仕送り金額が 10 万円程度までの本学学生の割合は、全国の大学生の平均的な水準と比較するとやや少なく、本学の学生の仕送り額は多めである。ただし、東京 23 区の大学に通う学生の仕送り額の把握ができる調査は見当たらないため、全国の大学生と比較であることについては留意が必要である。

⑤ 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が 98.6%とどの学部でも例年通り最も高い。続いて、「友達との交流」76.5%、「アルバイト活動」76.5%、「クラブ・サークル活動」71.5%である。

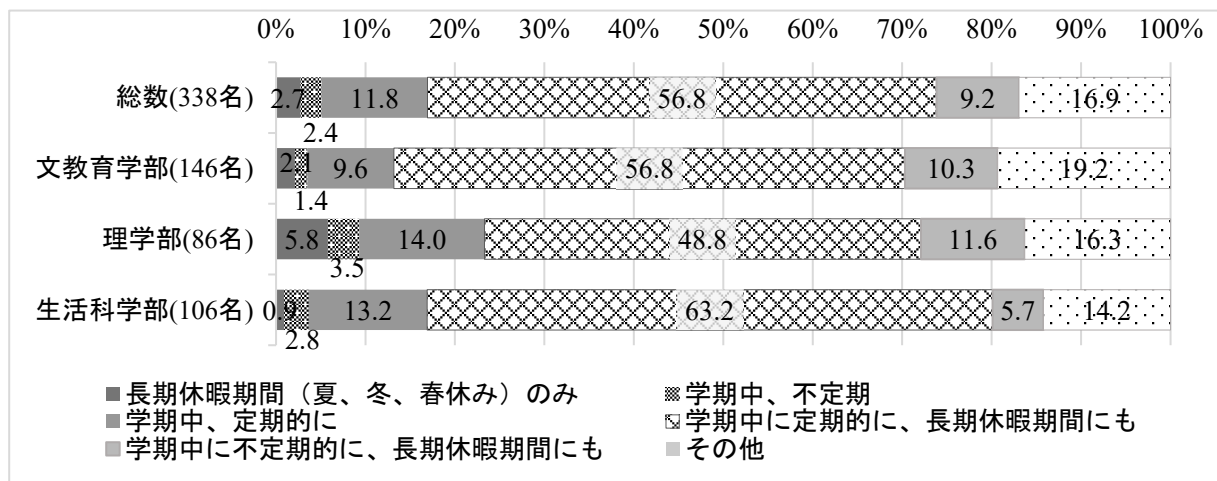


図表 4-5 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

平成 29 年度の調査から加えた「留学」は、平成 29 年度 25.2%、平成 30 年度 35.4%、平成 31 年度 36.3%、令和 2 年度 38.4%と上昇傾向にあった。しかし、令和 3 年度調査では、31.8%と前回から 6.6 ポイント減少し、令和 4 年度調査は 33.0%、本年度は 31.2%と「コロナ前」水準に戻っていない。一方、「友達との交流」や「趣味」の回答割合の増加傾向がみられる。「趣味」は令和 2 年度調査で 44.4%、令和 3 年度調査で 50.8%、令和 4 年度は 53.9%、本年度は 54.1%である。「友達との交流」は令和 3 年度 72.1%、令和 4 年度 74.5%、本年度 76.5%とわずかずつではあるが増えている。本調査からのみでは判断が難しいものの、ここで指摘した留学、趣味、友達との交流などの増減の傾向は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響の可能性が考えられる。学生の活動ニーズをとらえ、適切にサポートすることが求められよう。

⑥ アルバイト活動の予定

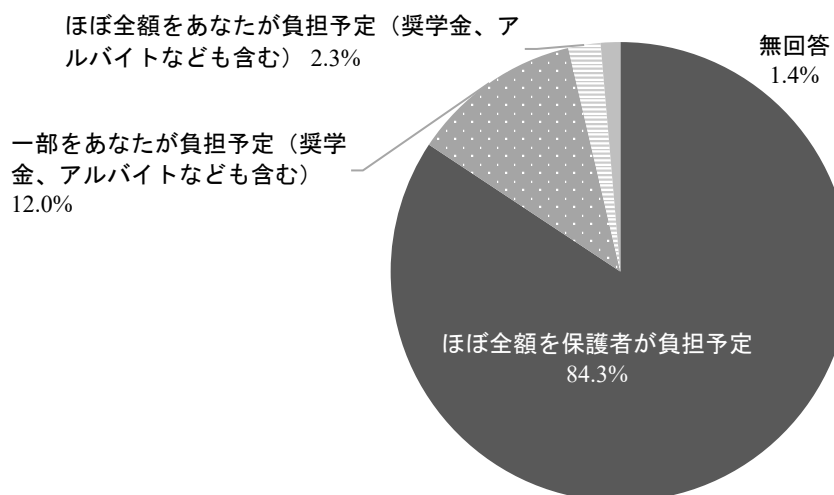
図表 4-6 に、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果を示す。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」との回答で 56.8%であり、「学期中に定期的に」11.8%と合わせると 68.6%である。つまり、授業がある期間中に定期的にアルバイトをする予定と回答した割合は 7 割近くである。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 に、授業料の負担予定について尋ねた結果を示す。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 84.3%である。この「ほぼ全額を保護者が負担予定」を回答する割合は、前年度と比較すると 1.8 ポイントの増加に過ぎないが調査開始時（平成 23 年度調査では 74.0%）と比較すると増加している。一方で、「ほぼ全額をあなたが負担予定」との回答は調査開始以降はつきがあるものの、本年度は 2.3%（9 名）存在していることは留意が必要である。さらに留意しておきたいのは、保護者回答との齟齬である。「ほぼ全額を本人（子）が負担予定」と回答した保護者は 3%（13 名）であった。つまり、子は一部のみもしくは保護者が負担してくれると考えているにもかかわらず、保護者はほぼ全額を子が負担すると考えている状況が生じているケースもあるということである。



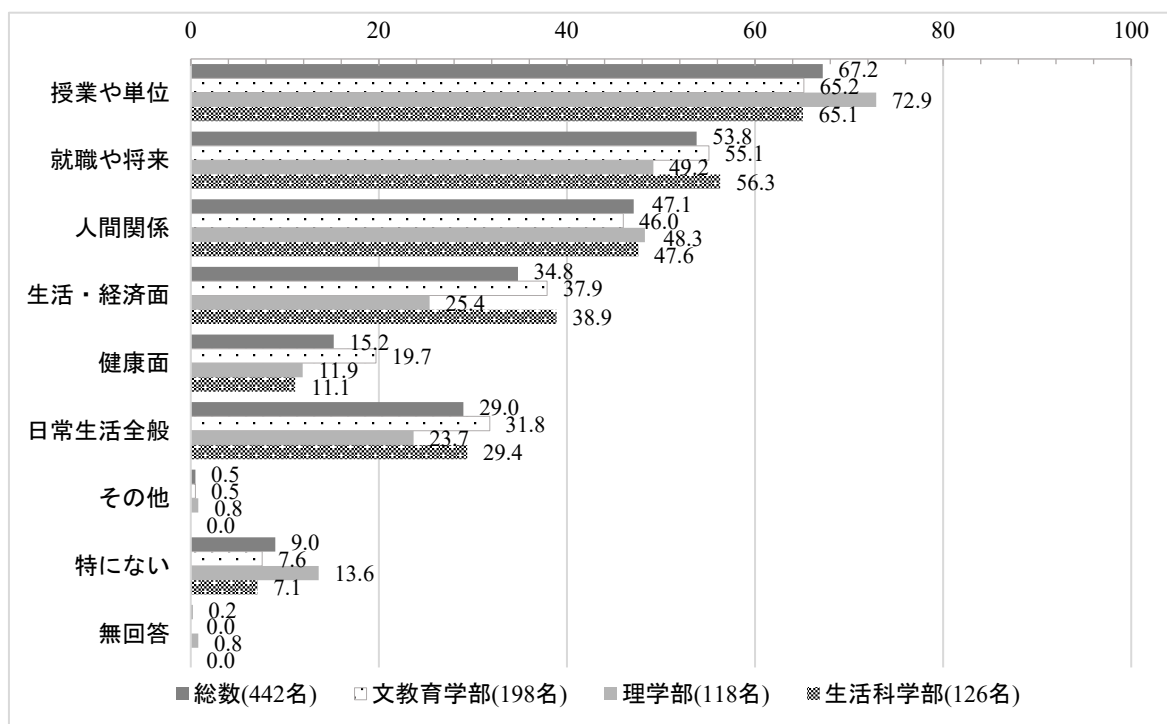
図表 4-7 授業料の負担予定

⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 に、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果を示す。

最も高い割合を示したのは「授業や単位」67.2%で、「就職や将来」53.8%、「人間関係」47.1%が続く。この上位3項目の内容は平成30年度以降と同様である。

学部別では、理学部においてたびたび確認される「就職や将来」に対する不安が他学部と比べると低めであり「授業や単位」に対する不安が高くなる傾向は、昨年度は見られなかったが本年度は見られ、「授業や単位」に対する不安を感じていると回答した割合が7割を超えている。また、理学部の入学者は「生活・経済面」や「日常生活全般」について不安を感じている割合は低く、「特にない」という回答が他学部と比べると13.6%と1割を超えている点も特徴である。

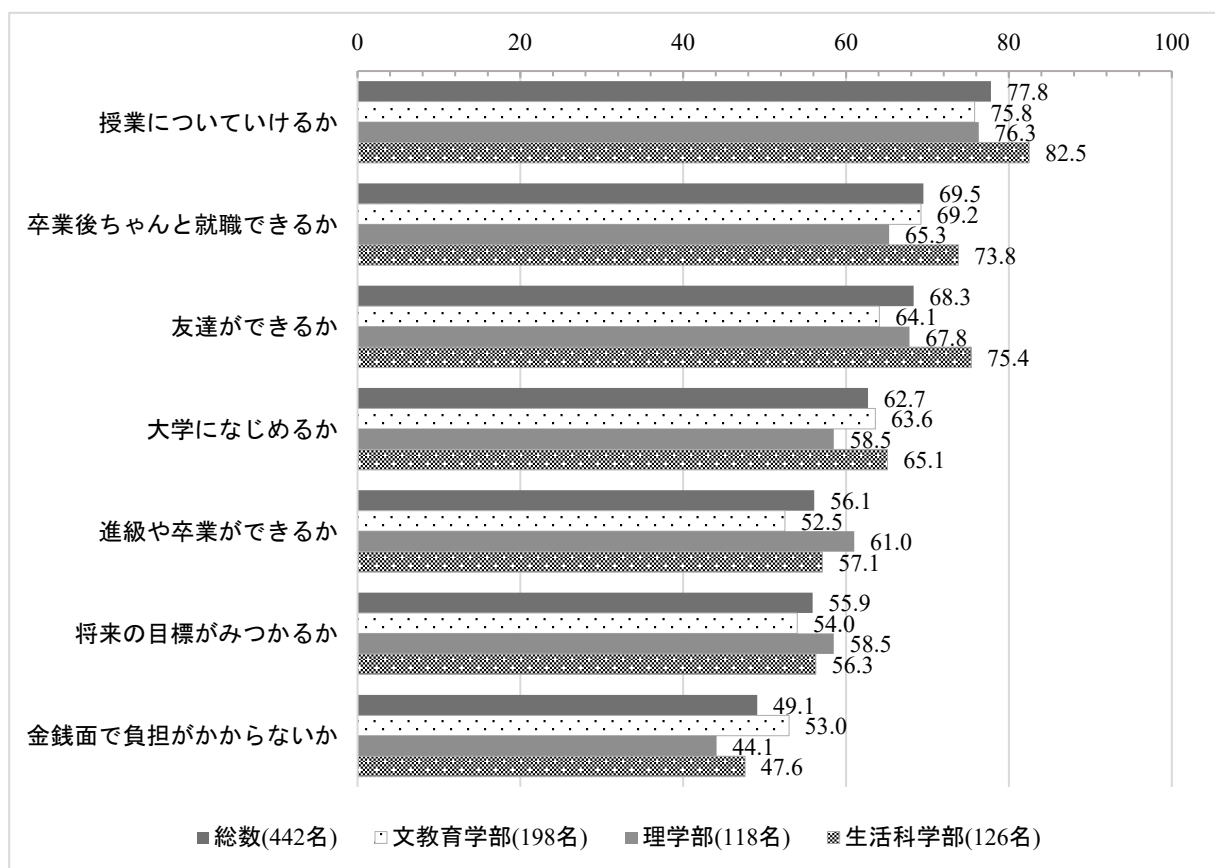


図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

図表 4-8 には示していないものの、学科別にみると学部の中でもばらつきがみられることがわかった。具体的には、情報科学科は「授業や単位」について心配をしている割合が多い（81.3%）一方で、「就職や将来」について心配する割合は低め（40.6%）である。心配事として「就職や将来」をあげる割合は先にも述べた通り 53.8%と半数以上であり心配に感じている者が多いが、文教育学部言語文化学科（46.6%）、理学部化学科（41.2%）、理学部情報科学科（40.6%）、生活科学部人間・環境科学科科（41.7%）では半数を下回っている。

図表 4-9 に大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて尋ねた結果を示す。今の気持ちは「あてはまる」「ある程度あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で尋ねているが、図表 4-9 では「あてはまる」と「ある程度あてはまる」と回答した者の割合を合算した割合（以下、「不安に感じている割合」と表記）を項目別・学部別に示す。

まず、令和 5 年度調査の全体の特徴を確認する。「不安に感じている割合」が最も多いのが「授業についていけるか」で 77.8%、次いで「卒業後ちゃんと就職できるか」の 69.5%、「友達ができるか」の 68.3%であった。「金銭面での負担」を除くすべての項目で「不安に感じている割合」は 5 割を超えていた。令和 5 年度調査の結果を学部別に比較する。「授業についていけるか」不安に感じている割合について、文教育学部では 75.8%、理学部は 76.3%に対し、生活科学部は 82.5%と差がみられる。

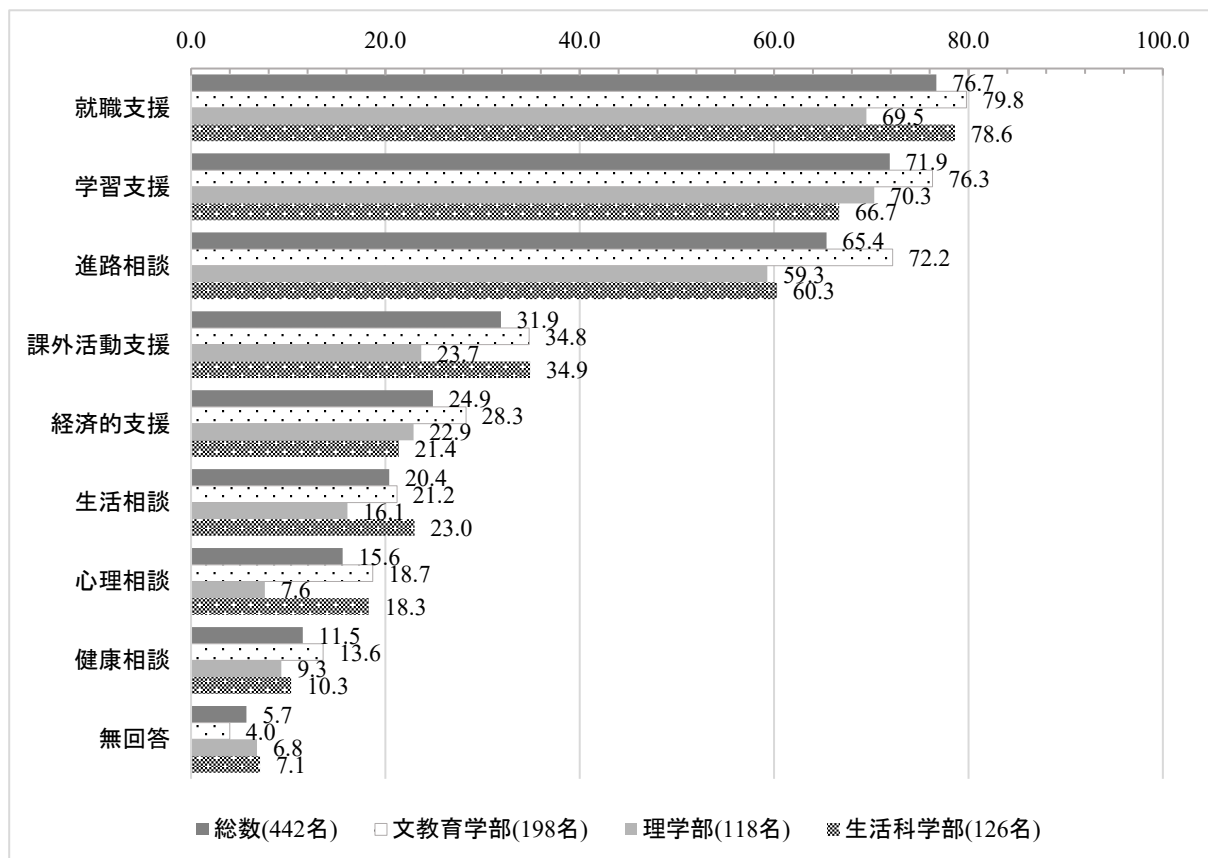


図表 4-9 大学生活での不安・心配事

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-10 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。まず、本年度調査全体の傾向について確認する。全体では「就職支援」が例年と同様に 76.7% と最も高く、次いで「学習支援」71.9%、「進路相談」65.4%となっている。この3つの支援に対する回答が多いことは例年の傾向と同様である。

本年度調査の結果を学部別に比較する。例年、理学部に「進路相談」「学習支援」の割合が高い傾向がみられるが、本年度は文教育学部において「学習支援」と「進路相談」の割合が高い。



図表 4-10 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

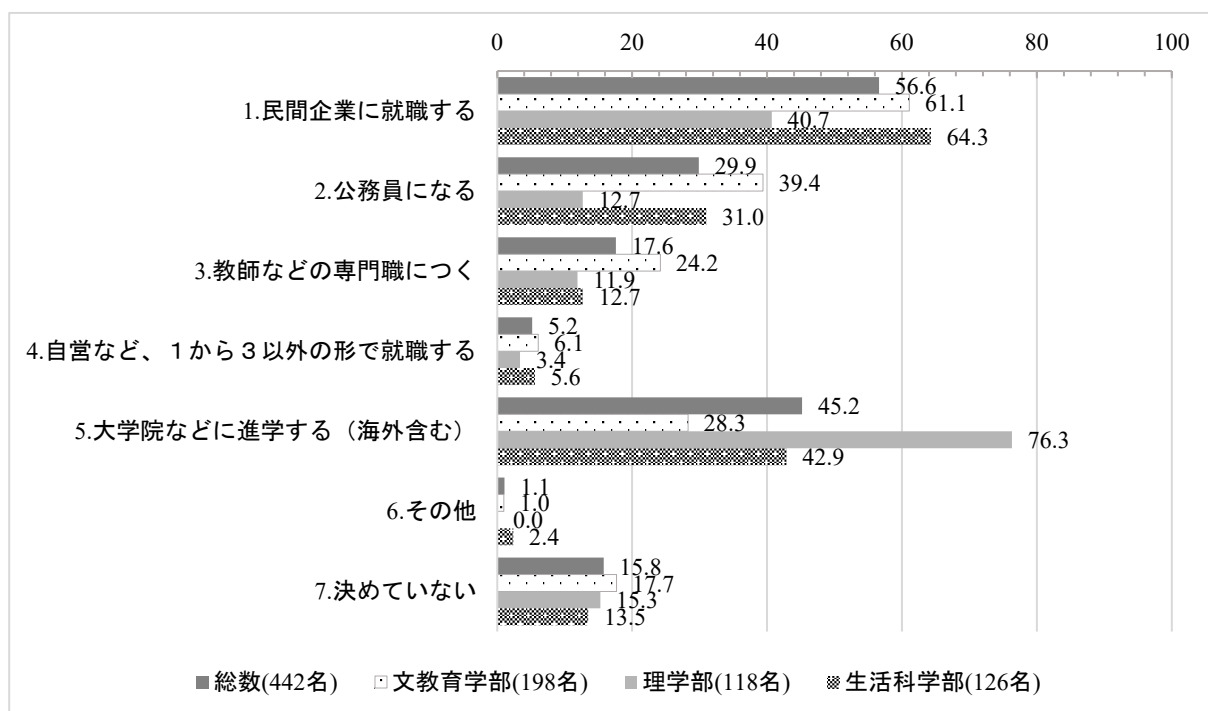
① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 に、大学卒業後の進路希望について複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体で見ると、「民間企業」への就職希望者が最も多く 56.6%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 45.2%であった。昨年度調査と比較してもこの傾向に顕著な差はなかった。近年漸減していた「公務員になる」との回答は昨年 25.9%であったが、本年度は 29.9%と増加した。この傾向は、文教育学部（昨年 25.9%、本年 39.4%）、生活科学部（昨年 27.6%、本年 31.0%）の回答割合の増加が影響を及ぼしている。

一方、教員希望者割合は、調査開始以来最も低い 17.6%と 2 割を切る結果となった。なお、教員希望者割合が最も多かったのは調査開始年である 2011 年度であり、31.1%である。

本年度調査結果を学部別に比較する。文教育学部では、「民間企業」への就職希望が 61.1%と半数を超えているものの、「公務員」を希望する者が 39.4%、「教師などの専門職」を希望する者が 24.2%と他学部には比ると多いことが特徴である。理学部は「大学院などに進学」を希望する割合が多いのが特徴であり、一昨年度調査でも 71.0%と 7 割を超えていたが、昨年度は 74.4%、本年度 76.3%とより多くの者が入学時点から大学院への進学を希望していることがわかる。生活科学部では「民間企業」就職希望者が 64.3%と最も多く、「大学院進学」希望者が 42.9%、「公務員」希望者が 31.0%である。これは学部内に文系と理系が存在し、特に心理学科と人間・環境科学科の大学院進学希望が増えていることに起因していると考えられる。



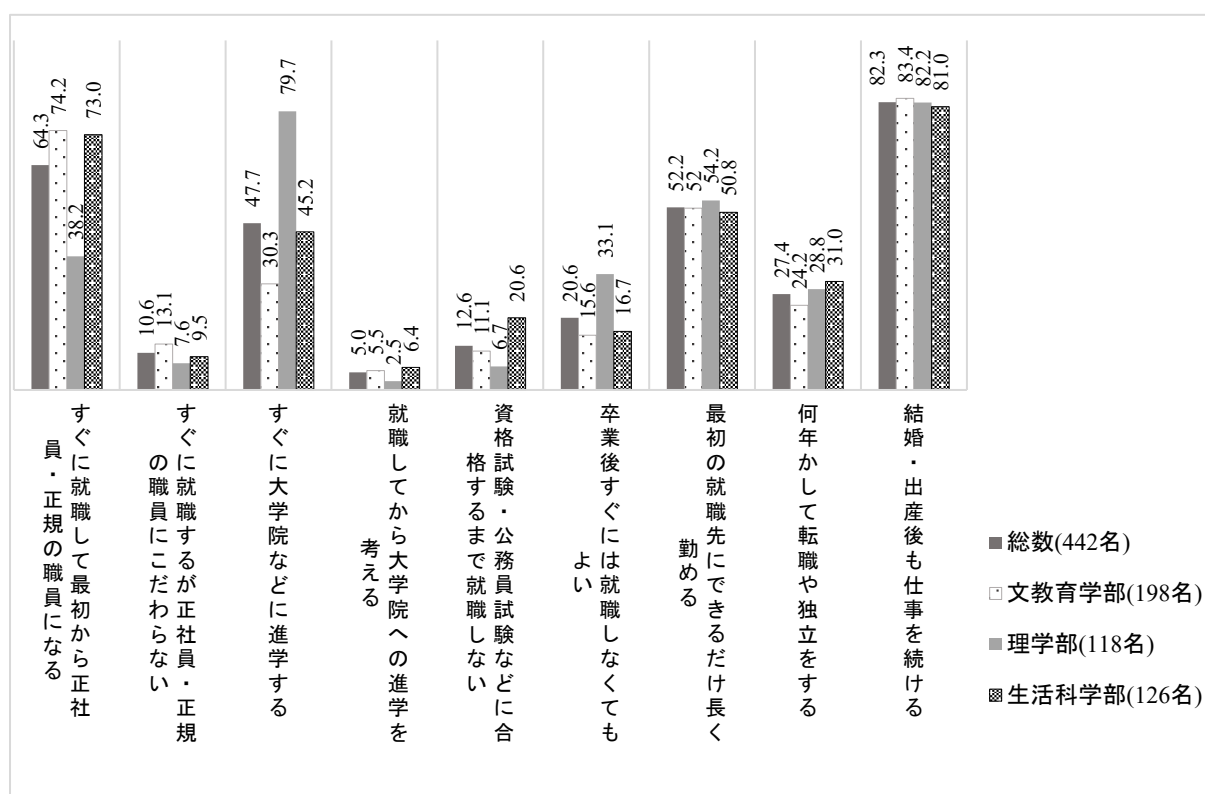
図表 5-1 大学卒業後の進路希望

② 大学卒業後のキャリアについての考え

図表 5-2 に「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について尋ねた結果を示す⁷。図表に示す割合は、「そう思う」「ある程度思う」を合計したものである。

「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」は全体で 64.3%である。「最初の就職先にできる限り長く勤める」が 52.2%と半数を占めており、「何年かして転職や独立をする」に対して「そう思わない」と回答した割合が 3 割程度であることから、卒業後に正規社員・職員として就業をして、長期勤続するという進路を希望する学生は比較的多いと考えられる。一方で「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」に対して「今はまだわからない」と回答した割合は全体で 19.5%と 2 割程度存在しており、就職か進学かなど大学入学時点では決め切れていない状況であることがわかった。

「結婚・出産後も仕事を続ける」については、「そう思わない」と回答した割合は全体の 1.1%（昨年度 1.6%）、「今はまだわからない」と回答した割合は 15.2%（昨年度 21.6%）であり、結婚出産を経ても働きたいと明確に考えている学生が多い。



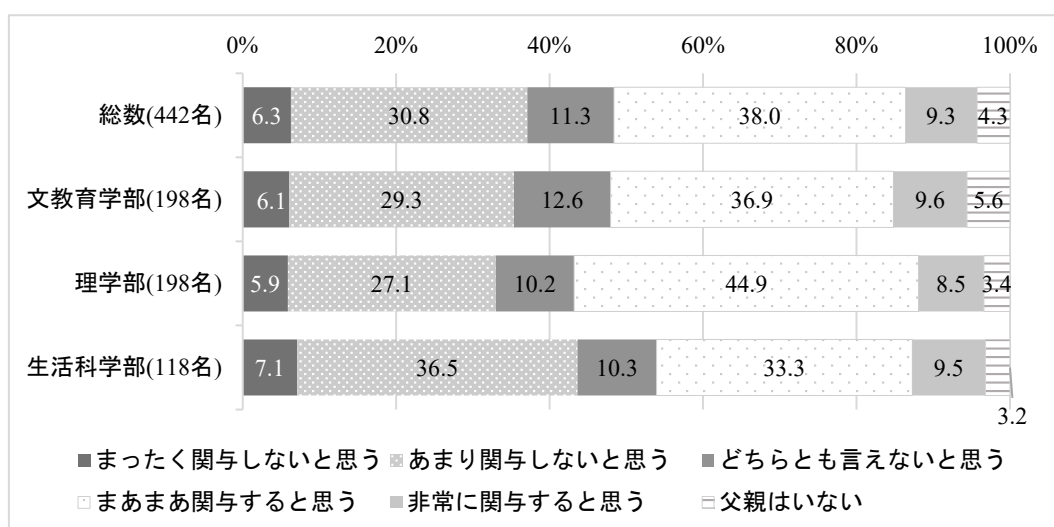
図表 5-2 大学卒業後のキャリアについての考え（全体）

⁷ 令和 4 年度調査からは、「そう思う」「ある程度思う」「そう思わない」だけでなく「今はわからない」を選択肢に加えた。回答傾向の変化は選択肢の追加に起因するものと考えられる。

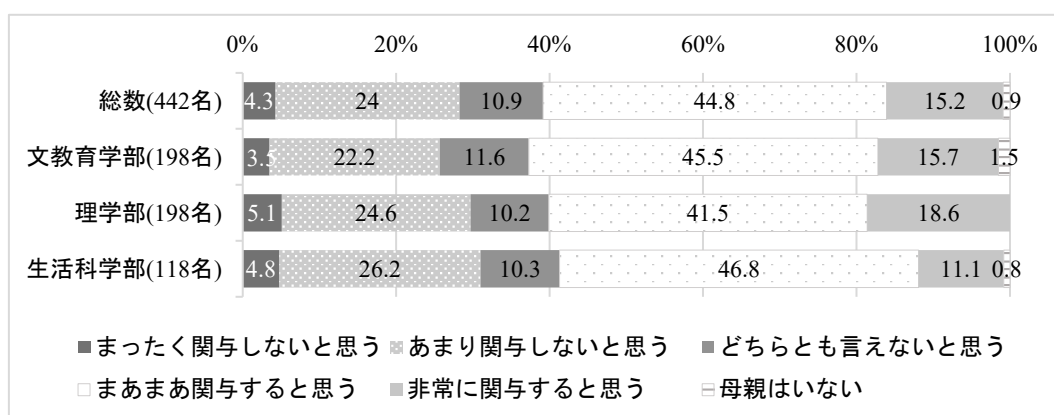
③ 就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに、どれくらい関与しますか」について、「まったく関与しないと思う」「あまり関与しないと思う」「どちらとも言えない」「まあまあ関与すると思う」「非常に関与すると思う」の5件法で尋ねた。図表5-3に父親の関与について尋ねた結果を、図表5-4に母親の関与について尋ねた結果を示す。

はじめに父親の関与について、本年度の新入生は、就職や将来のことに、関与について全体の47.3%が将来に対して父親の「関与がある」（「非常に関与すると思う」＋「まあまあ関与すると思う」の合算）と考えている。同様に母親に関しては、全体の60.0%が「関与がある」と考えていることがわかった。このように、就職や将来のことに、関与があると感じている新生が半数程度存在すること、父親より母親からの関与があると考える傾向は例年と同様である。学部別では、理学部が父親・母親ともに「関与がある」の割合が他学部より多いように見えるが、統計的な差は認められなかった。



図表 5-3 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-4 就職や将来のことに関する母親の関与

第2章 「新入生の保護者調査」の結果

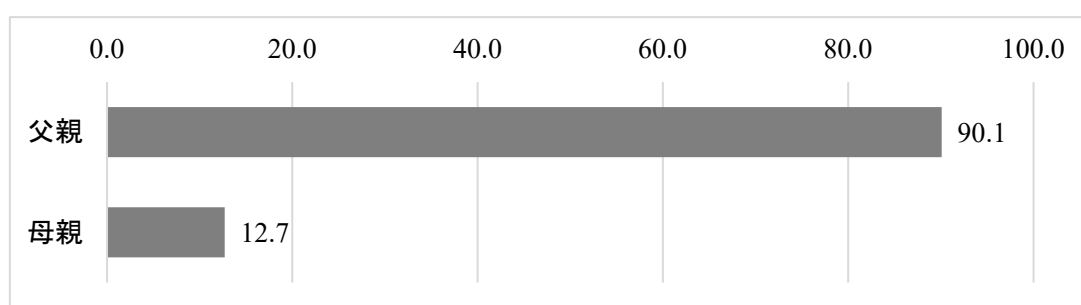
第2章では、新入生の保護者に対する調査結果について報告する。回答者は432名であり、学部別の内訳は、文教育学部194名、理学部114名、生活科学部124名である。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者および世帯の年収、④大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

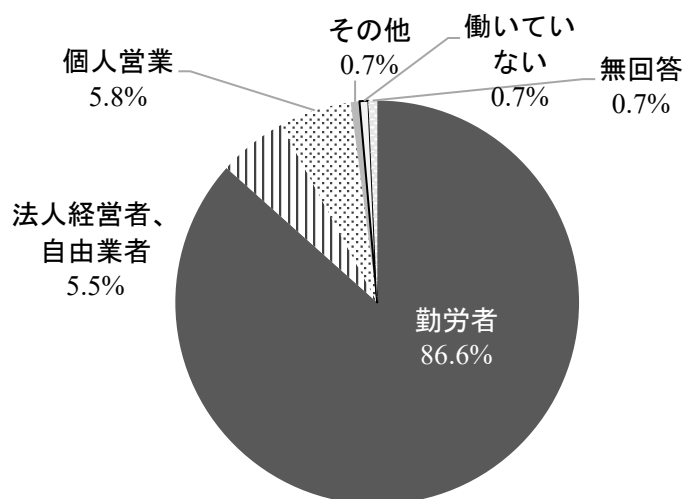
図表 1-1 に、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果を示す⁸。主な家計支持者が、「父親」と回答した割合が90.1%、「母親」と回答した割合が12.7%である。学部による顕著な差は認められなかった。



図表 1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

図表 1-2 に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の86.6%を占め、次いで「個人営業」5.8%、「法人経営者・自由業者」5.5%である。勤労者が9割程度である傾向は例年と変わらない。



図表 1-2 家計支持者の職業

⁸ この設問は複数選択を認めている。複数選択されているケースがあったため、父親と母親を合計すると100%を超える。

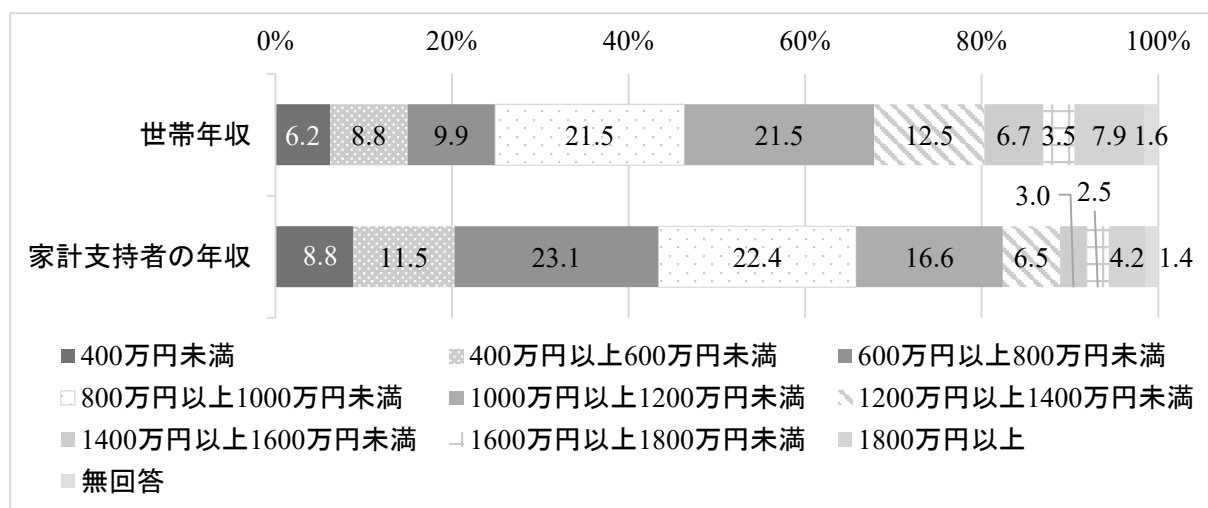
③ 家計支持者および世帯の年収

図表 1-3 に家計支持者および世帯の年収に尋ねた結果を示す。家計支持者については、最大カテゴリーが 23.1%の「600 万円以上 800 万円未満」、次いで 22.4%の「800 万円以上 1000 万円未満」、 「1000 万円以上 1200 万円未満」が 16.6%と続く。

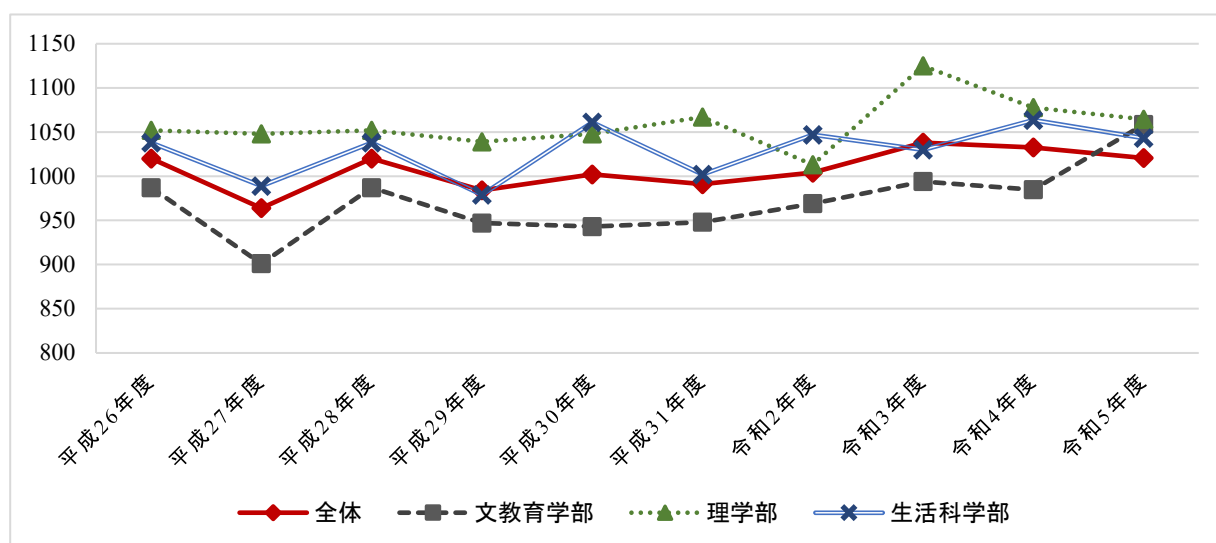
世帯年収については、「800 万円以上 1000 万円未満」21.5%、「1000 万円以上 1200 万円未満」21.5%が多く、合わせると 4 割を超える。家計支持者・世帯の年収とも、例年と同様の傾向である。

『令和 2 年度 学生生活調査』（日本学生支援機構 2022）によると、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 27.9%、国立大学・女子大では 31.4%である。それに対して、本学の新生の家庭では、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭が全体の 50%を占めており、全国水準に比べて高い方に偏っている。これも例年の新生と同様の傾向である。

図表 1-4 に、各カテゴリーの中央値に基づき、2014 年（平成 26 年）度以降の新生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示す。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっている。国立大学昼間部の家庭の年間平均収入額は 856 万円であることから（日本学生支援機構 2022）、図表 1-3 でも確認したように本学の学生の家庭の収入水準は高いと考えられる。また、本年度は平成 26 年度以降初めて 3 学部すべてで世帯年収平均が 1000 万円を超えた。



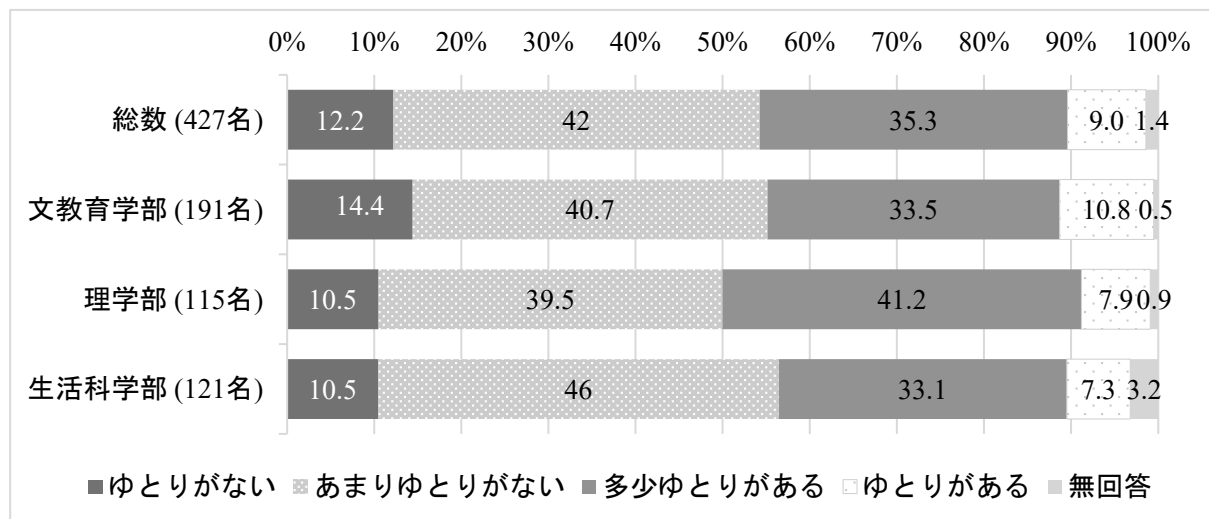
図表 1-3 家計支持者の年収および世帯年収



図表 1-4 世帯年収平均（推計）

図表 1-5 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると「あまりゆとりがない」と回答した割合が 42.0%と最も多いが「多少ゆとりがある」との回答も 35.3%である。しかしながら「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」と回答した割合を合わせると 54.2%と半数程度存在している。



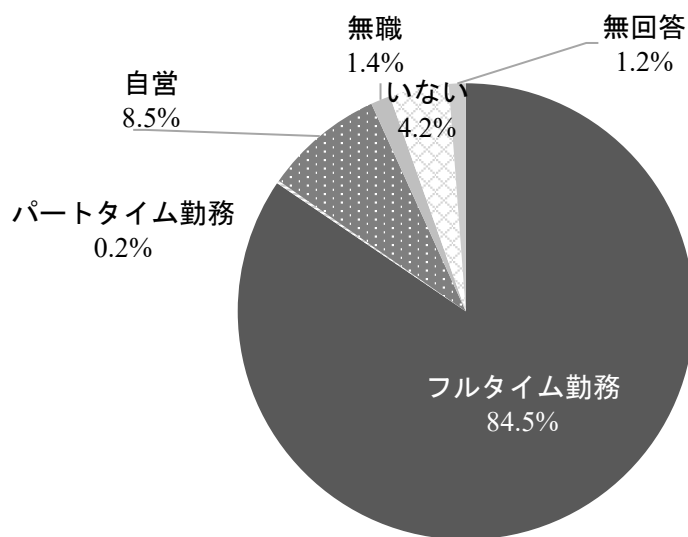
図表 1-5 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

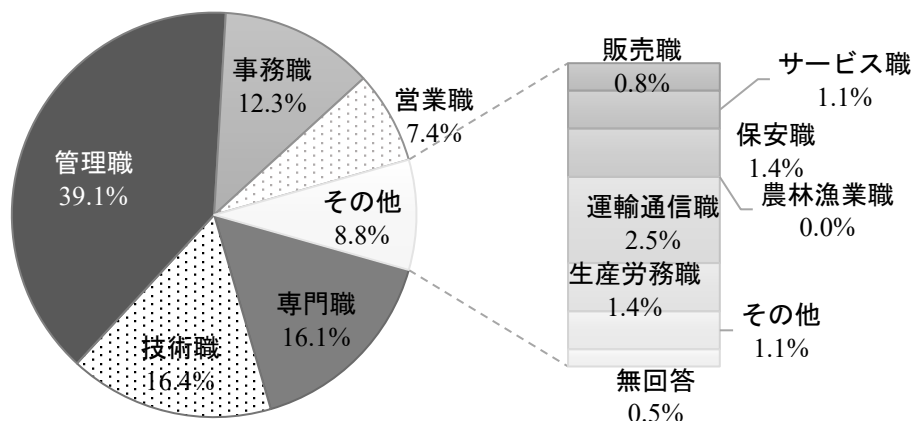
① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 に、新入生の父親の勤務形態（「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」）を尋ねた結果を示す。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 84.5%を占めている。次いで「自営」が 8.5%である。



図表 2-1 父親の勤務形態

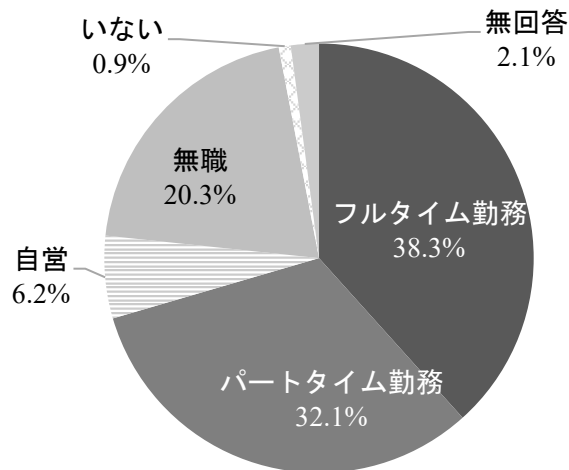
次に、図表 2-2 にフルタイムで勤務する父親に対して職種を尋ねた結果⁹を示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）39.1%である。次いで、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）16.4%、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）16.1%、である。例年と類似する結果である。



図表 2-2 父親の職種

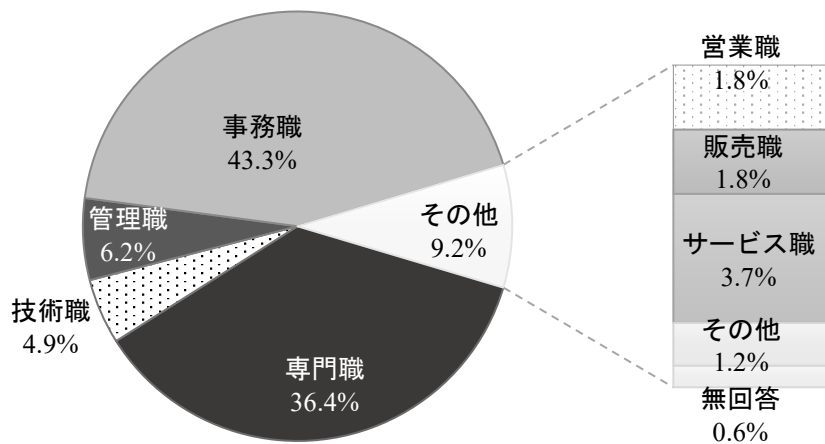
⁹ 回答者は 366 名である。

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。例年、「パートタイム勤務」、「フルタイム勤務」、「無職」の順に回答割合が高かった。本年度は「フルタイム勤務」との回答が最も多く 38.3%、次いで「パートタイム勤務」が 32.1%であり、その差は 6.2 ポイントである。母親が「フルタイム勤務」という回答が最も多い状況は、調査開始以降初めてである。一方で、2 割程度が「無職」であることは、この数年のトレンドである。調査を開始した 2011 年度では、「フルタイム勤務」が 27.0%、「パートタイム勤務」33.2%、「無職」30.8%であったことを踏まえると、母親の就業状態は変化がみられる。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親に対し職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す¹⁰。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）43.3%で、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）36.4%が続く。この事務職と専門職の割合が同等で他に比べて多いのはこの数年同傾向である。

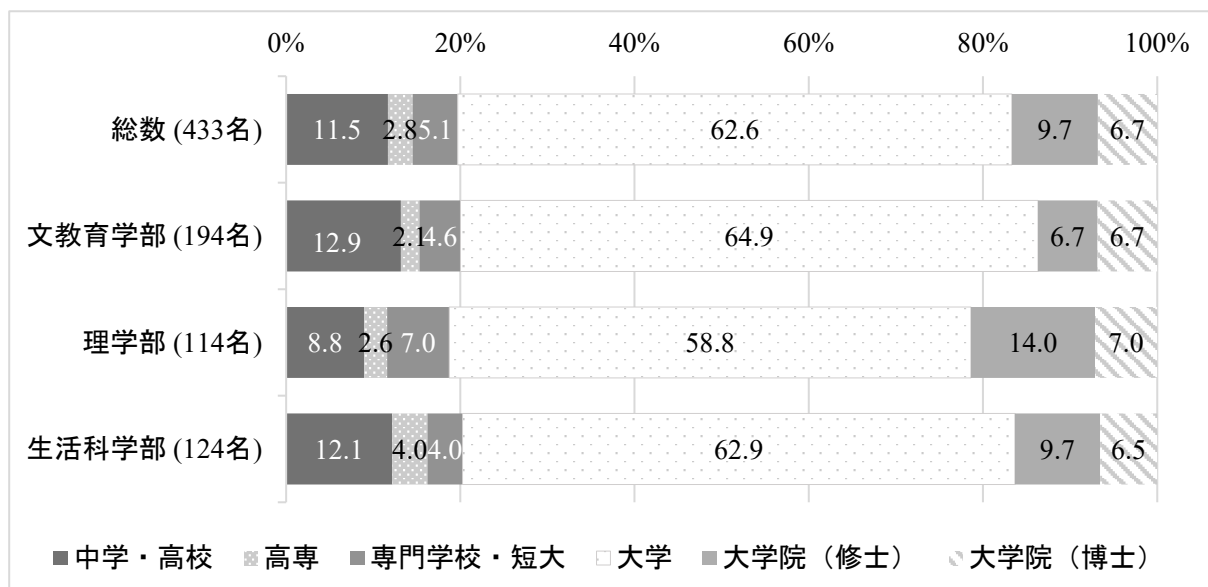


図表 2-4 母親の職種

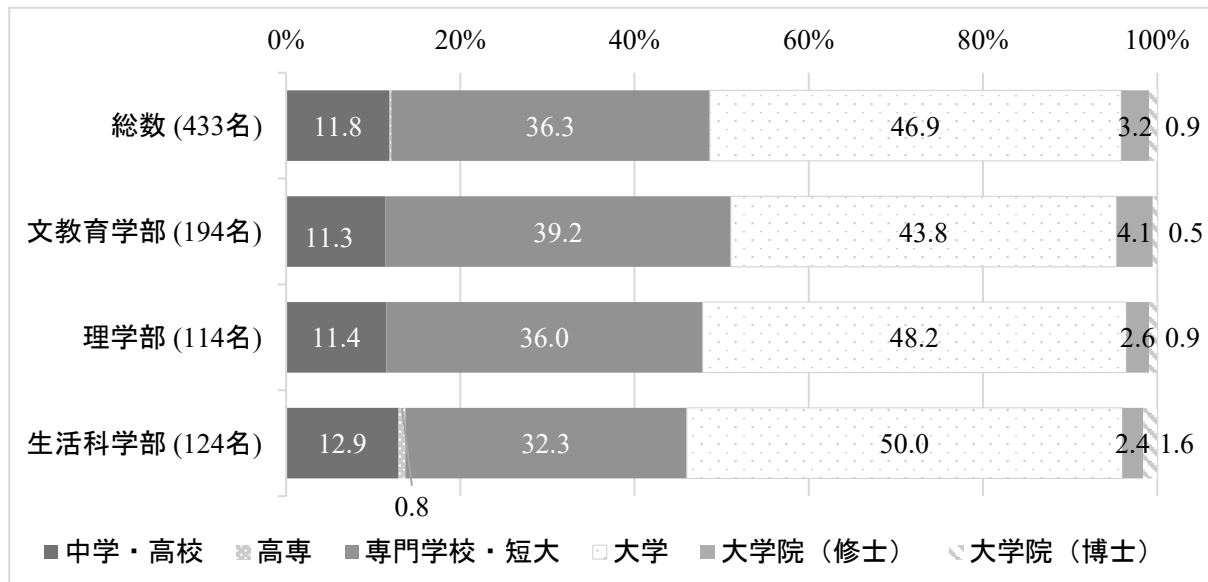
¹⁰ 回答者は 166 名である。

② 親の学歴

図表 2-5 に、新入生の父親の最終学歴を尋ねた結果を示す。全体で見ると、「大学」が 62.6%と最も高く、続いて「中学・高校」11.5%、「大学院」9.7%である。大卒以上（大学と大学院）の学歴を持つ父親の割合が 79.0%である。本年度の新入生の父親も例年と同様に学歴が高いほうに偏っている。



図表 2-5 父親の最終学歴



図表 2-6 母親の最終学歴

図表 2-6 に新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果を示す。全体で「大学」46.9%、「専門学校・短大」36.3%、「中学・高校」が 11.8%である。本年度新入生の母親の学歴は、父親の学歴と同様に高いと言える。

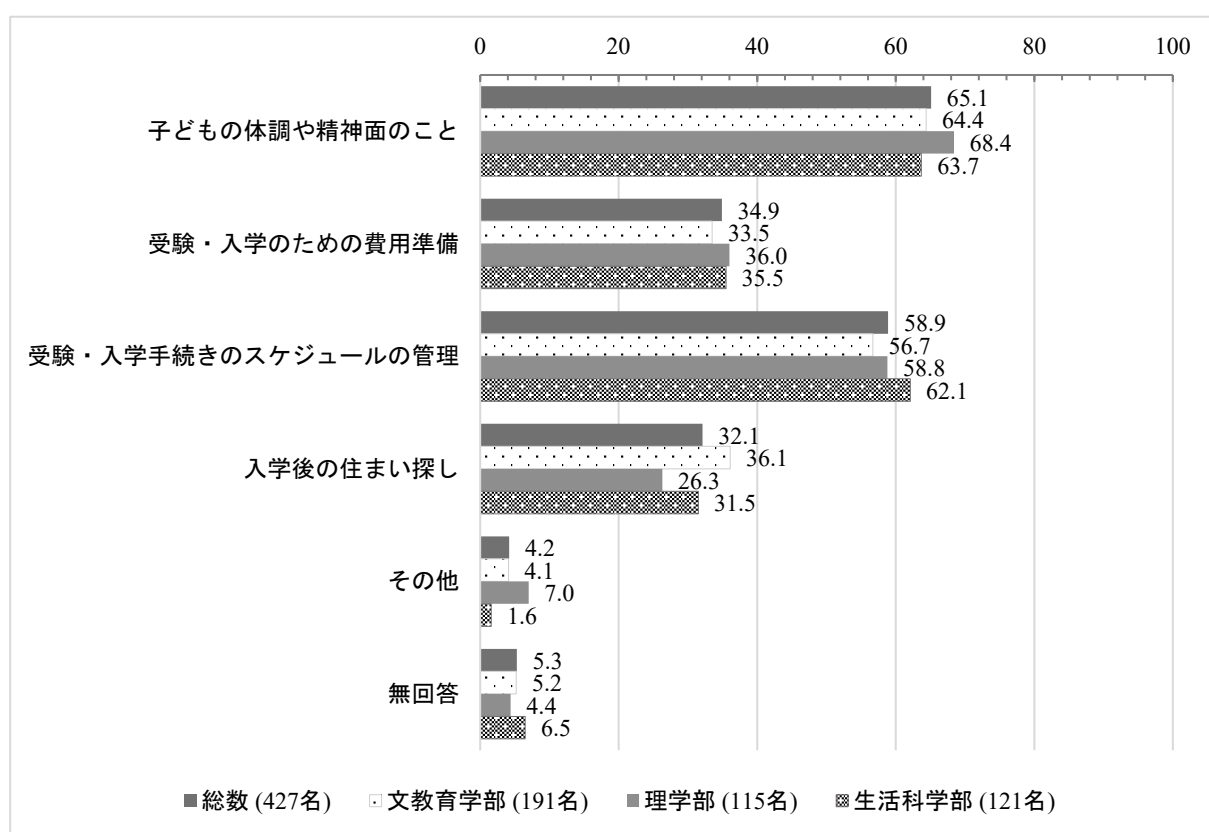
(3) 大学生生活の不安・心配事・学生支援活動への期待

本節では保護者から見た子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 に、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

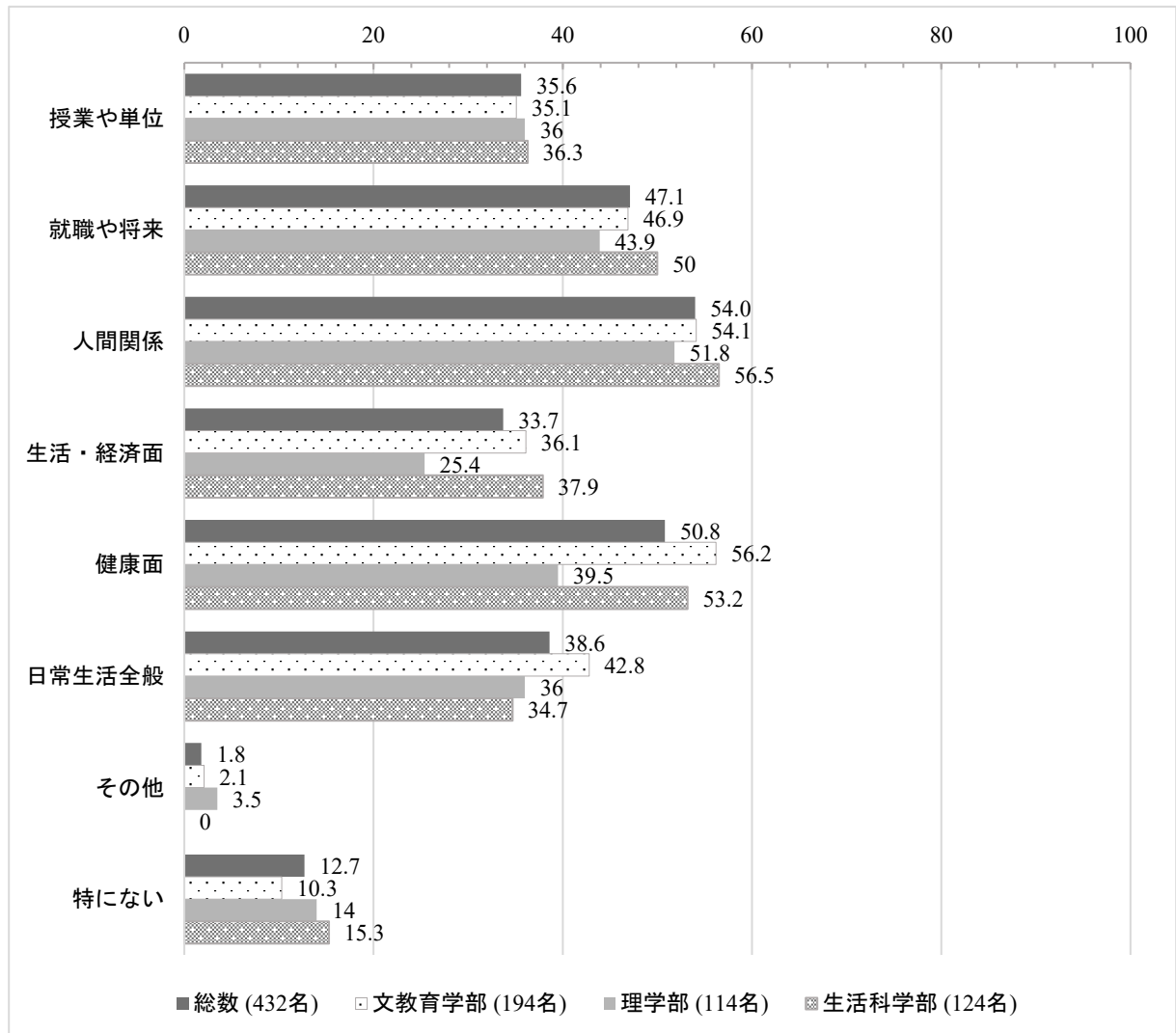
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 65.1%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 58.9%と続いており、この項目が他の項目と比べて困ったこととして回答される割合が多いのは例年と同様である。この「受験・入学手続きのスケジュールの管理」については、2011 年時点では 43.7%である。2018 年度入学者からは 5 割を超えるようになり、現在に至っている。受験や入学手続きに親の関与が強まっている、もしくは親でないといけないことが増えている可能性があり、詳細の確認が必要である。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。心配なこととして、全体で「人間関係」54.0%「健康面」50.8%、「就職や将来」47.1%が高かった。この3つの項目が「大学生活が始まって心配なこと」として回答される割合が高いことは、例年と同じ傾向である。

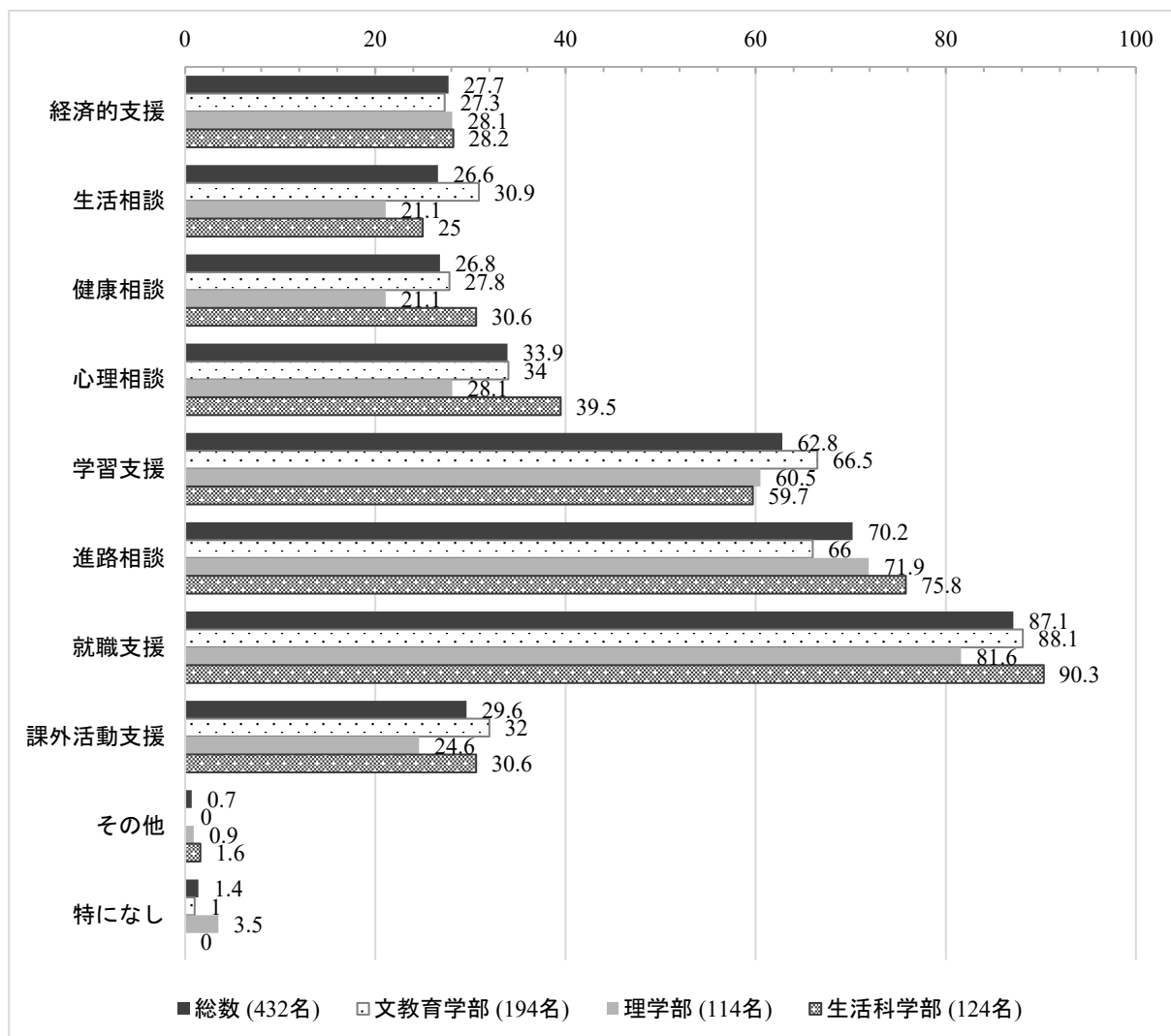


図表 3-2 大学生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 に、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体としては「就職支援」が 87.1% で最も高く、「進路相談」70.2% と続く。例年同様、保護者が学生支援として、キャリアや進路支援に期待を寄せている様子が見て取れる。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

第3章 新入生および保護者調査の結果—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生442名、新入生の保護者432名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を中心に、それぞれの現状を明らかにし、主に昨年度の結果と比較しながら、学生生活支援における今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点を明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

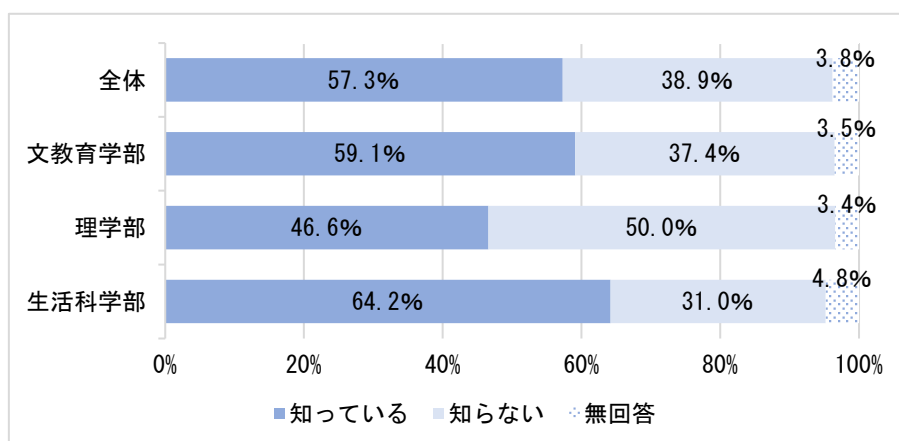
① 新入生の結果

＜奨学金等制度の認知と受給経験＞

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

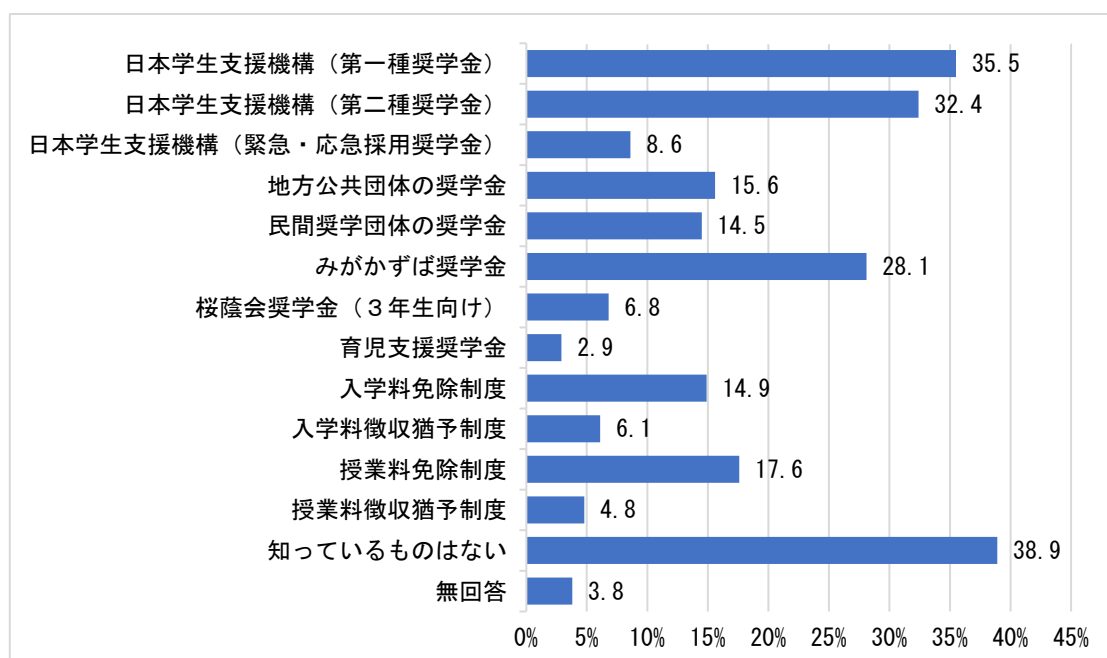
全体では57.3%の新入生が奨学金等制度について認知しており、昨年度の58.7%に比べ少しだけ低下している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、46.6%であり、これは昨年度と同様の傾向である。一方で、生活科学部での認知度は昨年度の61.0%に比べ、3.2ポイント上昇している。



図表1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。今年度最も認知度が高いものは日本学生支援機構の奨学金の第一種(35.5%)で、その次が日本学生支援機構の奨学金の第二種(32.4%)である。それらに次いで、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の認知度は28.1%である。「みがかずば奨学金」の認知度に関しては、一

昨年度から今年度まで 43.8%→31.4%→28.1%の変化であり、低下現象は続いているが低下のスピードは緩和される傾向である。また、「知っているものはない」が 38.9%で、一昨年度の 30.8%、昨年度の 37.4%に続き上昇傾向である。



図表 1-2 奨学金等制度の認知

図表 1-3 は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。昨年度の 1、2 位は「特待生」3.9%、「日本学生支援機構」2.8%であったのに対し、今年度は「日本学生支援機構」が 3.6%に上昇し最も多く、「特待生」が 2.3%と第 2 位になった。ほかの奨学金等制度の受給経験は昨年度同様 1～2%程度の割合を示している。

図表 1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等 制度名称	日本学生 支援機構	地方公共 団体	学校独自	民間奨学 団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けたこ とがある	3.6%	1.8%	1.4%	1.8%	0.0%	0.7%	1.1%	2.3%

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表 1-4～1-9 に示す。

図表 1-4 は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知については昨年度同様、有意な関連は見られなかった。

図表 1-4 きょうだい数と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	37	35	72
		%	51.4%	48.6%	100.0%
	2人きょうだい	度数	156	91	247
		%	63.2%	36.8%	100.0%
	3人以上	度数	60	46	106
		%	56.6%	43.4%	100.0%
合計		度数	253	172	425
		%	59.5%	40.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度同様、出身高校の設置者と奨学金の認知については有意な関連が見られなかった。

図表 1-5 出身高校設置者と奨学金認知の クロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	168	102	270
		%	62.2%	37.8%	100.0%
	私立	度数	68	61	129
		%	52.7%	47.3%	100.0%
	国立	度数	12	7	19
		%	63.2%	36.8%	100.0%
	海外	度数	3	2	5
		%	60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	251	172	423
		%	59.3%	40.7%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高く、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-6 奨学金受給経験と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	214	165	379
		%	56.5%	43.5%	100.0%
	経験あり	度数	39	7	46
		%	84.8%	15.2%	100.0%
合計		度数	253	172	425
		%	59.5%	40.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金等制度について、入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生のほうが認知の割合が高く、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-7 入学後の予定住居と奨学金認知のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の予定住居	実家以外	度数	119	50	169
		%	70.4%	29.6%	100.0%
	実家	度数	134	122	256
		%	52.3%	47.7%	100.0%
合計		度数	253	172	425
		%	59.5%	40.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-8 は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表 1-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額と奨学金認知との間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。概ね仕送り額が少ないほど奨学金の認知率は高い。ただし、仕送り額が「10 万円以上」の場合の奨学金の認知率は、「5 万円以上 10 万円未満」のそれより高い。

図表 1-8 仕送り額と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	14	1	15
		%	93.3%	6.7%	100.0%
	5万円未満	度数	11	3	14
		%	78.6%	21.4%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	37	20	57
		%	64.9%	35.1%	100.0%
	10万円以上	度数	60	23	83
		%	72.3%	27.7%	100.0%
合計		度数	122	47	169
		%	72.2%	27.8%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度と同様に、学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高い結果であり、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-9 学生寮認知と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	231	123	354
		%	65.3%	34.7%	100.0%
	知らない	度数	22	49	71
		%	31.0%	69.0%	100.0%
合計		度数	253	172	425
		%	59.5%	40.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

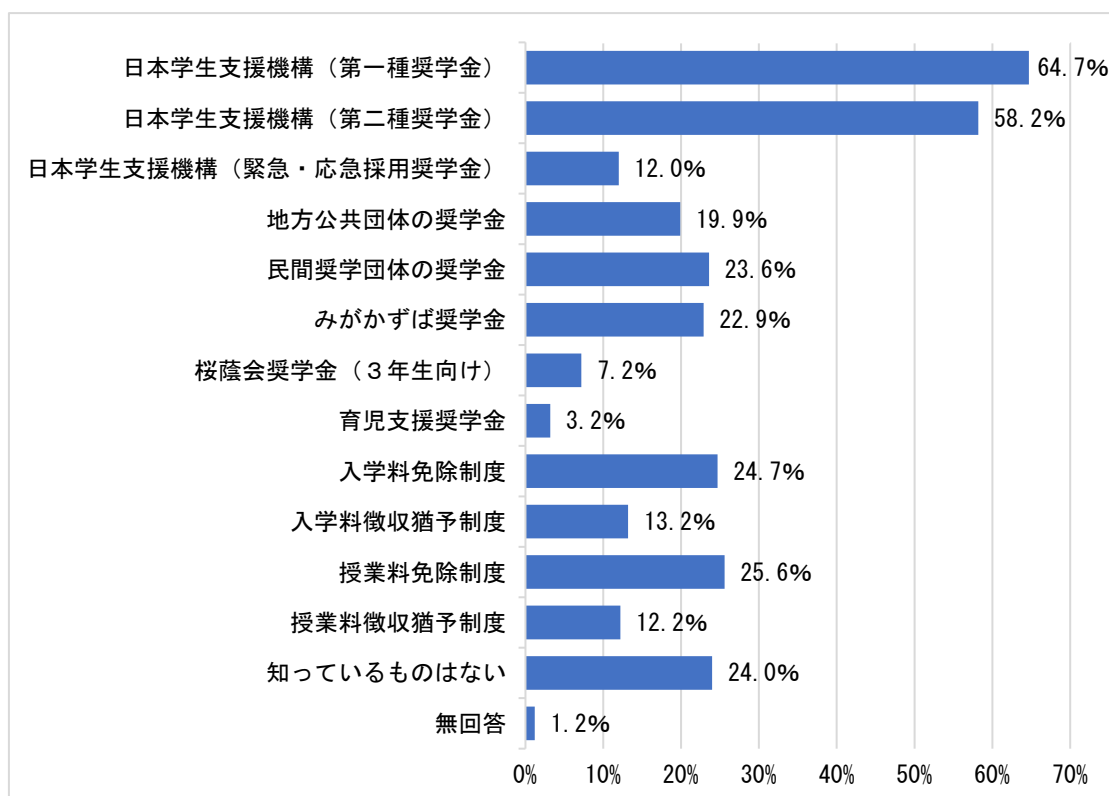
② 保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

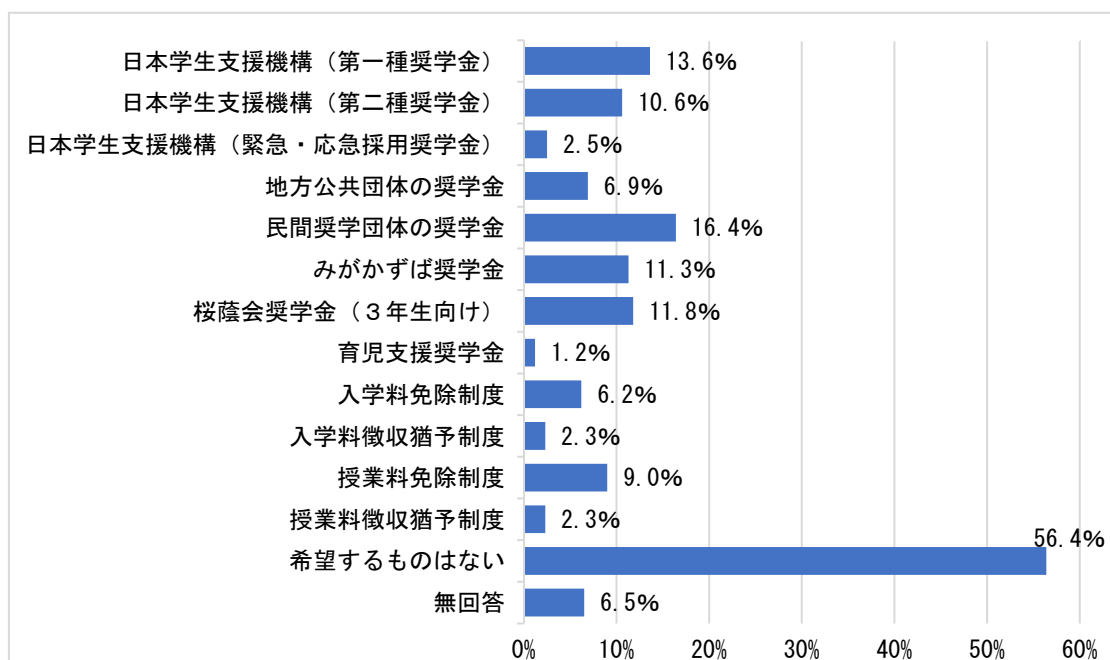
図表 2-1 は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

奨学金制度に関しては、最も認知率が高いのは日本学生支援機構第一種の 64.7% であり、第二種が 58.2% と続く。本学のみがかずば奨学金の認知率は 22.9% で、昨年度に比べ 4 ポイント低下している。また他のほとんどの奨学金や制度の認知度が昨年度に比べ低下した一方、「地方公共団体の奨学金」と「民間奨学団体の奨学金」の認知率は昨年度に比べ上昇している。



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。昨年度は日本学生支援機構 (第一種奨学金) の利用希望率がもっとも高かったが、今年度は民間奨学団体の奨学金の利用希望率が昨年度の 11.9% から 16.4% へと大きく伸び、もっとも高かった。本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の利用希望率は 11.3% で、昨年度に比べ 1.8% 低下している。民間奨学団体の奨学金以外に、昨年度に比べ利用希望率が上昇しているのは、「日本学生支援機構 (緊急・応急採用奨学金)」、「地方公共団体の奨学金」、「桜蔭会奨学金 (3年生向け)」である。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

＜奨学金希望と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合、他のいずれの場合よりも奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 2-3 家計支持者と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父	度数	130	222	352
		%	36.9%	63.1%	100.0%
	母	度数	25	12	37
		%	67.6%	32.4%	100.0%
	入学予定者本人	度数	4	9	13
		%	30.8%	69.2%	100.0%
	その他	度数	1	1	2
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	160	244	404
		%	39.6%	60.4%	100.0%

** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「いない」場合や、就労形態が「無職」、「自営」の場合、奨学金を希望する割合が高く、昨年度同様統計的に有意

な関連が見られた。

図表 2-4 父親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	123	217	340	
		%	36.2%	63.8%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	1	0	1	
		%	100.0%	0.0%	100.0%	
	自営	度数	17	20	37	
		%	45.9%	54.1%	100.0%	
	無職	度数	3	3	6	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	いない	度数	14	3	17	
		%	82.4%	17.6%	100.0%	
	合計		度数	158	243	401
			%	39.4%	60.6%	100.0%

** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。昨年度とは異なり、今年度は「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間に有意な関連が見られた。有職母親の就労形態は「フルタイム」、「パートタイム」、「自営」それぞれであり、奨学金の希望率に大きな差はないが、「パートタイム勤務」の場合の奨学金希望率が最も高い。また、母親が「いない」場合や、母親の就労形態が「無職」である場合より、有職である場合の奨学金の希望率が高い。

図表 2-5 母親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	64	91	155	
		%	41.3%	58.7%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	68	64	132	
		%	51.5%	48.5%	100.0%	
	自営	度数	11	14	25	
		%	44.0%	56.0%	100.0%	
	無職	度数	16	66	82	
		%	19.5%	80.5%	100.0%	
	いない	度数	0	3	3	
		%	0.0%	100.0%	100.0%	
	合計		度数	159	238	397
			%	40.1%	59.9%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-6 は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表2-6 入学後の暮らし向きと奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	134	86	220
		%	60.9%	39.1%	100.0%
	ゆとりがある	度数	25	155	180
		%	13.9%	86.1%	100.0%
合計		度数	159	241	400
		%	39.8%	60.3%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-7 は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200 万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。世帯年収が概ね 1000 万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が 1000 万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低く、昨年度同様有意な関連が見られた。

昨年度と比べてみると、世帯年収が「800 万円以上 1000 万円未満」の場合の奨学金の希望率だけは 20.6 ポイント上昇したのに対し、他の場合の奨学金の希望率はそれぞれ低下した。その中で比較的に変化が激しいのは、「400 万円以上 600 万円未満」(24.8 ポイント低下)、「600 万円以上 800 万円未満」(22.6 ポイント低下) である。

図表 2-7 世帯年収と保護者の奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	21	4	25
		%	84.0%	16.0%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	23	14	37
		%	62.2%	37.8%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	18	22	40
		%	45.0%	55.0%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	46	38	84
		%	54.8%	45.2%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	23	65	88
		%	26.1%	73.9%	100.0%
	1200万円以上	度数	29	95	124
		%	23.4%	76.6%	100.0%
合計		度数	160	238	398
		%	40.2%	59.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-8 は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200 万円以上」の選択肢

は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が 600 万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が 600 万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低く、有意な関連が見られた。これは 2017 年度からの傾向と同じである。

図表 2-8 家計支持者年収と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	28	7	35	
		%	80.0%	20.0%	100.0%	
	400万円以上600万円未満	度数	30	18	48	
		%	62.5%	37.5%	100.0%	
	600万円以上800万円未満	度数	45	48	93	
		%	48.4%	51.6%	100.0%	
	800万円以上1000万円未満	度数	36	54	90	
		%	40.0%	60.0%	100.0%	
	1000万円以上1200万円未満	度数	8	57	65	
		%	12.3%	87.7%	100.0%	
	1200万円以上	度数	14	54	68	
		%	20.6%	79.4%	100.0%	
	合計		度数	161	238	399
			%	40.4%	59.6%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-9 は「本人の奨学金受給経験」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは従来と同様の結果で、両者の間には有意な関連が見られた。

図表 2-9 奨学金受給経験と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
本人の奨学金受給 経験	経験なし	度数	128	233	361
		%	35.5%	64.5%	100.0%
	経験あり	度数	33	11	44
		%	75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	161	244	405
		%	39.8%	60.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-10 は「保護者の学生寮認知」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。これは従来と同様の結果であった。

図表 2-10 学生寮認知と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	134	160	294
		%	45.6%	54.4%	100.0%
	知らない	度数	27	84	111
		%	24.3%	75.7%	100.0%
合計		度数	161	244	405
		%	39.8%	60.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-11 は「保護者の学生寮希望」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示され、有意な関連が見られた。これは従来と同様の傾向であった。

図表 2-11 学生寮希望と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮希望	希望する	度数	83	66	149
		%	55.7%	44.3%	100.0%
	希望しない	度数	74	174	248
		%	29.8%	70.2%	100.0%
合計		度数	157	240	397
		%	39.5%	60.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

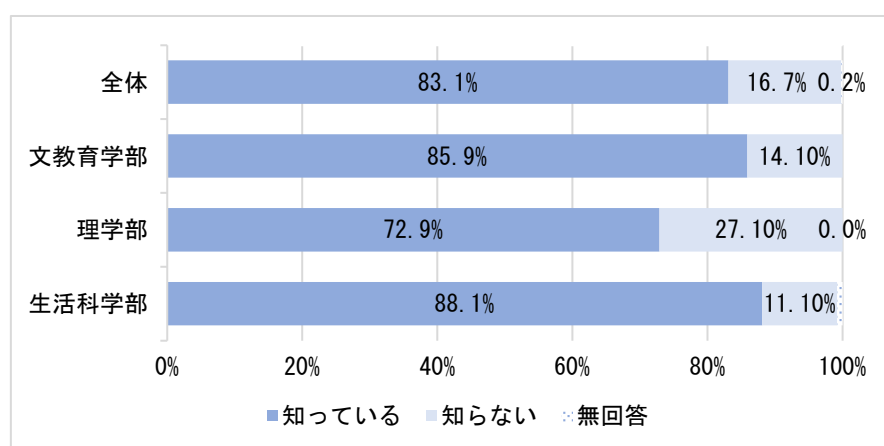
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

＜学生寮の認知＞

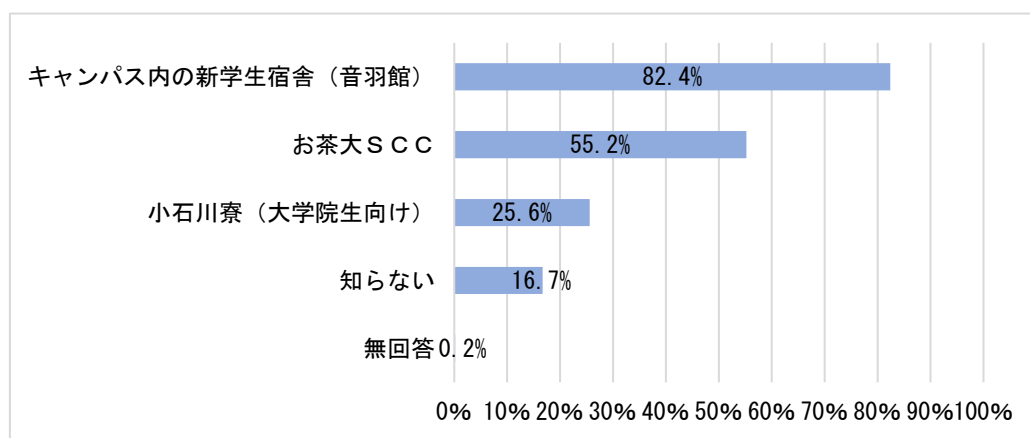
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では83.1%の新入生が学生寮について認知しており、平成29年度以来の最高値に達している。

学部別にみると、理学部が他学部比べて低い結果となっており、これは従来と同様の結果である。ただ、理学部の認知率は上昇を続けており、一昨年度から今年度まで51.0%→68.4%→72.9%と上昇している。



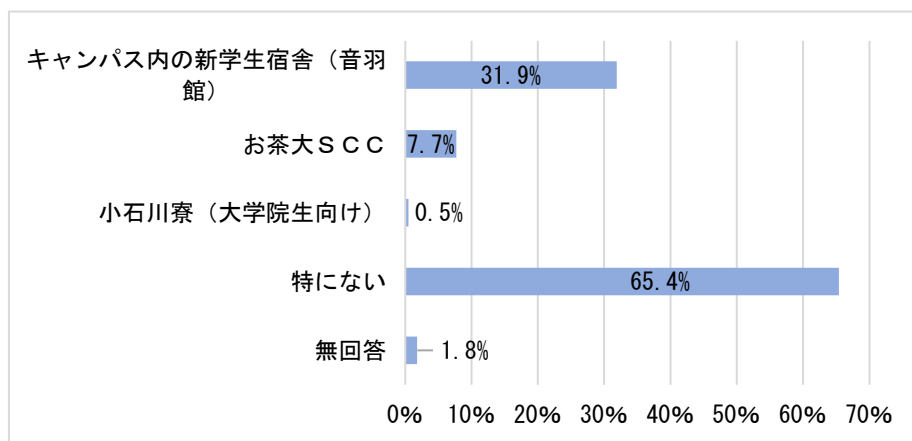
図表3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表3-2では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学にはキャンパス内の新学生宿舎である音羽館、シェアハウス型教育寮であるお茶大SCC（学部1・2年生対象）、自治寮である小石川寮（大学院生対象）の3つの学生寮がある。認知率は、音羽館が82.4%と最も高く、次いでお茶大SCCが55.2%、小石川寮が25.6%である。昨年度の認知率と比較すると、音羽館は69.7%からさらに12.7%増加している。お茶大SCCと小石川寮の認知度は昨年度低下していたが、今年度はそれぞれ7%と3.4%増加し回復傾向を見せている。



図表3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特になし」と回答した新生入生が最も多く 65.4%であり、昨年度の 65.8%からは 0.4%低下した。音羽館を希望する学生は 31.9%で、お茶大 SCC を希望する学生は 7.7%、小石川寮は 0.5%であった。昨年度の希望率と比較すると、音羽館と小石川寮はそれぞれ 1.9%、0.3%上昇し、お茶大 SCC は 1.9%低下した。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望 (寮別)

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新生入生が本学の学生寮について認知しているかを明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4~3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表 3-4 では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 3-4 きょうだい数と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	58	14	72
		%	80.6%	19.4%	100.0%
	2人きょうだい	度数	214	46	260
		%	82.3%	17.7%	100.0%
	3人以上	度数	95	14	109
		%	87.2%	12.8%	100.0%
合計		度数	367	74	441
		%	83.2%	16.8%	100.0%

n.s. 注 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

図表 3-5 は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間に有意な関連が見られたのは平成 28 年度で、それ以降はずっと有意な関連が見られなかったが、今年度再び有意な関連が見られた。出身高校設置者が「国立」、「公立」、「私立」、「海外」になるにつれ、学生寮の認知率は下がっていく。

図表 3-5 出身高校設置者と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	240	38	278
		%	86.3%	13.7%	100.0%
	私立	度数	105	31	136
		%	77.2%	22.8%	100.0%
	国立	度数	18	2	20
		%	90.0%	10.0%	100.0%
	海外	度数	3	2	5
		%	60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	366	73	439
		%	83.4%	16.6%	100.0%

* 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-6 は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 3-6 奨学金受給経験と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	327	68	395
		%	82.8%	17.2%	100.0%
	経験あり	度数	40	6	46
		%	87.0%	13.0%	100.0%
合計		度数	367	74	441
		%	83.2%	16.8%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-7 では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 3-7 居住予定の住居と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の居住予定	実家以外	度数	167	9	176
		%	94.9%	5.1%	100.0%
	実家	度数	200	65	265
		%	75.5%	24.5%	100.0%
合計		度数	367	74	441
		%	83.2%	16.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 3-8 仕送り額と学生寮認知 のクロス表

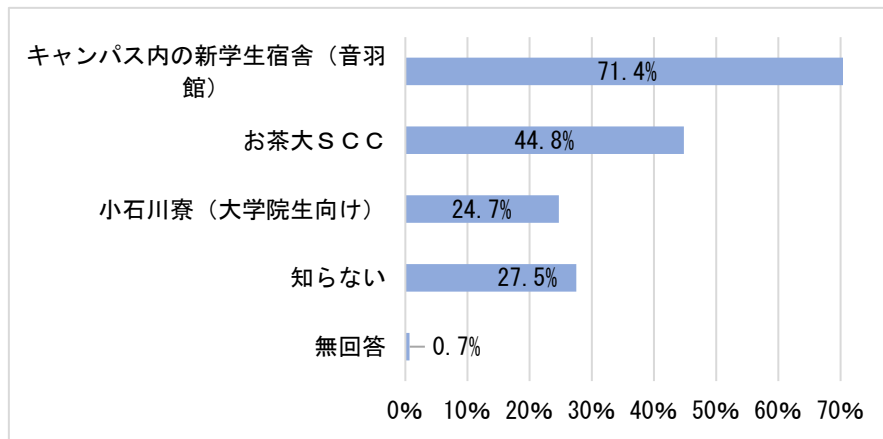
			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	14	2	16
		%	87.5%	12.5%	100.0%
	5万円未満	度数	14	1	15
		%	93.3%	6.7%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	57	2	59
		%	96.6%	3.4%	100.0%
	10万円以上	度数	82	4	86
		%	95.3%	4.7%	100.0%
合計		度数	167	9	176
		%	94.9%	5.1%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

② 保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

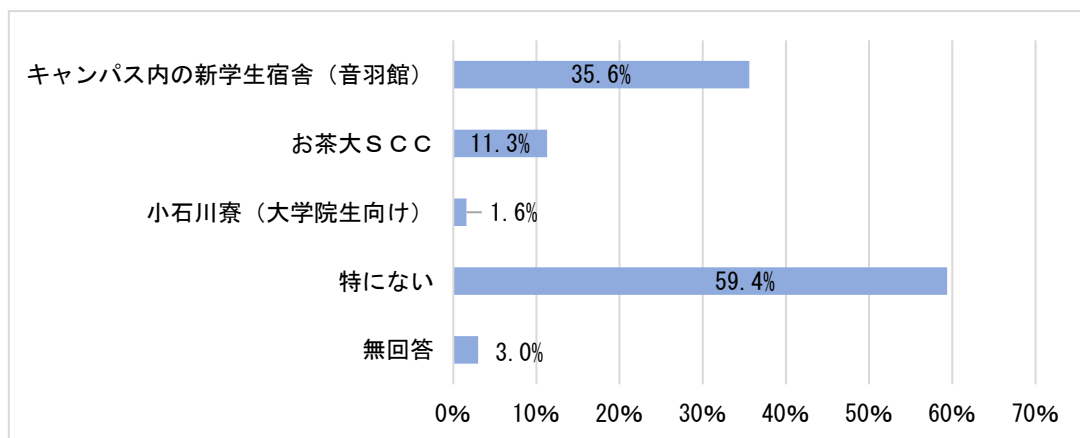
図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。認知率が最も高かったのは、音羽館で 71.4%である。次いでお茶大 SCC が 44.8%、小石川寮が 24.7%である。昨年度に比べてみると、それぞれ 3.7%、1.9%と 0.8%増加している。「知らない」と回答した割合は 27.5%で、昨年度の 29.7%から 2.2%下がった。



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

音羽館への入寮希望が 35.6%、次いでお茶大 SCC が 11.3%、小石川寮が 1.6%であり、入寮希望について「特にない」が 59.4%である。昨年度の入寮希望率と比べて見ると、音羽館と SCC はそれぞれ 1.2%、0.5%上昇し、小石川寮は昨年度と同じ希望率である。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。「家計支持者」と保護者の学生寮希望との間には、有意な関連が見られなかった。

図表 4-3 家計支持者と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親	度数	140	221	361
		%	38.8%	61.2%	100.0%
	母親	度数	14	25	39
		%	35.9%	64.1%	100.0%
	入学者	度数	8	8	16
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	その他	度数	1	1	2
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	163	255	418
		%	39.0%	61.0%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親が「いない」場合や、就労形態が「自営業」の場合に学生寮を希望する割合がやや高い傾向が見られた。ただし、「父親の就労形態」と「入寮希望」には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 4-4 父親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	134	220	354
		%	37.9%	62.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	自営業	度数	15	21	36
		%	41.7%	58.3%	100.0%
	無職	度数	2	4	6
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	いない	度数	8	10	18
		%	44.4%	55.6%	100.0%
合計		度数	159	256	415
		%	38.3%	61.7%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-5 は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親の就労形態は「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」、「自営業」などそれぞれであるが、学生寮を希望する割合には大きな差がみられず、「母親の就労形態」と「入寮希望」との間にも有意な関連は昨年度同様見られなかった。

図表 4-5 母親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	69	95	164
		%	42.1%	57.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	49	87	136
		%	36.0%	64.0%	100.0%
	自営業	度数	14	11	25
		%	56.0%	44.0%	100.0%
	無職	度数	27	56	83
		%	32.5%	67.5%	100.0%
	いない	度数	0	4	4
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	159	253	412
		%	38.6%	61.4%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 4-6 入学後の暮らし向きと入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	119	110	229
		%	52.0%	48.0%	100.0%
	ゆとりがある	度数	41	144	185
		%	22.2%	77.8%	100.0%
合計		度数	160	254	414
		%	38.6%	61.4%	100.0%

*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400万円未満から 1800万円以上までを回答項目としていたが、「1200万円以上」の回答数が少ないため「1200万円以上 1400万円未満」「1400万円以上 1600万円未満」「1600万円以上 1800万円未満」「1800万円以上」は合算してクロス表を作成した。

最も入寮希望率が高かったのは世帯年収が「800万円以上 1000万円未満」(52.2%)であり、ついで「400万円未満」の 46.2%であったが、有意な関連は見られなかった。

図表 4-7 世帯年収と入寮希望 のクロス表

		保護者の入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	12	14	26
		%	46.2%	53.8%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	14	24	38
		%	36.8%	63.2%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	19	23	42
		%	45.2%	54.8%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	42	47	89
		%	47.2%	52.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	37	54	91
		%	40.7%	59.3%	100.0%
	1200万円以上	度数	38	89	127
		%	29.9%	70.1%	100.0%
合計		度数	162	251	413
		%	39.2%	60.8%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「保護者の入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。

家計支持者の年収が 1000 万円未満の場合、学生寮を希望する割合は約半数で、家計支持者の年収が 1000 万円以上の場合、学生寮を希望する割合は 20% 台に落ちる。また、一昨年度同様、家計支持者の年収と入寮希望との間に有意な関連が見られた。

一つ例外は家計支持者の年収が 400 万円以上 600 万円未満の場合、学生寮を希望する割合が 36% という低い数値になっていることである。

図表 4-8 家計支持者年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	18	19	37
		%	48.6%	51.4%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	18	32	50
		%	36.0%	64.0%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	49	50	99
		%	49.5%	50.5%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	42	51	93
		%	45.2%	54.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	18	51	69
		%	26.1%	73.9%	100.0%
	1200万円以上	度数	17	49	66
		%	25.8%	74.2%	100.0%
合計		度数	162	252	414
		%	39.1%	60.9%	100.0%

** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-9 は「学生の奨学金受給経験」と「保護者の入寮の希望」のクロス表である。今年度の調査でも昨年度同様に、奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い結果を示したが、さほど大きな差とは言えない。また、両者の間に有意な関連は見られなかった。

図表 4-9 奨学金受給経験と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生の奨学金受給経験	経験なし	度数	141	235	376
		%	37.5%	62.5%	100.0%
	経験あり	度数	22	22	44
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	163	257	420
		%	38.8%	61.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-10 は「保護者の学生寮認知」と「保護者の入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く、昨年度同様に有意な関連がみられた。

図表 4-10 学生寮認知と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	161	143	304
		%	53.0%	47.0%	100.0%
	知らない	度数	2	114	116
		%	1.7%	98.3%	100.0%
合計		度数	163	257	420
		%	38.8%	61.2%	100.0%

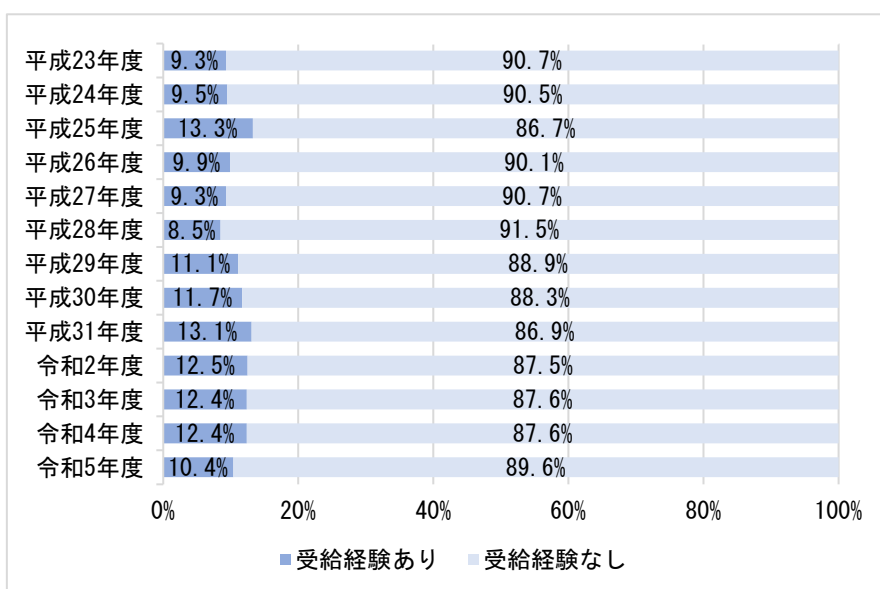
*** 注 *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

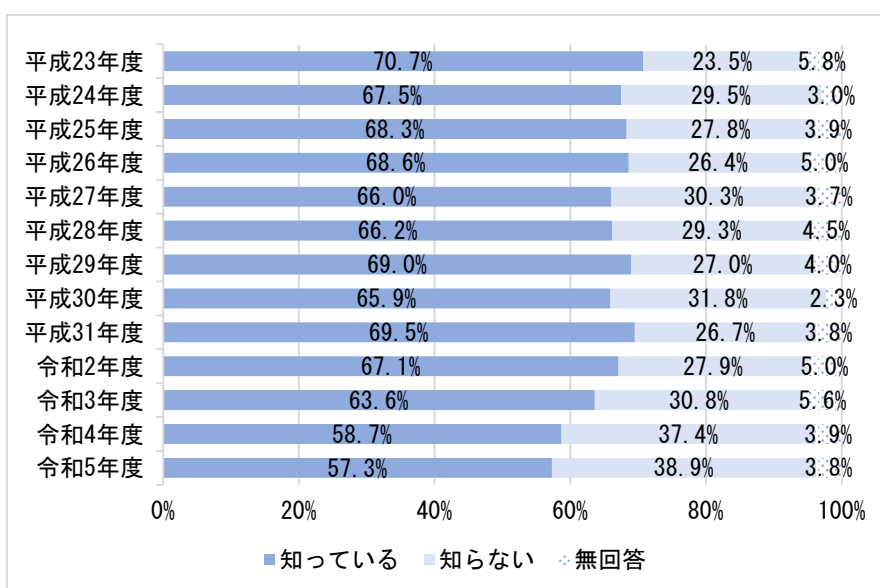
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去 12 年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表 5-1～5-3 に示す。

図表 5-1 は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去 12 年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が 10.4%であり、昨年度に比べ 2%低下している。



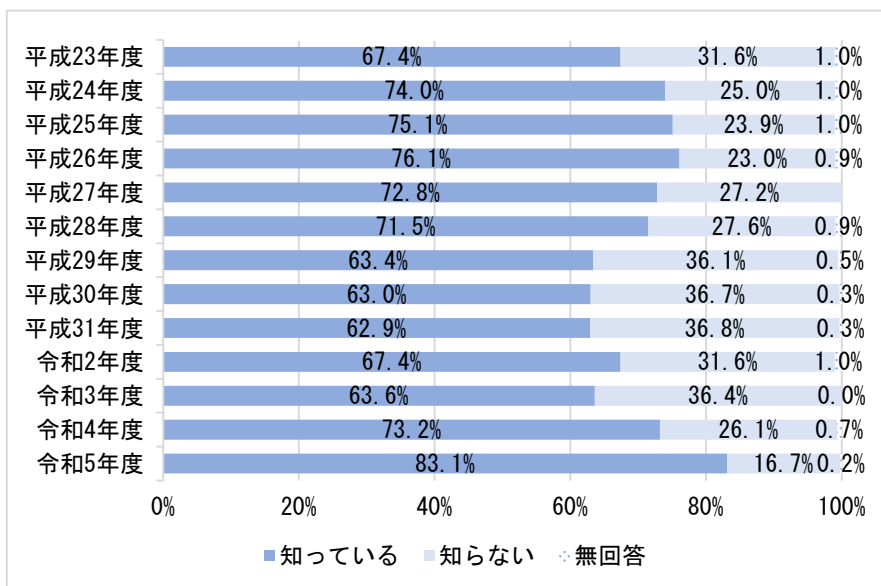
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表 5-2 は新入生の奨学金等制度の認知について過去 12 年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が 57.3%であり、全 13 年間の結果において、最も低い割合を示している。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 12 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率には起伏があったが、今年度は過去最高を記録し、80%台までに上昇した。

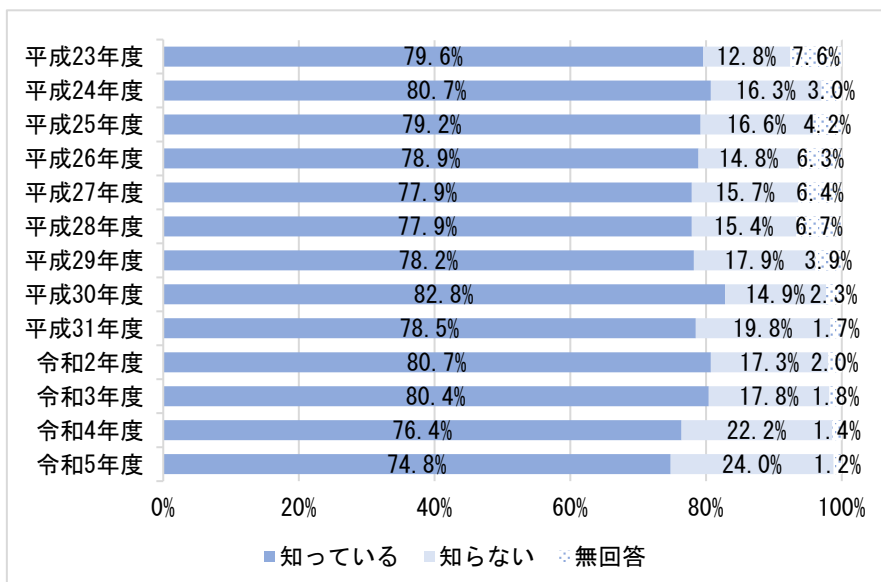


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

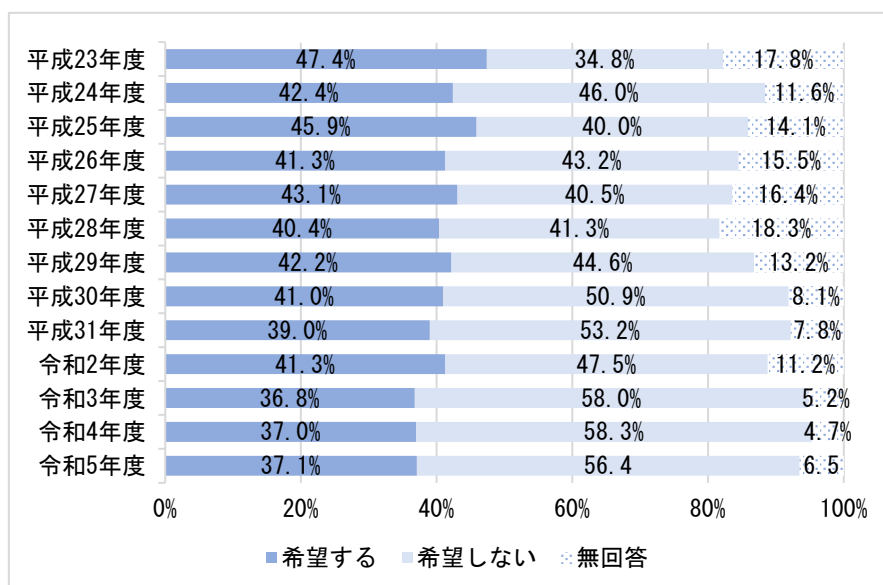
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 12 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す。

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 12 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 74.8%であり、大きな変動とはいえないが、全 13 年間の結果においては、最も低い割合を示している。



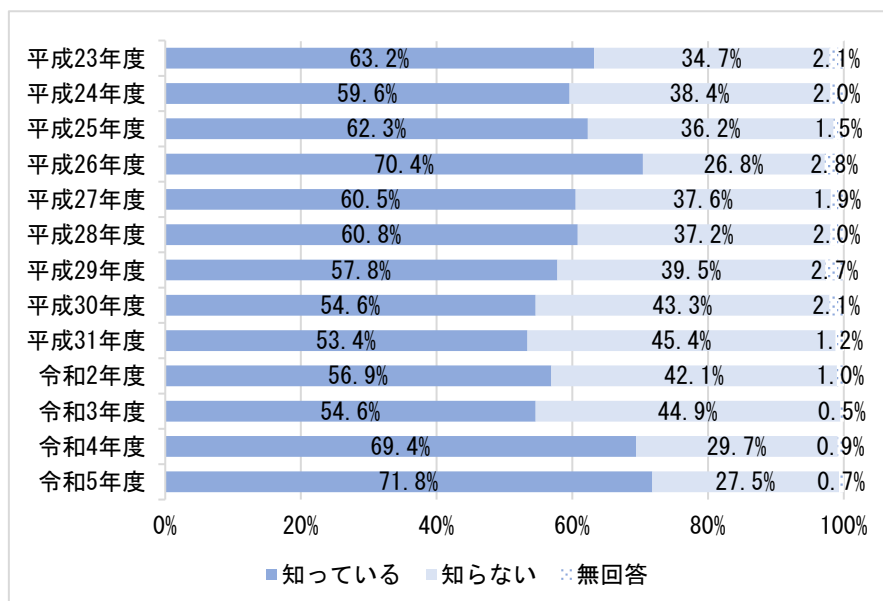
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 12 年間の結果と比較したものである。今年度は、「奨学金を希望しない」と回答した割合が 56.4%であり、過去の調査と比べて 3 番目に高い結果となった。奨学金の希望率は一昨年度からゆっくりではあるものの上昇傾向にある。



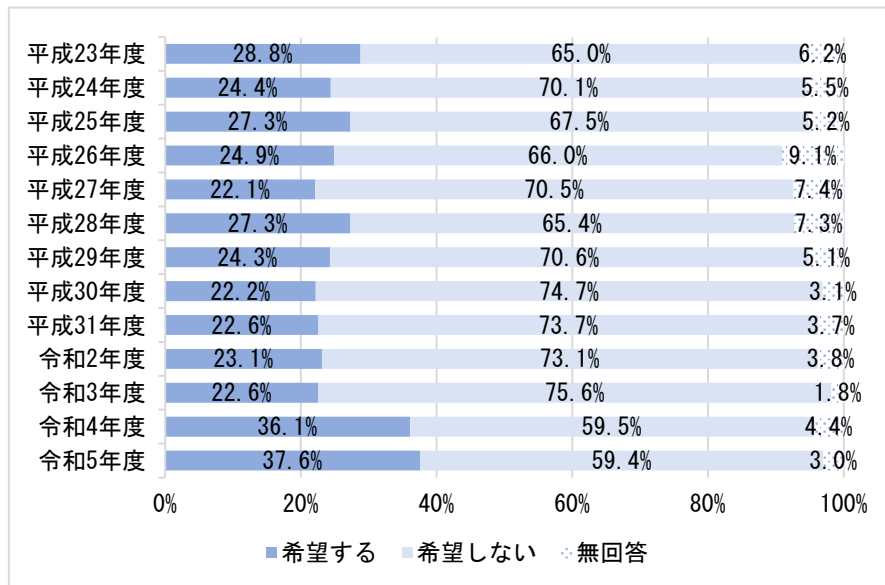
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 12 年間の結果と比較したものである。今年度の認知率は昨年度の 69.4%から 71.8%へとさらに増加し、全 13 年間で最も高い割合を示した。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 12 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合が 37.6%で、過去最高を記録した。



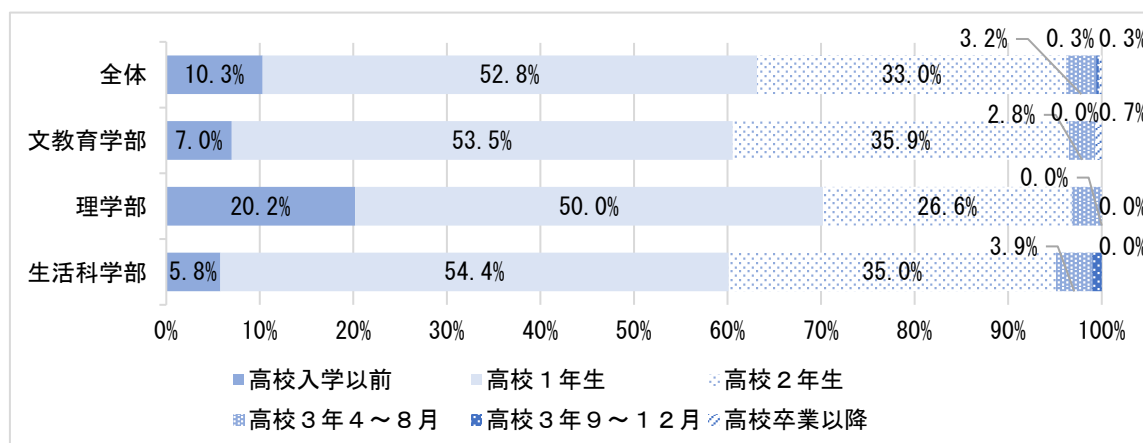
図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較

第4章 高校時代進路選択の分析結果

本章では、一般入試合格者429名(内、回答者339名)にこれまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねた結果を報告する。

図表1-1は、高校時代にコース(文系・理系)を決めた時期について、尋ねたものである。全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が52.8%(昨年度48.6%)と最も多い割合を示しており、次いで「高校2年生」が33.0%(昨年度36.9%)、「高校入学以前」が10.3%(昨年度11.8%)と続く。全体の96%以上が、高校3年生になる前に文理の選択が終了している。

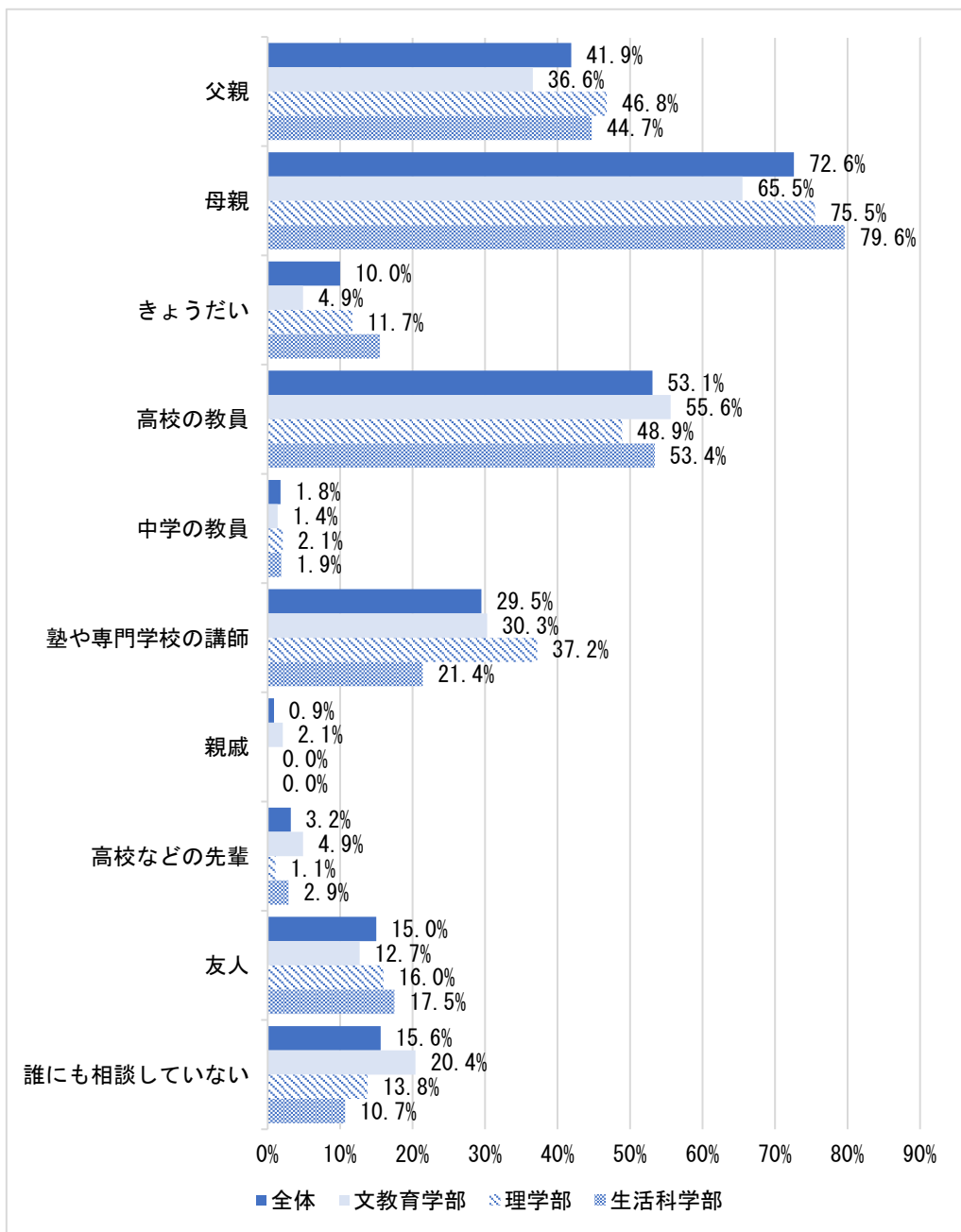
学部別に見ると、高校入学前に進路選択が行われている割合が最も高いのは、理学部で20.2%(昨年度15.5%)、次に文教育学部7.0%(昨年度11.7%)で、生活科学部は5.8%(昨年度8.2%)であった。昨年度の調査結果と比べて見ると、「高校入学以前」と「高校2年生」の時に進路選択を行った割合は、文教育学部と生活科学部が低下しているのに対し、理学部は上昇している。逆に、「高校1年生」の時に進路選択を行った割合は、文教育学部と生活科学部が増加し、理学部が低下した。



図表1-1 文理選択の時期

図表1-2では、専門(学科)を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の72.6%であり、次に「高校の教員」53.1%、「父親」41.9%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も15.6%と一定数あることが示された。

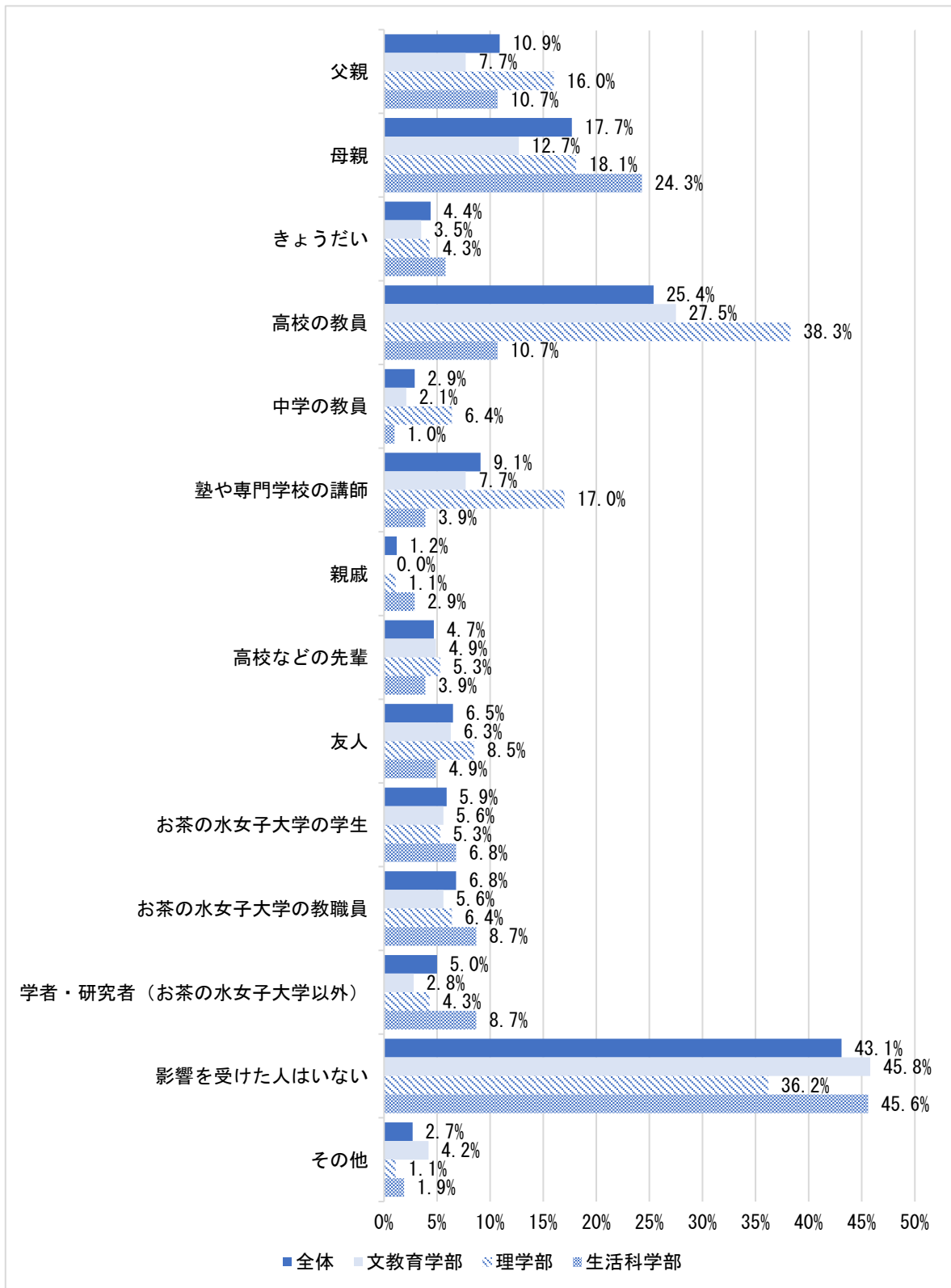
学部別に見ると、昨年度同様、どの学部においても相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 43.1%(昨年度 46.2%)であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 25.4%(昨年度 19.3%)、次に「母親」が 17.7%(昨年度 15.1%)、「父親」が 10.9%(昨年度 7.9%)であった。

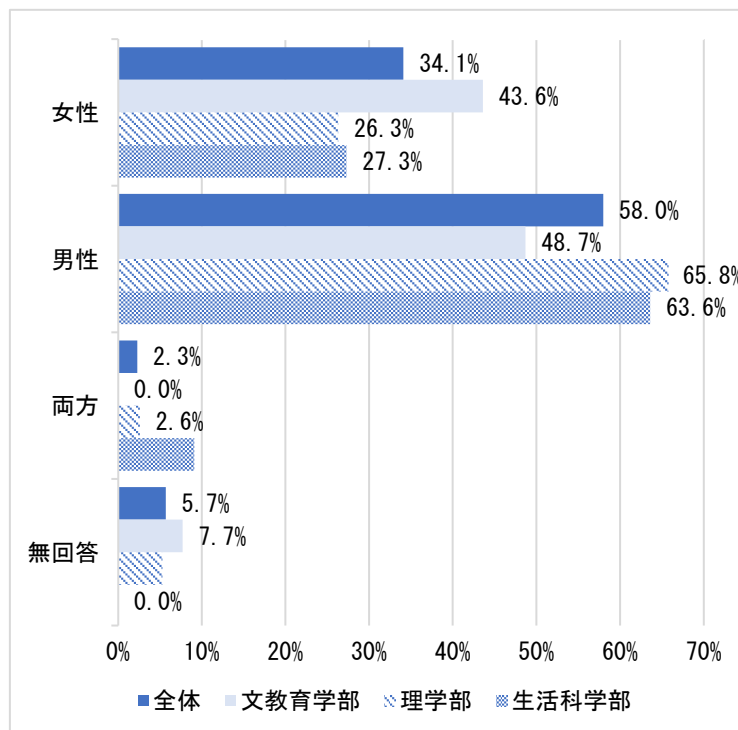
学部別にみると昨年度同様、文教育学部及び理学部では、最も影響を受けたのは「高校の教員」であり、生活科学部の場合は「母親」である。また、理学部は文教育学部と生活科学部に比べ、「影響を受けた人はいない」の数値が最も低かった。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 88 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6、1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

昨年度は生活科学部においては男性教員より女性教員から影響を受けたと回答した割合が 20%も高かったが、今年度はどの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高い。全体的にも女性教員から影響を受けたと回答した比率が昨年度の 47.1%から 34.1%に低下し、男性教員から影響を受けた比率が昨年度の 52.9%から 58%に増加している。



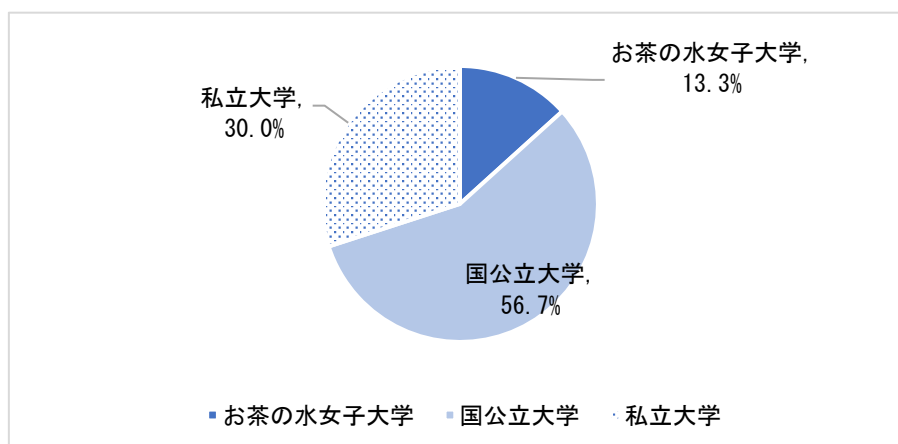
図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	世界史(3)、国語(3)、英語(2)、倫理(1)、日本文学(1)、歴史(1)、社会(1)、化学(1)
	言語文化学科	英語(8)、国語(4)、世界史(1)
	人間社会科学科	地理(2)、英語(1)
	芸術・表現行動学科	音楽(2)、国語(1)、社会(1)、英語(1)
理学部	数学科	数学(3)
	物理学科	物理(6)、数学(2)、生物(1)
	化学科	化学(4)、数学(2)、国語(1)
	生物学科	生物(7)、化学(1)
	情報科学科	化学(1)、物理(1)
生活科学部	食物栄養学科	理科(1)、生物(1)
	人間・環境科学科	
	人間生活学科	英語(2)、世界史(1)
	心理学科	世界史(1)、日本文学(1)、国語(1)

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 30 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国公立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、13.3%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示されたが、昨年度の 17.6%からはやや低下している。その代わりに、お茶の水女子大学以外の国公立大学を卒業した教員からの影響が昨年度に比べ、3.8%上昇した。

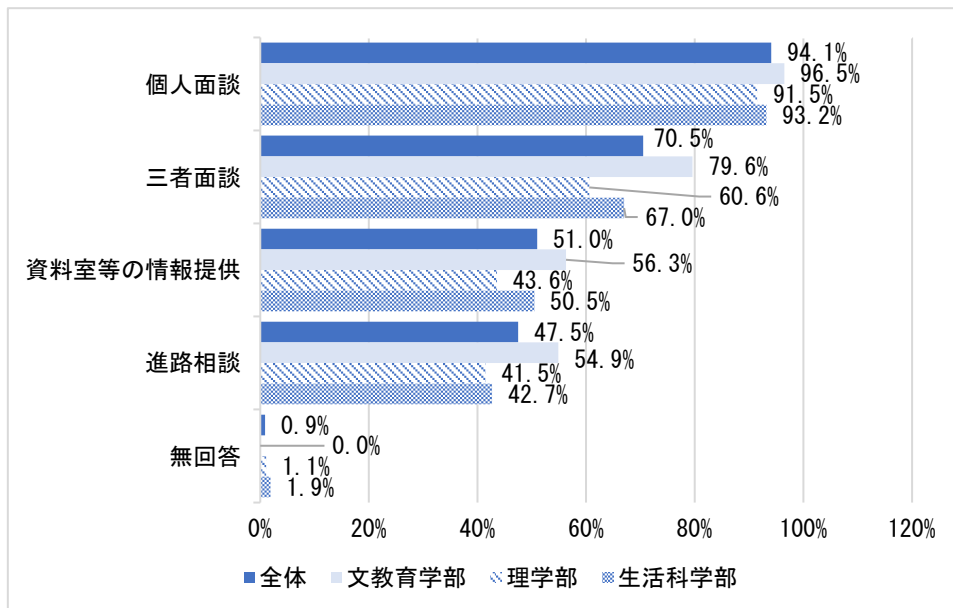


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

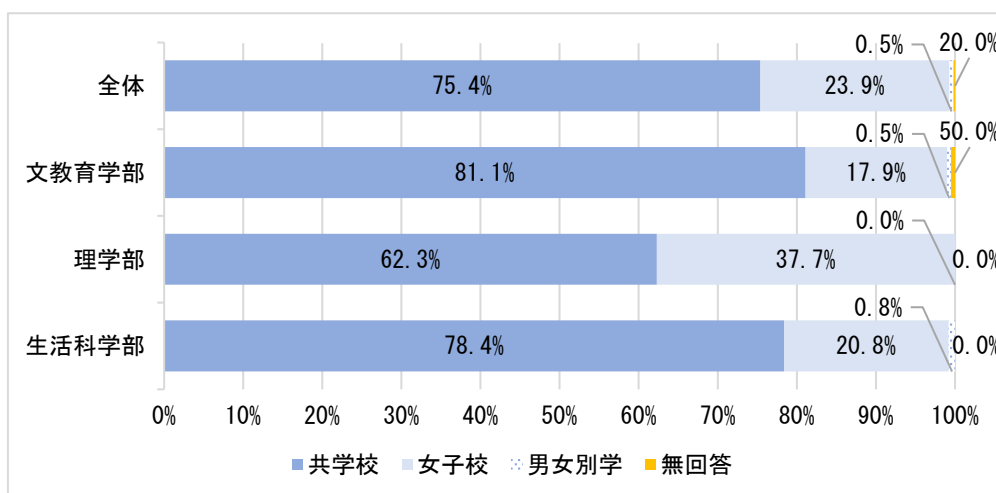
国公立大学	お茶の水女子大学(4)、鹿児島大学(2)、東京学芸大学(2)、広島大学(2)、金沢大学(1)、群馬大学(1)、東北大学(1) 茨城大学(1)、岐阜大学(1)、千葉大学(1)、奈良女子大学(1)、筑波大学(1)、北海道大学(1)、宮崎大学(1)、東京大学(1)
私立大学	早稲田大学(4)、東京理科大学(2)、慶応義塾大学(2)、立教大学(1)

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の 4 つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で 94.1%であり、「三者面談」が第二位を占めている。文教育学部と生活科学部は第三位が「資料室などの情報提供」であるのに対し、理学部の場合第三位は「進路相談」になっている。



図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

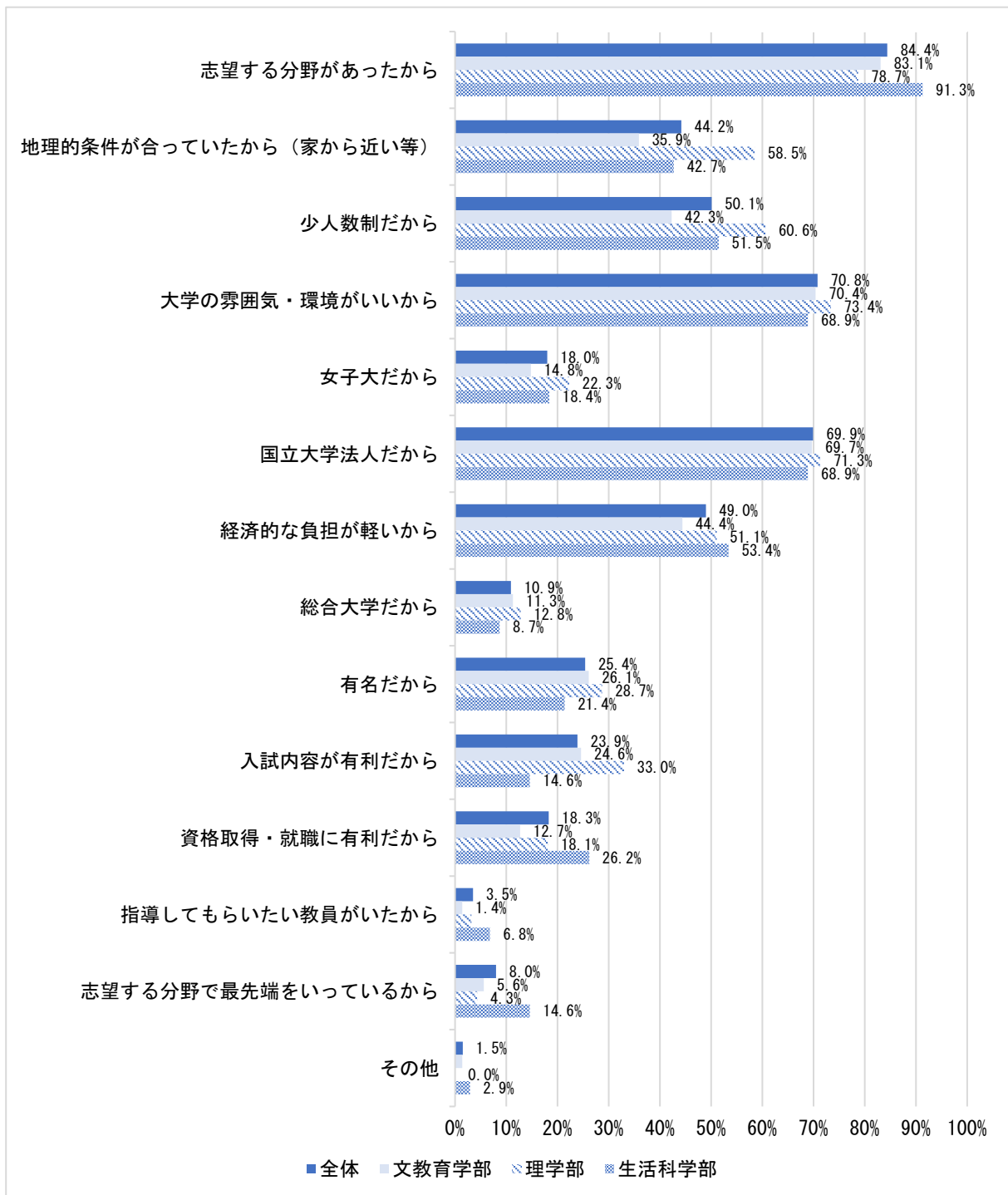
図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 75.4%、「女子校」として回答した割合は 23.9%であった。学部別にみると、理学部では昨年度同様、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて低い結果であった。



図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校/男女別学）

図表 1-10 は、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは昨年度同様、「志望する分野があったから」で 84.4%であり、昨年度の 77.9%より 6.5%増加している。次に、「大学の雰囲気・環境がいいから」が 70.8%で、昨年度の 58.9%より 11.9%上昇し、順位も第三位から第二位に上昇した。一方で、昨年度第二位を占めていた「国立大学法人だから」は 69.9%（昨年度 64.4%）で、僅差で第三位になっている。学部別にみると、文教育学部・理学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」で同じである。



図表 1-10 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

図表 1-11 学科を選んだ理由（複数選択可）

	興味あることを学べるから	広く学べるカリキュラムが魅力的だから	今年合格できることを優先したから	将来役に立つことを学べるから	就職に有利だから	設備、学修環境が魅力的だから	資格を取得できるから
人文科学科 (41名)	92.7%	39.0%	22.0%	24.4%	9.8%	22.0%	14.6%
言語文化学科 (52名)	94.2%	26.9%	15.4%	25.0%	1.9%	9.6%	17.3%
人間社会科学科 (29名)	86.2%	55.2%	6.9%	24.1%	0.0%	10.3%	13.8%
芸術・表現行動学科 (20名)	100.0%	35.0%	0.0%	25.0%	0.0%	40.0%	5.0%
数学科 (14名)	57.1%	7.1%	78.6%	14.3%	14.3%	21.4%	7.1%
物理学科 (22名)	95.5%	31.8%	18.2%	18.2%	9.1%	22.7%	4.5%
化学科 (16名)	87.5%	25.0%	25.0%	56.3%	12.5%	56.3%	6.3%
生物学科 (19名)	100.0%	47.4%	0.0%	26.3%	0.0%	21.1%	5.3%
情報科学科 (23名)	78.3%	26.1%	21.7%	60.9%	43.5%	13.0%	0.0%
食物栄養学科 (31名)	96.8%	16.1%	3.2%	64.5%	6.5%	19.4%	74.2%
人間・環境科学科 (21名)	85.7%	76.2%	4.8%	38.1%	9.5%	33.3%	28.6%
人間生活学科 (30名)	93.3%	70.0%	13.3%	30.0%	6.7%	16.7%	0.0%
心理学科 (21名)	100.0%	33.3%	0.0%	57.1%	0.0%	14.3%	38.1%
全体 (339名)	91.2%	38.1%	14.5%	34.8%	8.0%	20.6%	18.0%

※表中、全体よりも割合が多い場合に網かけ

第5章 考察および今後の課題

(1) 令和5年度新入生に関する考察

第1章から第4章までの結果を踏まえ、本調査の目的である令和5年度新入生の大学教育と将来へのニーズ、新入生が予定している標準的な学生生活の状況についてまとめる。

① 大学教育と将来へのニーズ

令和5年度新入生が本学の教育に対して何を期待し、どのような将来展望をもっているのかについて概観する。まず、本学を志望した理由に関する回答結果から教育に対する期待を確認したい。第4章 図表 1-10、図表 1-11 で示した通り、本学は「志望する分野があったから」選択されており、その割合は 84.4%である。「志望分野がある」以外には、国立大学 (69.9%) で経済的負担が比較的軽く (49.0%)、地理的条件が合致している (44.2%) という理由から志望・選択されていることがわかる。この結果から設置者とそれに伴う授業料、立地といった「ハード」面が本学の選択理由であると考えられる。一方、少人数制であることや広く学べるカリキュラムを挙げた割合はそれぞれ 50.1%、38.1%である。「ソフト」面ともいえる教育内容に魅力を感じて選択した学生は半数程度である。

学科の選択理由についてもまとめる。第4章図表 1-11 で示した通り、学科選択は学部同様に「興味があることが学べる」ことに加えて、「将来に役立つことを学べる」という基準でも選択されていることがわかる (34.8%)。特にこの理由をあげたのは理学部化学科および情報科学科、生活科学部食物栄養学科および心理学科であり、回答者の6割に上っている。食物栄養学科と心理学科は資格取得への期待も同時に高く、さらに「資格試験に合格するまで就職しない」と回答する割合も多い。情報科学科は「就職に有利」との理由で選ばれることが多い (情報科学科 43.5%、全体 8.0%)。

大学や学科の選択理由は上述の通りであるが、「受験時にはお茶大を第一志望」として受験し入学した者は令和5年度新入生も例年通り多数 (86.4%) ある。また、ほぼ全員が「大学の授業」を頑張ろうと考えている学習意欲の高さも例年通りである。

これらを合わせて考えると、志望する分野がある国立大学で興味があることを授業から学びたいというのが新入生の教育に対する主なニーズと捉えられよう。また、将来に役立つことを学びたいというニーズもある。そのような教育を経て、学部卒業後は民間企業もしくは公務員として仕事をするというのが文系学科入学者の希望であり、学部卒業後は大学院に進学し、大学院修了後に民間企業に就職するというのが理系学科入学者の希望であることが想像できる。ただし、上記で述べたように資格が必要な専門職を目指して本学・学科を選択している学生も一定の割合存在している。

② 新入生の標準的な学生生活

新入生が入学時点で予定していた標準的な学生生活の概要についてまとめる。まず、入学後の住居の場所と種類について確認する。令和5年度入学者のうち、実家から通うことを想定している学生は55%と半数以上である。このうち、東京都内から通学する学生がもっとも多く (110

名)、神奈川、埼玉、千葉と続くが、これらの4都県以外の実家から通学することを想定している学生も少数ながら存在している。

実家以外に居住することを想定している学生のほとんど(94.5%)が東京都内で暮らすことを予定していた。また、入学後の住居の予定に関して詳細を分析した結果(p.10)とそれぞれの寮の定員を踏まえると、希望した住居で大学生活を始めることができていることが想定される¹¹。

次にどのような活動を想定しているかについて概観する。入学後頑張ろうと思っている活動として、ほとんどの学生が授業をあげているが、それ以外にもクラブ・サークル活動(71.5%)、アルバイト(76.5%)、友達との交流(76.5%)、趣味(54.1%)と様々な活動を頑張りたいという気持ちが高い。アルバイトについては、一人暮らしかどうか、仕送りの金額、授業料の負担状況によらず、「学期中に定期的、長期休暇期間にも」もしくは「学期中定期的に」アルバイトをすることを想定している学生が7割程度存在し、アルバイトが日々の生活に組み込まれていると考えられる。つまり、大学での授業のほかに、クラブ・サークル、アルバイト、友だちと遊ぶ、趣味、さらには留学と様々な活動に取り組みたいという意欲がある。

大学入学後の家庭の暮らし向きについても確認しておきたい。本学に通う学生の世帯収入は比較的高い傾向が見られた。しかし、入学後、寮または実家以外の賃貸アパート・マンションに居住する場合、実家から通学する場合に比べると仕送りの金額にかかわらず「ゆとりがない」「あまりゆとりがない」と回答する保護者の割合が多い。こういった中で、音羽館の開寮によって学生寮を選択できるようになり、住居費の負担が抑えられている可能性がある。利便性と安全性が高い学生寮の設置は、学生に対する利益だけではなく、わずかではあるかもしれないが学生の家族に対しての利益にもなっていると考えられる。

(2) 奨学金と学生寮に関する考察

第3章で述べた学生支援における奨学金・学生寮の結果についてまとめ、考察する。

① 奨学金

まず、奨学金を期待する新入生像、保護者像をまとめる。第一に、新入生では、奨学金の受給経験がある者、入学後に予定している住居が「実家以外(賃貸マンション・アパート、学生寮)」の者、学生寮について認知している者には、奨学金など制度を認知している割合が高く、有意な関連が見られた。第二に、保護者の回答結果からは、家計支持者が「母親」である者、父親が「いない」者、あるいは「無職」や「自営」の者、母親が有職である者(特に、「パートタイム勤務」の者)、入学後の暮らし向きに「ゆとりがない」と感じている者、世帯年収が「1000万円未満」の者、家計支持者の年収が「600万円未満」の者、奨学金受給経験がある者、学生寮を知っている者、学生寮を希望している者に、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

次に、新入生の奨学金等制度の認知に関する傾向をまとめる。第一に、全体では57.3%の新

¹¹ ただし、一部の学生寮には距離制限や収入制限条件があるため、入寮希望すれば必ず入寮できるわけではない。

入生が奨学金等制度について認知しており、全 13 年間の結果において最も低い割合を示している。第二に、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の認知度は一昨年度から今年度まで 43.8%→31.4%→28.1%の変化であり、低下現象は続いているが低下のスピードは緩和される傾向である。

最後に、保護者票の奨学金制度の認知と利用希望についてまとめる。第一に、保護者の奨学金等制度の認知度は 74.8%であり、過去年度と比べ大きな変動とはいえないが、全 13 年間の結果においては最も低い割合を示している。本学のみがかずば奨学金の認知率は 22.9% で、昨年度に比べ 4%低下している。ほとんどの奨学金制度の認知度が昨年度に比べ低下した一方、「地方公共団体の奨学金」と「民間奨学団体の奨学金」の認知度は昨年度に比べ上昇している。第二に、保護者の奨学金の希望率は一昨年度からゆっくりではあるものの上昇傾向にある。昨年度は日本学生支援機構（第一種奨学金）の利用希望率ももっとも高かったが、今年度は民間奨学団体の奨学金の利用希望率が昨年度の 11.9%から 16.4%へと大きく伸び、もっとも高かった。本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の利用希望率は 11.3%で、昨年度に比べ 1.8%低下している。民間奨学団体の奨学金以外に、昨年度に比べ利用希望率が上昇しているのは、「日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金）」、「地方公共団体の奨学金」、「桜蔭会奨学金（3 年生向け）」である。

② 学生寮

まず、学生寮を認知している新入生像と、学生寮を希望する保護者像についてまとめる。新入生では、出身高校設置者が「国立」や「公立」の者、入学後の住居が「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」の者が、学生寮について認知している割合が高く、有意な関連が見られた。保護者では、家計支持者の年収が「1000 万円未満」の場合、入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」者、保護者が学生寮について認知している者の入寮希望が高く、有意な関連が見られた。

次に、新入生による学生寮の認知と入寮希望についてまとめる。第一に、今年度 83.1%の新入生が本学の学生寮について認知しており、平成 29 年度以来の最高値を記録した。学部別にみると、理学部が他学部比べて学生寮の認知度が従来通り低いが、一昨年度から 51.0%→68.4%→72.9%と上昇し続けている。また、寮別の認知度を見ると、昨年度に比べ、音羽館は 12.7%上昇し、認知度が低下していたお茶大 SCC と小石川寮も再びそれぞれ 7%と 3.4%上昇した。第二に、学生寮の希望率を見ると、昨年度に比べ音羽館と小石川寮はそれぞれ 1.9%、0.3%上昇したのに対し、お茶大 SCC は 1.9%低下した。

最後に、保護者による学生寮の認知と希望についてまとめる。第一に、保護者の認知度は全体で 71.8%に増加し、全 13 年間で最も高い割合を示した。寮別にみると、昨年度に比べ音羽館、お茶大 SCC、小石川寮の認知度がそれぞれ 3.7%、1.9%と 0.8%増加した。また、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合が 37.6%で、過去最高を記録した。昨年度の入寮希望率と比べて見ると、音羽館と SCC はそれぞれ 1.2%、0.5%上昇し、小石川寮は昨年度と同じ希望率である。

(3) 学生・キャリア支援における課題とその対応

本節では、(1) および (2) を踏まえて課題を整理し、対応について述べる。

① 大学教育と将来へのニーズに関わる課題とその対応

本学はカリキュラムをはじめとする教育内容に期待して選ばれているというよりは、学部構成と経済的負担が少ない国立大学であるという理由で選択される傾向が今回の調査結果から見られた。はじめに、この傾向に関して述べる。学び方が大きく変わる高校から大学への移行は、「何を」学ぶのかということに加えて「どのように」学ぶのかという視点や情報を入学以前にも知っておいてもらう、つまり、「何を」に対応する学部や分野だけでなく「どのように」の部分に期待を持ってもらうことが望ましいと考えられる。さらに、大学教育の質保証の観点からは、アドミッションポリシーに沿った学生に入学してもらうことも重要である。

何をどのように学ぶのかということ、すなわちカリキュラムはディプロマポリシーにもつながるものであり、大学ごとの特徴・特色でもある。カリキュラムや教育方法の特徴に関する情報提供は、受験可能性がある高校生が理解可能な形で入手できるよう、方法や内容を工夫していく必要がある。

本学の第一志望入学者の割合が8割を超えていること、ほぼ全員が「大学の授業」を頑張ろうと考えている学習意欲の高さは、調査開始以来継続している傾向である。カリキュラムや教育内容に関する情報を浸透させることは、入学前の教育イメージと実際のギャップを小さくし、学習意欲を持続させ、毎年多くの新入生が感じている「授業や単位取得」「進級や卒業」に関する不安も軽減できる可能性がある。

本学の選択理由および学科選択理由の結果から、興味があることを学びたいというニーズ比べると将来の役に立つことを学びたいというニーズは少ないことがわかった。将来の役に立つ学びは、本調査の結果においては大きく2つに分かれると考えられる。ひとつは就職に有利な分野で学ぶことであり、もうひとつは自身が付きたい職業に必要な資格取得のために学ぶことである。後者は資格を取得しないと希望する職業につけないという具体的な道筋が見えているが、前者は学ぶ内容と将来の関連付けが弱い可能性がある。大学から社会への接続という視点からは、興味があること、すなわち自身の専門と将来を大学生活のどこかのタイミングで関連付けて考えられるようにすることが望ましい。キャリア教育と専門教育の連携など自身の興味や自分が学ぼうとしていることがどのように将来につながっていくのかを考える機会を設ける工夫が必要であろう。こういった工夫は、「将来の目標が見つからない・わからない」というケースにも有効となると考える。

② 学生生活に関する課題と支援

本学の学生は、不安をもちつつも授業を優先して頑張ろうと考えており、クラブ・サークル活動、アルバイト、友だちとの交流、さらには趣味や留学もしたいと考えている。つまり、様々なことをしたい、と考えている。このように様々な活動を頑張ろうと思っている学生の課題として考えられるのは、時間とお金である。

実家から通学する学生は音羽館に居住する学生と比べて通学時間がかかる。一都三県以外から通学する学生もあり、通学により多くの時間を要することで自由に使える時間が削られ、希望する活動が難しい、必要な学習時間が確保できない可能性がある。時間の使い方と活動の優先順位、大学生活のプランを考える機会を設けることで、興味ある活動をあきらめたり、活動が過多になり生活に支障をきたしたりといったことが防止できる可能性がある。

一方、一人暮らしをしている学生は、お金の問題がある。東京で一人暮らしをするためには家賃だけでなく生活費も高い。学生寮である音羽館は通常の賃貸アパートやマンションに比べれば安価ではあるが、毎月6万円程度の住居費の負担は発生する。一人暮らしを支えるために仕送りをするのは、家計支出が増え、残された「実家」の暮らし向きに影響を及ぼす場合が少なからずある。本学の学生はいわゆる一人っ子が多数ではなく、二人以上の子がいる家庭の方が多い。また、経済的な支援を期待している学生・保護者は4分の1に上る。こういった状況を踏まえて、制度や仕組みを整えることで学生が頑張りたいと考えていることを頑張れる、やりたいことを支えることが望まれる。

③ 奨学金と学生寮に関する課題と対応

最後に、本学の奨学金と学生寮に関する課題と対応についてまとめる。

まず、奨学金に関する課題は、新入生と保護者による認知度の低下にある。それは本学独自の「みがかずば奨学金」のみならず、奨学金制度全般にも当てはまる。そのため、奨学金の認知度を上昇させるための取り組みは引き続き必要であると考えられる。

そこで一つ糸口になるのが、新入生の「みがかずば奨学金」に対する認知度の変化の様子である。認知度の低下は認められるものの、今回のデータでは低下のスピードが緩和されていたため、昨年度の新たな取り組みや環境の変化に注目して今後の方針を考えることができるだろう。もう一つの糸口になるのは、「地方公共団体の奨学金」、「民間奨学団体の奨学金」と「桜蔭会奨学金(3年生向け)」である。ほとんどの奨学金制度の認知度が昨年度に比べ低下した一方、この3つの奨学金に対する保護者の認知度や希望率は昨年度に比べ上昇していた。特に、今年度は「民間奨学団体の奨学金」に対する利用希望率ももっとも高かった。そのため、今後本学の奨学金制度の広報や学生支援を考える際に、これらの奨学金に関する取り組みを参考にすることができる。

次に、学生寮に関する課題の一つは、新入生によるお茶大 SCC の希望率が平成 31 年度から継続して低下していることである。もう一つは、保護者による小石川寮の希望率が平成 29 年度以来一番低い比率を見せていることである。そのため、SCC は新入生向けに、小石川寮は保護者向けに、より各自の魅力が伝わるように広報の仕方を見直す必要がある。

そこで一つ手掛かりとなるのは、昨年度に比べ、新入生と保護者による音羽館、お茶大 SCC と小石川寮の認知度が全部上昇したことである。そのため、引き続き昨年度の学生寮広報の取り組みを継続していく必要がある。もう一つ手掛かりとなるのは、昨年度に比べ、新入生による音羽館と小石川寮の希望率が上昇したことと、保護者による音羽館と SCC への入寮希望率が上昇したことである。そのため、新入生向けの SCC の対策を考える際には音羽館と小石川寮の

取り組みを、保護者向けの小石川寮の対策を考える際には音羽館と SCC の取り組みを参考にできるだろう。

以上、本調査を通じて見えてきた知見をまとめてきたが限界もあり、新入生や保護者がなぜ特定の奨学金を申請するか、または学生寮に何を求めているかなどの問題については、別途補完的な調査が必要になるだろう。

新入生生活調査

<2023 年度 入学予定者用>

(一般選抜合格者および私費外国人留学生特別選抜合格者)

お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、お茶の水女子大学に合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、みなさんのご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<https://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入して下さい。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入下さい。
- 質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- 「⑨⑩=01」や⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- 表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- 入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、あなたや保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただけたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2023年4月7日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 新生生活調査担当 (03-5978-2646) へ、お知らせください。
- ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしく願いたします。

II. これまでの進路選択や学生生活について、お聞きします。

(1) あなたの小学校についてお答えください。

① あなたは、小学校に入学するために受験をしましたか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない ⑳

② あなたの小学校の設置者について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

転校している場合は、在学期間の最も長いものに○をつけてください。

1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外 ㉑

(2) あなたの中学校についてお答えください。

① あなたは、中学校に入学するために受験をしましたか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない ㉒

② あなたの中学校の設置者について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

転校している場合は、在学期間の最も長いものに○をつけてください。

1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外 ㉓

(3) あなたの高校についてお答えください。

① あなたは、高校に入学するために受験をしましたか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない ㉔

② あなたの高校について、それぞれあてはまるもの**1つずつ**に○をつけてください。

転校している場合は、在学期間の最も長いものに○をつけてください。

- A. 設置者は → 1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. 海外 5. 高等学校卒業程度認定試験 ㉕

↳ (4)へ

- B. 種類は → 1. 3年制 2. 中高一貫校 3. 中等教育学校 ㉖

- C. 共学かどうか → 1. 共学 2. 女子校 3. 男女別学 ㉗

- D. 学科は → 1. 普通科（理数科も含む） 2. 総合学科 ㉘

3. 専門学科（商業・工業、家庭、農業科など） 4. その他（ ）

(4) あなたが高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 高校入学以前 4. 高校3年4～8月
2. 高校1年 5. 高校3年9～12月 ㉙
3. 高校2年 6. 高校卒業以降

(11) あなたがお茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 興味のあることを学べるから | 5. 就職に有利だから |
| 2. 広く学べるカリキュラムが魅力的だから | 6. 設備、学修環境が魅力的だから |
| 3. 今年合格できることを優先したから | 7. 資格を取得できるから |
| 4. 将来に役に立つことを学べるから | 8. その他 () |

(12) 専門（学科）を選ぶ際に、どなたに相談しましたか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------|----------------|
| 1. 父親 | 5. 中学の教員 | 9. 友人 |
| 2. 母親 | 6. 塾や専門学校の講師 | 10. 誰にも相談していない |
| 3. きょうだい | 7. 親戚 | 11. その他 () |
| 4. 高校の教員 | 8. 高校などの先輩 | |

(13) あなたが専門（学科）を選ぶに当たって、影響を受けた人はありますか。

あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------|------------------------|
| 1. 父親 | 6. 塾や専門学校の講師 | 10. お茶の水女子大学の学生 |
| 2. 母親 | 7. 親戚 | 11. お茶の水女子大学の教職員 |
| 3. きょうだい | 8. 高校などの先輩 | 12. 学者・研究者(お茶の水女子大学以外) |
| 4. 高校の教員 | 9. 友人 | 13. 影響を受けた人はいない |
| 5. 中学の教員 | | 14. その他 () |

(14) (13) の方から影響を受けた内容はどのようなことでしたか。

(15) (13) で、「**4. 高校の教員**」または「**5. 中学の教員**」から影響を受けたと回答した方は、その先生の性別と専門、またもしわかれば、卒業した大学も教えてください。

- A. 性別 → 1. 女性 2. 男性
- B. 先生の専門 → ()
- C. 卒業大学 → () 大学

Ⅲ. 大学入学後の学生生活について、お聞きします。

(1) 大学入学後に居住予定の都道府県 **1つ**に○をつけてください。

- | | |
|--------|--------------|
| 1. 東京都 | 4. 神奈川県 |
| 2. 埼玉県 | 5. その他の県 () |
| 3. 千葉県 | |

※ (2) 大学入学後に予定している住居**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 実家 | 4. シェアハウス型教育寮 (お茶大 SCC) |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 |
| 3. キャンパス内の学生宿舎 (音羽館) | 6. その他 () |

(3) 住居を考える際に、新型コロナウイルス (COVID-19) のことを考慮されましたか。

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1. はい、考慮した | 2. いいえ、考慮しなかった→ (5) へ |
|------------|-----------------------|

(4) 【(3) で「1. はい、考慮した」と回答した方にお伺いします】

考慮したことの具体的な内容を教えてください。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 寮に住みたいが、感染が心配なのでやめるつもり
2. シェアハウスに住みたいが、感染が心配なのでやめるつもり
3. 感染対策の面で安心なので、大学の寮に住むつもり
4. 感染予防の視点で、賃貸マンションに住むつもり
5. 実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らすつもり
6. その他 ()

(5) 【(2) で「賃貸アパートやマンション」に○をつけた方にお伺いします】

1か月の家賃 (管理費込み) の予算をご記入ください。千円未満は四捨五入してください。

万 千円

(6) 【(2) で「2～6 (実家以外)」に○をつけた方にお伺いします】

1か月あたりの仕送り予定額 (授業料を含まない) についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

万円 0 仕送りはない

【全員の方に】

⑩=2

(7) 大学に入学後、頑張ろうと思う活動として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|---|
| 1. 大学の授業 | 4. 授業以外での勉強 | 7. ボランティア活動 | |
| 2. クラブ・サークル活動 | 5. 友達との交流 | 8. 留学 | ⑪ |
| 3. アルバイト活動 | 6. 趣味 | 9. その他 () | |
| | | 10. 特にない | |

(8) 【(8) で「アルバイト活動」に○をつけた方にお伺いします】

アルバイト活動をどの程度する予定ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|-----------------------|---|
| 1. 長期休暇期間（夏、冬、春休み）のみ | 5. 学期中に不定期的に、長期休暇期間にも | |
| 2. 学期中、不定期 | 6. その他 () | ⑫ |
| 3. 学期中、定期的に | 7. 未定 | |
| 4. 学期中に定期的に、長期休暇期間にも | | |

【全員の方に】

(9) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. ほぼ全額を保護者が負担予定 | |
| 2. 一部をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む） | ⑬ |
| 3. ほぼ全額をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む） | |

* (10) これまでに受けたことのある奨学金・学費免除などの制度がございましたら、その**すべて**について、該当の番号に○をして、具体的な名称および給付型・貸与型についてご記入ください。

	具体的な名称	給付・貸与	⑭
1.	日本学生支援機構の奨学金	1. 給付 2. 貸与	⑮⑯
2.	地方公共団体の奨学金	1. 給付 2. 貸与	⑰⑱
3.	学校独自の奨学金	1. 給付 2. 貸与	⑲⑳
4.	民間奨学団体の奨学金	1. 給付 2. 貸与	
5.	新聞社の奨学金	1. 給付 2. 貸与	
6.	その他の奨学金	1. 給付 2. 貸与	
7.	学費免除	1. 給付 2. 貸与	
8.	特待生	1. 給付 2. 貸与	

(16) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1. 経済的支援 | 5. 学習支援 | 9. その他 () |
| 2. 生活相談 | 6. 進路相談 | 10. 特にない |
| 3. 健康相談 | 7. 就職支援 | 11. わからない |
| 4. 心理相談 | 8. 課外活動支援 | |

IV. 将来の進路について、お聞きします。

* (1) 大学卒業後の進路について、どのような希望をもっていますか。

あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 民間企業に就職する | 5. 大学院などに進学する (海外含む) |
| 2. 公務員として就職する | 6. その他 () |
| 3. 教師などの専門職につく | 7. 決めていない |
| 4. 自営・起業など、1から3以外の形で仕事をする | |

(2) 大学卒業後のキャリアについて、どのように考えていますか。

あてはまる番号にそれぞれ**1つ**に○をつけてください。

考えたことがなく、今の時点でどうしても回答できない項目については、「今はわからない」に○をつけてください。

	そう思う	ある程度思う	そう思わない	今はわからない
・すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる	1	2	3	4
・すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない	1	2	3	4
・すぐに大学院などに進学する	1	2	3	4
・就職してから大学院への進学を考える	1	2	3	4
・資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	1	2	3	4
・卒業後すぐには就職しなくてもよい	1	2	3	4
・最初の就職先にできるだけ長く勤める	1	2	3	4
・何年かして転職や独立をする	1	2	3	4
・結婚・出産後も仕事を続ける	1	2	3	4

新入生生活調査

<2023 年度 入学予定者の保護者用>

(一般選抜合格者および私費外国人留学生)

ご子女が、お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、ご子女のお茶の水女子大学合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、ご子女のご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<https://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入してください。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入ください。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」や⑩などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・入学予定者の保護者不在の場合は保護者用調査票への回答は不要です。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、ご子女や保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただけたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2023年4月7日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 新生生活調査担当 (03-5978-2646) へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしく願いいたします。

【全員の方に】

(7) ご子女が大学に入学した後のご家庭の暮らし向きについて、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ゆとりがない 2. あまりゆとりがない 3. 多少ゆとりがある 4. ゆとりがある ⑱

* (8) ご家庭の世帯年収（学校に在学する者を除く同一世帯全員の年収。税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満 ⑳
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

* (9) 家計を主に支えている方の年収（税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

(10) 本学に入学予定のご子女への、1か月あたりの仕送り予定額についてご記入ください。
万円未満は四捨五入してください。

万円

0 仕送りはしない

(11) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
3. ほぼ全額をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

(12) 以下の奨学金などの制度について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(13) 以下の奨学金などの制度について、希望されるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 希望するものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(21) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|------------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () |
| | | 10. 特になし |

(22) ご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は

- | | | | |
|------------|------------|------------|-------|
| 1. 中学・高校 | 2. 高専 | 3. 専門学校・短大 | 4. 大学 |
| 5. 大学院（修士） | 6. 大学院（博士） | | |

母親は

- | | | | |
|------------|------------|------------|-------|
| 1. 中学・高校 | 2. 高専 | 3. 専門学校・短大 | 4. 大学 |
| 5. 大学院（修士） | 6. 大学院（博士） | | |

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

・皆様のご子女に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

・ご子女がお茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。

()

※受験番号はデータ整理の目的で使用します。本調査の回答は、個人が特定できるような形で公表することはありません。

・ご回答者とご子女との関係について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 1. 父親 | 2. 母親 | 3. その他（続き柄は：) |
|-------|-------|----------------|

ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）1/6

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
I.(1)		442	196	117	123	0
	学部		44.8%	26.7%	28.5%	0.0%
I.(2)	出身都道府県	442	198	118	126	0
	国内	99.5%	100.0%	98.3%	100.0%	0.0%
	海外	0.5%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(3)	家族構成	442	198	118	126	0
	父親	95.2%	94.4%	94.9%	96.8%	0.0%
	母親	99.1%	98.5%	100.0%	99.2%	0.0%
	兄	24.4%	23.2%	22.9%	27.8%	0.0%
	姉	22.2%	20.2%	22.9%	24.6%	0.0%
	弟	27.4%	30.8%	26.3%	23.0%	0.0%
	妹	27.1%	27.8%	30.5%	23.0%	0.0%
	祖父	32.6%	35.4%	28.0%	32.5%	0.0%
	祖母	41.9%	44.9%	39.0%	39.7%	0.0%
	夫	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
	息子	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
	娘	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%
	その他	0.9%	1.0%	0.0%	1.6%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(4)	兄弟姉妹人数	442	198	118	126	0
	1人	16.3%	17.2%	16.9%	14.3%	0.0%
	2人	58.8%	57.6%	60.2%	59.5%	0.0%
	3人	21.5%	21.2%	18.6%	24.6%	0.0%
	4人以上	3.4%	4.0%	4.2%	1.6%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)①	小学校受験の有無	442	198	118	126	0
	受験をした	7.5%	6.1%	11.9%	5.6%	0.0%
	受験をしていない	92.5%	93.9%	88.1%	94.4%	0.0%
	覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)②	小学校の設置者	442	198	118	126	0
	国立	3.6%	3.0%	4.2%	4.0%	0.0%
	公立	92.1%	92.4%	90.7%	92.9%	0.0%
	私立	2.9%	3.0%	4.2%	1.6%	0.0%
	海外	1.1%	1.0%	0.8%	1.6%	0.0%
	無回答	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)①	中学校受験の有無	442	198	118	126	0
	受験をした	39.6%	35.9%	50.0%	35.7%	0.0%
	受験をしていない	60.4%	64.1%	50.0%	64.3%	0.0%
	覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)②	中学校の設置者	442	198	118	126	0
	国立	5.7%	5.6%	4.2%	7.1%	0.0%
	公立	69.5%	73.2%	59.3%	73.0%	0.0%
	私立	24.0%	20.7%	34.7%	19.0%	0.0%
	海外	0.7%	0.0%	1.7%	0.8%	0.0%
	無回答	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(3)	高校受験の有無	442	198	118	126	0
	受験をした	69.0%	72.2%	60.2%	72.2%	0.0%
	受験をしていない	31.0%	27.8%	39.8%	27.8%	0.0%
	覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(8)	受験決定時期	339	142	94	103	0
	高校入学以前	10.3%	7.0%	20.2%	5.8%	0.0%
	高校1年	52.8%	53.5%	50.0%	54.4%	0.0%
	高校2年	33.0%	35.9%	26.6%	35.0%	0.0%
	高校3年4～8月	3.2%	2.8%	3.2%	3.9%	0.0%
	高校3年9～12月	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
	高校卒業以降	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(9)	第一志望	442	198	118	126	0
	はい	86.4%	90.9%	71.2%	93.7%	0.0%
	いいえ	13.6%	9.1%	28.8%	6.3%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(10)	高校卒業から大学入学までの間に経験したこと	442	198	118	126	0
	高卒後、他の高等教育機関に入学した	1.4%	0.0%	0.8%	4.0%	0.0%
	高卒後、フルタイムで働いた	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
	高卒後、浪人した	11.8%	11.1%	13.6%	11.1%	0.0%
	高卒後、海外留学をした	0.5%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	この中にはない	79.4%	80.3%	77.1%	80.2%	0.0%
	無回答	7.7%	8.6%	7.6%	6.3%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）2/6

		総数	学部				
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
Ⅲ.(1)	居住予定の都道府県	総数	442	198	118	126	0
		東京都	67.6%	67.7%	66.9%	68.3%	0.0%
		埼玉県	10.2%	7.6%	13.6%	11.1%	0.0%
		千葉県	7.2%	9.1%	3.4%	7.9%	0.0%
		神奈川県	11.8%	11.6%	13.6%	10.3%	0.0%
		その他の県	3.2%	4.0%	2.5%	2.4%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(2)	居住予定の住居	総数	442	198	118	126	0
		実家	60.2%	55.6%	66.1%	61.9%	0.0%
		実家以外の賃貸アパートやマンション	27.8%	32.8%	22.9%	24.6%	0.0%
		大学の寮(国際学生宿舎)	28.5%	31.8%	26.3%	25.4%	0.0%
		大学の寮(お茶大SCC)	6.8%	8.1%	6.8%	4.8%	0.0%
		大学以外の寮	4.8%	6.1%	2.5%	4.8%	0.0%
	その他	2.5%	3.0%	0.8%	3.2%	0.0%	
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(3)	住居を考える際 COVID-19への考慮	総数	442	198	118	126	0
		考慮した	4.5%	7.6%	1.7%	2.4%	0.0%
		考慮しなかった	94.8%	91.9%	97.5%	96.8%	0.0%
	無回答	0.7%	0.5%	0.8%	0.8%	0.0%	
Ⅲ.(4)	COVID-19について 考慮した内容	該当者	20	15	2	3	0
		寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	5.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なやめる	5.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
		感染対策の面で安心なので、大学の寮に住む	55.0%	60.0%	50.0%	33.3%	0.0%
		感染予防の視点で、賃貸マンションに住む	5.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
		実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らす	15.0%	13.3%	0.0%	33.3%	0.0%
	その他	15.0%	13.3%	0.0%	33.3%	0.0%	
	無回答	10.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(5)	家賃	該当者	123	65	27	31	0
		5万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		5～7万円台	60.2%	56.9%	70.4%	58.1%	0.0%
		8～9万円台	17.9%	15.4%	25.9%	16.1%	0.0%
		10～12万円台	17.1%	20.0%	3.7%	22.6%	0.0%
		13～14万円台	0.8%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	15万円以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	4.1%	6.2%	0.0%	3.2%	0.0%	
Ⅲ.(6)	仕送り額	該当者	200	100	46	54	0
		仕送りはない	8.0%	9.0%	4.3%	9.3%	0.0%
		5万円未満	7.5%	10.0%	6.5%	3.7%	0.0%
		5～7万円台	19.0%	18.0%	21.7%	18.5%	0.0%
		8～9万円台	10.5%	9.0%	17.4%	7.4%	0.0%
		10～12万円台	30.5%	29.0%	26.1%	37.0%	0.0%
	13～14万円台	3.0%	3.0%	0.0%	5.6%	0.0%	
	15万円以上	9.5%	12.0%	6.5%	7.4%	0.0%	
	無回答	12.0%	10.0%	17.4%	11.1%	0.0%	
Ⅲ.(7)	入学後の活動	総数	442	198	118	126	0
		大学の授業	98.6%	99.0%	98.3%	98.4%	0.0%
		クラブ・サークル活動	71.5%	72.2%	68.6%	73.0%	0.0%
		アルバイト活動	76.5%	73.7%	72.9%	84.1%	0.0%
		授業以外での勉強	60.4%	64.1%	61.0%	54.0%	0.0%
		友達との交流	76.5%	77.8%	75.4%	75.4%	0.0%
		趣味	54.1%	58.1%	54.2%	47.6%	0.0%
		ボランティア活動	26.2%	29.8%	16.1%	30.2%	0.0%
		留学	31.2%	38.4%	23.7%	27.0%	0.0%
	その他	1.4%	1.5%	0.0%	2.4%	0.0%	
	特にない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(8)	アルバイト活動予定	該当者	338	146	86	106	0
		長期休暇期間(夏、冬、春休み)のみ	2.7%	2.1%	5.8%	0.9%	0.0%
		学期中、不定期	2.4%	1.4%	3.5%	2.8%	0.0%
		学期中、定期的に	11.8%	9.6%	14.0%	13.2%	0.0%
		学期中に定期的に、長期休暇期間にも	56.8%	56.8%	48.8%	63.2%	0.0%
		学期中に不定期的に、長期休暇期間にも	9.2%	10.3%	11.6%	5.7%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	未定	16.9%	19.2%	16.3%	14.2%	0.0%	
	無回答	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	授業料の負担予定	総数	442	198	118	126	0
		ほぼ全額を保護者が負担予定	85.5%	84.8%	83.9%	88.1%	0.0%
		一部をあなたが負担予定	12.2%	13.1%	13.6%	9.5%	0.0%
		ほぼ全額をあなたが負担予定	2.3%	2.0%	2.5%	2.4%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）3/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(10)	受けたことのある奨学金	総数	442	198	118	126	0
		日本学生支援機構の奨学金	3.6%	3.5%	5.1%	2.4%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	1.8%	1.5%	1.7%	2.4%	0.0%
		学校独自の奨学金	1.4%	2.0%	1.7%	0.0%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	1.8%	1.5%	2.5%	1.6%	0.0%
		新聞社の奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他の奨学金	0.7%	0.5%	0.8%	0.8%	0.0%
		学費免除	1.1%	1.5%	1.7%	0.0%	0.0%
		特待生	2.3%	3.5%	0.8%	1.6%	0.0%
		無回答	89.6%	89.4%	87.3%	92.1%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-1	該当者	16	7	6	3	0
		記入あり	62.5%	57.1%	50.0%	100.0%	0.0%
	日本学生支援機構の奨学金	記入なし	37.5%	42.9%	50.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-2	該当者	8	3	2	3	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-3	該当者	6	4	2	0	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	学校独自の奨学金	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-4	該当者	8	3	3	2	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-5	該当者	0	0	0	0	0
		記入あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	新聞社の奨学金	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-6	該当者	3	1	1	1	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	その他の奨学金	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-7	該当者	5	3	2	0	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	学費免除	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的名称-8	該当者	10	7	1	2	0
		記入あり	60.0%	71.4%	0.0%	50.0%	0.0%
	特待生	記入なし	40.0%	28.6%	100.0%	50.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-1	該当者	16	7	6	3	0
		給与	37.5%	42.9%	33.3%	33.3%	0.0%
	日本学生支援機構の奨学金	貸与	43.8%	28.6%	50.0%	66.7%	0.0%
		両方	18.8%	28.6%	16.7%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-2	該当者	8	3	2	3	0
		給与	87.5%	100.0%	100.0%	66.7%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	貸与	12.5%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-3	該当者	6	4	2	0	0
		給与	83.3%	75.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	学校独自の奨学金	貸与	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-4	該当者	8	3	3	2	0
		給与	87.5%	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	貸与	12.5%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-5	該当者	0	0	0	0	0
		給与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	新聞社の奨学金	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-6	該当者	3	1	1	1	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	その他の奨学金	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-7	該当者	5	3	2	0	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	学費免除	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-8	該当者	10	7	1	2	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	特待生	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）4/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(11)	奨学金の認知	総数	442	198	118	126	0
		日本学生支援機構（第一種奨学金）	35.5%	37.9%	27.1%	39.7%	0.0%
		日本学生支援機構（第二種奨学金）	32.4%	33.8%	25.4%	36.5%	0.0%
		日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金）	8.6%	7.6%	5.9%	12.7%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	15.6%	14.1%	14.4%	19.0%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	14.5%	12.6%	13.6%	18.3%	0.0%
		みがかずば奨学金	28.1%	28.8%	17.8%	36.5%	0.0%
		桜蔭会奨学金（3年生向け）	6.8%	6.6%	6.8%	7.1%	0.0%
		育児支援奨学金	2.9%	3.0%	1.7%	4.0%	0.0%
		入学料免除制度	14.9%	14.1%	10.2%	20.6%	0.0%
		入学料徴収猶予制度	6.1%	6.6%	3.4%	7.9%	0.0%
		授業料免除制度	17.6%	18.2%	15.3%	19.0%	0.0%
		授業料徴収猶予制度	4.8%	5.1%	3.4%	5.6%	0.0%
		知っているものはない	38.9%	37.4%	50.0%	31.0%	0.0%
無回答	3.8%	3.5%	3.4%	4.8%	0.0%		
Ⅲ.(12)	知っている学生寮	総数	442	198	118	126	0
		国際学生宿舎	82.4%	85.4%	72.0%	87.3%	0.0%
		お茶大SCC	55.2%	57.1%	46.6%	60.3%	0.0%
		小石川寮（大学院生向け）	25.6%	27.8%	18.6%	28.6%	0.0%
		知らない	16.7%	14.1%	27.1%	11.1%	0.0%
無回答	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%		
Ⅲ.(13)	希望する学生寮	総数	442	198	118	126	0
		国際学生宿舎	31.9%	34.3%	29.7%	30.2%	0.0%
		お茶大SCC	7.7%	8.6%	6.8%	7.1%	0.0%
		小石川寮（大学院生向け）	0.5%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
		知らない	65.4%	62.1%	68.6%	67.5%	0.0%
無回答	1.8%	2.5%	0.8%	1.6%	0.0%		
Ⅲ.(14)	心配なこと	総数	442	198	118	126	0
		授業や単位	67.2%	65.2%	72.9%	65.1%	0.0%
		就職や将来	53.8%	55.1%	49.2%	56.3%	0.0%
		人間関係	47.1%	46.0%	48.3%	47.6%	0.0%
		生活・経済面	34.8%	37.9%	25.4%	38.9%	0.0%
		健康面	15.2%	19.7%	11.9%	11.1%	0.0%
		日常生活全般	29.0%	31.8%	23.7%	29.4%	0.0%
		その他	0.5%	0.5%	0.8%	0.0%	0.0%
		特にない	9.0%	7.6%	13.6%	7.1%	0.0%
無回答	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%		
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-1 友達ができるか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	31.7%	31.3%	28.0%	35.7%	0.0%
		ある程度あてはまる	36.7%	32.8%	39.8%	39.7%	0.0%
		あまりあてはまらない	21.7%	24.2%	20.3%	19.0%	0.0%
		あてはまらない	10.0%	11.6%	11.9%	5.6%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	68.3%	64.1%	67.8%	75.4%	0.0%
あてはまらない(計)	31.7%	35.9%	32.2%	24.6%	0.0%		
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-2 大学になじめるか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	26.9%	26.8%	22.9%	31.0%	0.0%
		ある程度あてはまる	35.7%	36.9%	35.6%	34.1%	0.0%
		あまりあてはまらない	26.9%	26.8%	28.0%	26.2%	0.0%
		あてはまらない	10.4%	9.6%	13.6%	8.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	62.7%	63.6%	58.5%	65.1%	0.0%
あてはまらない(計)	37.3%	36.4%	41.5%	34.9%	0.0%		
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-3 金銭面で負担がかからないか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	20.8%	25.3%	16.1%	18.3%	0.0%
		ある程度あてはまる	28.3%	27.8%	28.0%	29.4%	0.0%
		あまりあてはまらない	33.9%	32.3%	32.2%	38.1%	0.0%
		あてはまらない	17.0%	14.6%	23.7%	14.3%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	49.1%	53.0%	44.1%	47.6%	0.0%
あてはまらない(計)	50.9%	47.0%	55.9%	52.4%	0.0%		
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-4 授業についていけるか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	33.3%	36.9%	28.0%	32.5%	0.0%
		ある程度あてはまる	44.6%	38.9%	48.3%	50.0%	0.0%
		あまりあてはまらない	17.0%	18.2%	16.1%	15.9%	0.0%
		あてはまらない	5.2%	6.1%	7.6%	1.6%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	77.8%	75.8%	76.3%	82.5%	0.0%
あてはまらない(計)	22.2%	24.2%	23.7%	17.5%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）5/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-5 進級や卒業ができるか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	19.2%	17.7%	20.3%	20.6%	0.0%
		ある程度あてはまる	36.9%	34.8%	40.7%	36.5%	0.0%
		あまりあてはまらない	33.7%	36.4%	28.0%	34.9%	0.0%
		あてはまらない	10.0%	11.1%	10.2%	7.9%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	56.1%	52.5%	61.0%	57.1%	0.0%
		あてはまらない(計)	43.7%	47.5%	38.1%	42.9%	0.0%
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-6 将来の目標が見つかるか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	23.3%	25.3%	24.6%	19.0%	0.0%
		ある程度あてはまる	32.6%	28.8%	33.9%	37.3%	0.0%
		あまりあてはまらない	27.1%	27.8%	28.8%	24.6%	0.0%
		あてはまらない	17.0%	18.2%	12.7%	19.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	55.9%	54.0%	58.5%	56.3%	0.0%
		あてはまらない(計)	44.1%	46.0%	41.5%	43.7%	0.0%
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-7 卒業後ちゃんと就職できるか	総数	442	198	118	126	0
		あてはまる	28.3%	29.3%	26.3%	28.6%	0.0%
		ある程度あてはまる	41.2%	39.9%	39.0%	45.2%	0.0%
		あまりあてはまらない	21.3%	21.2%	24.6%	18.3%	0.0%
		あてはまらない	9.3%	9.6%	10.2%	7.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	69.5%	69.2%	65.3%	73.8%	0.0%
		あてはまらない(計)	30.5%	30.8%	34.7%	26.2%	0.0%
Ⅲ.(16)	期待する学生支援活動	総数	442	198	118	126	0
		経済的支援	24.9%	28.3%	22.9%	21.4%	0.0%
		生活相談	20.4%	21.2%	16.1%	23.0%	0.0%
		健康相談	11.5%	13.6%	9.3%	10.3%	0.0%
		心理相談	15.6%	18.7%	7.6%	18.3%	0.0%
		学習支援	71.9%	76.3%	70.3%	66.7%	0.0%
		進路相談	65.4%	72.2%	59.3%	60.3%	0.0%
		就職支援	76.7%	79.8%	69.5%	78.6%	0.0%
		課外活動支援	31.9%	34.8%	23.7%	34.9%	0.0%
		その他	0.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		特にない	1.1%	0.5%	3.4%	0.0%	0.0%
わからない	5.7%	4.0%	6.8%	7.1%	0.0%		
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅳ.(1)	大学卒業後の進路	総数	442	198	118	126	0
		民間企業に就職する	56.6%	61.1%	40.7%	64.3%	0.0%
		公務員になる	29.9%	39.4%	12.7%	31.0%	0.0%
		教師などの専門職につく	17.6%	24.2%	11.9%	12.7%	0.0%
		自営など、1から3以外の形で就職する	5.2%	6.1%	3.4%	5.6%	0.0%
		大学院などに進学する(海外含む)	45.2%	28.3%	76.3%	42.9%	0.0%
		その他	1.1%	1.0%	0.0%	2.4%	0.0%
		決めていない	15.8%	17.7%	15.3%	13.5%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-1 すぐに就職して最初から正社員・ 正規の職員になる	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	34.4%	41.4%	11.9%	44.4%	0.0%
		ある程度思う	29.9%	32.8%	26.3%	28.6%	0.0%
		そう思わない	16.1%	7.6%	35.6%	11.1%	0.0%
		今はわからない	19.5%	18.2%	25.4%	15.9%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-2 すぐに就職するが、正社員・正規 の職員にこだわらない	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	0.9%	0.5%	0.8%	1.6%	0.0%
		ある程度思う	9.7%	12.6%	6.8%	7.9%	0.0%
		そう思わない	67.2%	64.6%	68.6%	69.8%	0.0%
		今はわからない	21.7%	22.2%	22.9%	19.8%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-3 すぐに大学院などに進学する	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	23.5%	8.1%	53.4%	19.8%	0.0%
		ある程度思う	24.2%	22.2%	26.3%	25.4%	0.0%
		そう思わない	26.5%	41.4%	4.2%	23.8%	0.0%
		今はわからない	25.3%	27.8%	16.1%	30.2%	0.0%
		無回答	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-4 就職してから大学院への進学を 考える	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	1.4%	2.0%	0.8%	0.8%	0.0%
		ある程度思う	3.6%	3.5%	1.7%	5.6%	0.0%
		そう思わない	69.0%	64.1%	77.1%	69.0%	0.0%
		今はわからない	25.6%	30.3%	19.5%	23.8%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）6/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-5 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	2.9%	2.0%	0.8%	6.3%	0.0%
		ある程度思う	9.7%	9.1%	5.9%	14.3%	0.0%
		そう思わない	58.4%	58.6%	64.4%	52.4%	0.0%
		今はわからない	28.5%	30.3%	28.0%	26.2%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-6 卒業後すぐには就職しなくてもよい	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	5.7%	2.5%	13.6%	3.2%	0.0%
		ある程度思う	14.9%	13.1%	19.5%	13.5%	0.0%
		そう思わない	59.7%	66.7%	43.2%	64.3%	0.0%
		今はわからない	19.0%	17.7%	22.9%	17.5%	0.0%
		無回答	0.7%	0.0%	0.8%	1.6%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-7 最初の就職先にできるだけ長く勤める	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	16.5%	13.6%	23.7%	14.3%	0.0%
		ある程度思う	35.7%	38.4%	30.5%	36.5%	0.0%
		そう思わない	20.8%	21.7%	20.3%	19.8%	0.0%
		今はわからない	26.5%	26.3%	24.6%	28.6%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-8 何年かして転職や独立をする	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	5.0%	3.0%	7.6%	5.6%	0.0%
		ある程度思う	22.4%	21.2%	21.2%	25.4%	0.0%
		そう思わない	31.2%	32.3%	32.2%	28.6%	0.0%
		今はわからない	41.0%	43.4%	38.1%	39.7%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-9 結婚・出産後も仕事を続ける	総数	442	198	118	126	0
		そう思う	55.2%	55.1%	58.5%	52.4%	0.0%
		ある程度思う	27.1%	28.3%	23.7%	28.6%	0.0%
		そう思わない	1.1%	1.5%	0.8%	0.8%	0.0%
		今はわからない	16.3%	15.2%	16.1%	18.3%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%
IV.(3)	就職や将来への親の関与-a 父親	総数	442	198	118	126	0
		まったく関与しない	6.3%	6.1%	5.9%	7.1%	0.0%
		あまり関与しない	30.8%	29.3%	27.1%	36.5%	0.0%
		どちらとも言えない	11.3%	12.6%	10.2%	10.3%	0.0%
		まあまあ関与する	38.0%	36.9%	44.9%	33.3%	0.0%
		非常に関与する	9.3%	9.6%	8.5%	9.5%	0.0%
		父親はいない	4.3%	5.6%	3.4%	3.2%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
IV.(3)	就職や将来への親の関与-b 母親	総数	442	198	118	126	0
		まったく関与しない	4.3%	3.5%	5.1%	4.8%	0.0%
		あまり関与しない	24.0%	22.2%	24.6%	26.2%	0.0%
		どちらとも言えない	10.9%	11.6%	10.2%	10.3%	0.0%
		まあまあ関与する	44.8%	45.5%	41.5%	46.8%	0.0%
		非常に関与する	15.2%	15.7%	18.6%	11.1%	0.0%
		母親はいない	0.9%	1.5%	0.0%	0.8%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[データ活用の許可]		総数	442	198	118	126	0
		はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[個人情報登録の許可]		総数	442	198	118	126	0
		はい	98.0%	98.5%	97.5%	97.6%	0.0%
		いいえ	1.8%	1.5%	1.7%	2.4%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%
[受験番号]		総数	442	198	118	126	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[お茶大入試方法]		総数	442	198	118	126	0
		一般	76.2%	71.7%	78.8%	81.0%	0.0%
		一般(外)	0.5%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%
		推薦(帰国含む)・文教育学部	10.4%	23.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		推薦(帰国含む)・理学部	0.5%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%
		推薦(帰国含む)・生活科学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		総合型	10.0%	4.0%	14.4%	15.1%	0.0%
	高校	2.5%	1.0%	4.2%	3.2%	0.0%	
	編入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（保護者）1/4

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(1) 家計を支えている人	総数	433	194	114	124	0
	父親	90.1%	89.7%	88.6%	91.9%	0.0%
	母親	12.7%	11.3%	16.7%	11.3%	0.0%
	入学予定者本人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%
	無回答	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 家計を支えている人の職業	総数	433	194	114	124	0
	勤労者	86.6%	84.0%	83.3%	93.5%	0.0%
	個人営業	5.5%	7.7%	5.3%	2.4%	0.0%
	法人経営者、自由業者	5.8%	6.7%	7.0%	3.2%	0.0%
	農林水産業者	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.7%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%
	働いていない	0.7%	0.5%	1.8%	0.0%	0.0%
	無回答	0.7%	1.0%	0.0%	0.8%	0.0%
(3) 父親の職業	総数	433	194	114	124	0
	フルタイム勤務	84.5%	79.9%	84.2%	91.9%	0.0%
	パートタイム勤務	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	自営	8.5%	11.9%	7.9%	4.0%	0.0%
	無職	1.4%	1.5%	1.8%	0.8%	0.0%
	いない	4.2%	5.2%	5.3%	1.6%	0.0%
	無回答	1.2%	1.0%	0.9%	1.6%	0.0%
(4) 父親の職種	該当者	366	155	96	114	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	16.1%	15.5%	13.5%	19.3%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	16.4%	16.1%	13.5%	19.3%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など)	39.1%	34.8%	54.2%	32.5%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	12.3%	15.5%	6.3%	12.3%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	7.4%	5.8%	6.3%	10.5%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	0.8%	1.3%	0.0%	0.9%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	1.1%	1.9%	0.0%	0.9%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	1.4%	0.6%	3.1%	0.9%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	2.5%	5.2%	0.0%	0.9%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)	1.4%	0.6%	2.1%	1.8%	0.0%
	その他	1.1%	1.3%	1.0%	0.9%	0.0%
	無回答	0.5%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	(5) 母親の職業	総数	433	194	114	124
フルタイム勤務		38.3%	37.6%	43.9%	34.7%	0.0%
パートタイム勤務		32.1%	32.5%	25.4%	37.1%	0.0%
自営		6.2%	6.2%	7.0%	5.6%	0.0%
無職		20.3%	20.1%	21.9%	19.4%	0.0%
いない		0.9%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		2.1%	1.5%	1.8%	3.2%	0.0%
(6) 母親の職種	該当者	166	73	50	43	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	35.5%	35.6%	32.0%	39.5%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	4.8%	6.8%	2.0%	4.7%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など)	6.0%	5.5%	12.0%	0.0%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	42.2%	38.4%	40.0%	51.2%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	1.8%	0.0%	4.0%	2.3%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	1.8%	2.7%	2.0%	0.0%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	3.6%	4.1%	4.0%	2.3%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	1.2%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)	1.2%	1.4%	2.0%	0.0%	0.0%
	その他	1.2%	1.4%	2.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	(7) 入学後の暮らし向き	総数	433	194	114	124
ゆとりがない		12.2%	14.4%	10.5%	10.5%	0.0%
あまりゆとりがない		42.0%	40.7%	39.5%	46.0%	0.0%
多少ゆとりがある		35.3%	33.5%	41.2%	33.1%	0.0%
ゆとりがある		9.0%	10.8%	7.9%	7.3%	0.0%
無回答		1.4%	0.5%	0.9%	3.2%	0.0%
(8) 世帯年収	総数	433	194	114	124	0
	400万円未満	6.2%	7.2%	7.0%	4.0%	0.0%
	400万円以上600万円未満	8.8%	9.8%	6.1%	9.7%	0.0%
	600万円以上800万円未満	9.9%	10.3%	10.5%	8.9%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	21.5%	23.7%	21.1%	18.5%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	21.5%	17.0%	22.8%	26.6%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	12.5%	13.4%	12.3%	11.3%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	6.7%	5.7%	5.3%	9.7%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	3.5%	2.6%	4.4%	4.0%	0.0%
	1800万円以上	7.9%	8.8%	8.8%	5.6%	0.0%
無回答	1.6%	1.5%	1.8%	1.6%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表（保護者）2/4

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(9) 家計を支えている人の年収	総数	433	194	114	124	0
	400万円未満	8.8%	8.2%	10.5%	8.1%	0.0%
	400万円以上600万円未満	11.5%	13.9%	7.9%	11.3%	0.0%
	600万円以上800万円未満	23.1%	25.3%	24.6%	18.5%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	22.4%	23.7%	18.4%	23.4%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	16.6%	13.4%	17.5%	21.0%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	6.5%	3.6%	9.6%	8.1%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	3.0%	2.6%	4.4%	2.4%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	2.5%	2.6%	2.6%	2.4%	0.0%
	1800万円以上	4.2%	4.6%	3.5%	4.0%	0.0%
	無回答	1.4%	2.1%	0.9%	0.8%	0.0%
(10) 仕送り額(万円)	総数	433	194	114	124	0
	仕送りはしない	56.6%	52.6%	59.6%	59.7%	0.0%
	5万円未満	4.2%	4.1%	5.3%	3.2%	0.0%
	5～7万円台	9.7%	10.8%	7.9%	9.7%	0.0%
	8～9万円台	4.6%	4.1%	7.0%	3.2%	0.0%
	10～12万円台	16.6%	19.6%	13.2%	15.3%	0.0%
	13～14万円台	1.2%	0.5%	0.9%	2.4%	0.0%
	15万円台以上	4.8%	5.7%	2.6%	5.6%	0.0%
		無回答	2.3%	2.6%	3.5%	0.8%
(11) 授業料の負担予定	総数	433	194	114	124	0
	ほぼ全額を保護者が負担予定	86.4%	86.1%	85.1%	87.9%	0.0%
	一部をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)	10.4%	11.3%	10.5%	8.9%	0.0%
	ほぼ全額をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)	3.0%	2.6%	3.5%	3.2%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%
(12) 奨学金の認知	総数	433	194	114	124	0
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	64.7%	64.4%	64.9%	65.3%	0.0%
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	58.2%	57.2%	57.9%	60.5%	0.0%
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	12.0%	12.4%	10.5%	12.9%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	19.9%	16.0%	20.2%	25.8%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	23.6%	21.6%	27.2%	23.4%	0.0%
	みがかずば奨学金	22.9%	23.7%	16.7%	27.4%	0.0%
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	7.2%	5.2%	7.0%	10.5%	0.0%
	育児支援奨学金	3.2%	3.1%	3.5%	3.2%	0.0%
	入学料免除制度	24.7%	26.3%	18.4%	28.2%	0.0%
	入学料徴収猶予制度	13.2%	12.4%	7.0%	20.2%	0.0%
	授業料免除制度	25.6%	26.8%	17.5%	31.5%	0.0%
	授業料徴収猶予制度	12.2%	11.3%	7.9%	17.7%	0.0%
	知っているものはない	24.0%	23.7%	24.6%	23.4%	0.0%
	無回答	1.2%	0.5%	3.5%	0.0%	0.0%
(13) 奨学金の希望	総数	433	194	114	124	0
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	13.6%	13.9%	11.4%	15.3%	0.0%
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	10.6%	11.9%	7.9%	11.3%	0.0%
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	2.5%	2.1%	2.6%	3.2%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	6.9%	7.2%	5.3%	8.1%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	16.4%	16.0%	15.8%	17.7%	0.0%
	みがかずば奨学金	11.3%	10.3%	8.8%	15.3%	0.0%
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	11.8%	8.8%	10.5%	17.7%	0.0%
	育児支援奨学金	1.2%	1.0%	0.9%	1.6%	0.0%
	入学料免除制度	6.2%	6.2%	7.9%	4.8%	0.0%
	入学料徴収猶予制度	2.3%	1.5%	1.8%	4.0%	0.0%
	授業料免除制度	9.0%	7.7%	10.5%	9.7%	0.0%
	授業料徴収猶予制度	2.3%	1.0%	2.6%	4.0%	0.0%
	希望するものはない	56.4%	58.8%	51.8%	56.5%	0.0%
	無回答	6.5%	5.2%	12.3%	3.2%	0.0%
(14) 知っている学生寮	総数	433	194	114	124	0
	国際学生宿舎	71.4%	76.8%	57.0%	76.6%	0.0%
	お茶大SCC	44.8%	51.5%	35.1%	43.5%	0.0%
	小石川寮(大学院生向け)	24.7%	26.8%	21.9%	24.2%	0.0%
	知らない	27.5%	23.2%	39.5%	22.6%	0.0%
	無回答	0.7%	0.0%	1.8%	0.8%	0.0%
(15) 入寮を希望する学生寮	総数	433	194	114	124	0
	国際学生宿舎	35.6%	39.7%	29.8%	34.7%	0.0%
	お茶大SCC	11.3%	12.4%	11.4%	9.7%	0.0%
	小石川寮(大学院生向け)	1.6%	0.5%	2.6%	2.4%	0.0%
	特にない	59.4%	54.6%	63.2%	62.9%	0.0%
	無回答	3.0%	3.6%	3.5%	1.6%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（保護者）3/4

		総数	学部			無回答
			文教育学部	理学部	生活科学部	
(16) 居住予定の住居	総数	433	194	114	124	0
	実家	60.5%	56.2%	67.5%	60.5%	0.0%
	実家以外の賃貸アパートやマンション	26.3%	29.9%	21.1%	25.8%	0.0%
	大学の寮(国際学生宿舎)	27.7%	30.4%	26.3%	25.0%	0.0%
	大学の寮(お茶大SCC)	6.7%	7.7%	7.9%	4.0%	0.0%
	大学以外の寮	5.5%	6.7%	4.4%	4.8%	0.0%
	その他	2.1%	2.6%	0.9%	2.4%	0.0%
	無回答	0.7%	0.5%	0.9%	0.8%	0.0%
(17) 住居を考える際COVID-19への考慮	総数	433	194	114	124	0
	考慮した	14.3%	15.5%	12.3%	14.5%	0.0%
	考慮しなかった	84.3%	84.5%	85.1%	83.1%	0.0%
	無回答	1.4%	0.0%	2.6%	2.4%	0.0%
(18) COVID-19について考慮した内容	該当者	62	30	14	18	0
	寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	6.5%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%
	シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なやめる	4.8%	0.0%	7.1%	11.1%	0.0%
	感染対策の面で安心なので、大学の寮に住む	53.2%	70.0%	42.9%	33.3%	0.0%
	感染予防の視点で、賃貸マンションに住む	8.1%	3.3%	7.1%	16.7%	0.0%
	実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らす	11.3%	16.7%	7.1%	5.6%	0.0%
	その他	21.0%	13.3%	28.6%	27.8%	0.0%
	無回答	4.8%	0.0%	14.3%	5.6%	0.0%
(19) 受験から入学までに困ったこと	総数	433	194	114	124	0
	子どもの体調や精神面のこと	65.1%	64.4%	68.4%	63.7%	0.0%
	受験・入学のための費用準備	34.9%	33.5%	36.0%	35.5%	0.0%
	受験・入学手続きのスケジュールの管理	58.9%	56.7%	58.8%	62.1%	0.0%
	入学後の住まい探し	32.1%	36.1%	26.3%	31.5%	0.0%
	その他	4.2%	4.1%	7.0%	1.6%	0.0%
(20) 心配なこと	総数	433	194	114	124	0
	授業や単位	35.6%	35.1%	36.0%	36.3%	0.0%
	就職や将来	47.1%	46.9%	43.9%	50.0%	0.0%
	人間関係	54.0%	54.1%	51.8%	56.5%	0.0%
	生活・経済面	33.7%	36.1%	25.4%	37.9%	0.0%
	健康面	50.8%	56.2%	39.5%	53.2%	0.0%
	日常生活全般	38.6%	42.8%	36.0%	34.7%	0.0%
	その他	1.8%	2.1%	3.5%	0.0%	0.0%
	特になし	12.7%	10.3%	14.0%	15.3%	0.0%
	無回答	0.9%	0.5%	0.0%	2.4%	0.0%
	(21) 期待する学生支援活動	総数	433	194	114	124
経済的支援		27.7%	27.3%	28.1%	28.2%	0.0%
生活相談		26.6%	30.9%	21.1%	25.0%	0.0%
健康相談		26.8%	27.8%	21.1%	30.6%	0.0%
心理相談		33.9%	34.0%	28.1%	39.5%	0.0%
学習支援		62.8%	66.5%	60.5%	59.7%	0.0%
進路相談		70.2%	66.0%	71.9%	75.8%	0.0%
就職支援		87.1%	88.1%	81.6%	90.3%	0.0%
課外活動支援		29.6%	32.0%	24.6%	30.6%	0.0%
その他		0.7%	0.0%	0.9%	1.6%	0.0%
特になし		1.4%	1.0%	3.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表（保護者）4/4

		総数	学部			無回答
			文教育学部	理学部	生活科学部	
(22) 両親の最終学歴・父親	総数	433	194	114	124	0
	中学・高校	11.5%	12.9%	8.8%	12.1%	0.0%
	高専	2.8%	2.1%	2.6%	4.0%	0.0%
	専門学校・短大	5.1%	4.6%	7.0%	4.0%	0.0%
	大学	62.6%	64.9%	58.8%	62.9%	0.0%
	大学院(修士)	9.7%	6.7%	14.0%	9.7%	0.0%
	大学院(博士)	6.7%	6.7%	7.0%	6.5%	0.0%
	無回答	1.6%	2.1%	1.8%	0.8%	0.0%
(22) 両親の最終学歴・母親	総数	433	194	114	124	0
	中学・高校	11.8%	11.3%	11.4%	12.9%	0.0%
	高専	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
	専門学校・短大	36.3%	39.2%	36.0%	32.3%	0.0%
	大学	46.9%	43.8%	48.2%	50.0%	0.0%
	大学院(修士)	3.2%	4.1%	2.6%	2.4%	0.0%
	大学院(博士)	0.9%	0.5%	0.9%	1.6%	0.0%
	無回答	0.7%	1.0%	0.9%	0.0%	0.0%
[データ活用の許可]	総数	433	194	114	124	0
	はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[個人情報登録の許可]	総数	433	194	114	124	0
	はい	94.0%	93.3%	94.7%	94.4%	0.0%
	いいえ	5.3%	6.7%	5.3%	3.2%	0.0%
	無回答	0.7%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
[受験番号]	総数	433	194	114	124	0
	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[お茶大入試方法]	総数	433	194	114	124	0
	一般	76.4%	72.2%	78.9%	80.6%	0.0%
	一般(外)	0.5%	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%
	推薦(帰国含む)・文教育学部	10.2%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・理学部	0.5%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・生活科学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総合型	9.9%	4.1%	14.0%	15.3%	0.0%
	高校	2.5%	1.0%	4.4%	3.2%	0.0%
	編入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[回答者の続柄]	総数	433	194	114	124	0
	父親	22.4%	24.2%	22.8%	18.5%	0.0%
	母親	76.9%	74.7%	77.2%	80.6%	0.0%
	その他	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%

令和5年度 新入生の生活に関する調査報告書

発行日：令和5年10月

発行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail ca-research@cc.ocha.ac.jp
